爺さん二人、田舎暮らし in カンボジア

目次

第 1 話　2016 年 07 月 05 日　まえがき 1
第 2 話　2016 年 07 月 06 日　ポーサットでの田舎暮らし 2
第 3 話　2016 年 07 月 07 日　宿舎での生活 3
第 4 話　2016 年 7 月 8 日　宿舎での生活(続)
第 5 話　2016 年 07 月 09 日　ポー散歩 4
第 6 話　2016 年 07 月 10 日　市場の人たち 5
第 7 話　2016 年 07 月 11 日　事務所とスタッフたち 6
第 8 話　2016 年 07 月 11 日　事務所とスタッフたち（続き）
第 9 話　2016 年 07 月 13 日　誇り高くないのは日本人だけ 8
第 10 話　2016 年 07 月 14 日　カンボジア人ってどうしてこうなの? 8
第 11 話　2016 年 07 月 15 日　カンボジア人ってどうしてこうなの? (続)
第 12 話　2016 年 07 月 16 日　事務上のフール・プルーフ 10
第 13 話　2016 年 07 月 17 日　工具と道具箱 11
第 14 話　2016 年 07 月 19 日　「パナシ」族 12
第 15 話　2016 年 07 月 21 日　なんじゃこりゃあ! 13
第 16 話　2016 年 07 月 22 日　なんじゃこりゃあ! (続)
第 17 話　2016 年 07 月 25 日　ポーサット付近 15
第 18 話　2016 年 07 月 26 日　新聞紙の謎 16
第 19 話　2016 年 07 月 27 日　地名の不思議 17
第 20 話　2016 年 07 月 28 日　地名の不思議（続）
第 21 話　2016 年 07 月 29 日　カンポン 19
第 22 話　2016 年 07 月 30 日　カンボジアのムスリム 20
第 23 話　2016 年 08 月 02 日　カンボジアのムスリム（続）
第 24 話　2016 年 08 月 04 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係 22
第 25 話　2016 年 08 月 08 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）
第 26 話　2016 年 08 月 09 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）
第 27 話　2016 年 08 月 10 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）
第 28 話　2016 年 08 月 11 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）
第 29 話　2016 年 08 月 12 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）
第 30 話　2016 年 08 月 14 日　カンボジアでインドネシア語が 27
第 31 話　2016 年 08 月 15 日　カンボジアでインドネシア語が（続）
第 32 話　2016 年 08 月 15 日　国立博物館訪問 30
第 33 話　2016 年 08 月 16 日　国立博物館訪問（続）
第 34 話　2016 年 08 月 17 日　カンボジアの鉄道 31

第 35 話　2016 年 08 月 18 日　カンボジアの鉄道（続）
第 36 話　2016 年 08 月 20 日　カンボジアの鉄道（続）
第 37 話　2016 年 08 月 21 日　カンボジアの鉄道（続）
第 38 話　2016 年 08 月 27 日　心霊治療とカンボジアの神棚 34
第 39 話　2016 年 08 月 28 日　心霊治療とカンボジアの神棚（続）
第 40 話　2016 年 08 月 28 日　T 君の不思議な能力（1） 36
第 41 話　2016 年 08 月 29 日　T 君の不思議な能力（2）
第 42 話　2016 年 09 月 01 日　T 君の不思議な能力（3）
第 43 話　2016 年 09 月 14 日　墓地 38
第 44 話　2016 年 09 月 16 日　墓地（続）
第 45 話　2016 年 09 月 21 日　イスラム墓地と子供たち 41
第 46 話　2016 年 09 月 22 日　ポルポト時代の灌漑設備 42
第 47 話　2016 年 09 月 24 日　カンボジアの現代史 43
第 48 話　2016 年 09 月 25 日　ATM 44
第 49 話　2016 年 10 月 03 日　アンコールワット旅行　その一　トンレサップ湖北岸の謎とき 45
第 50 話　2016 年 10 月 04 日アンコールワット旅行 45
第 51 話　2016 年 10 月 04 日アンコールワット旅行　シェムリアップまで 46
第 52 話　2016 年 10 月 06 日アンコールワット旅行　シェムリアップまで
第 53 話　2016 年 10 月 08 日アンコールワット旅行　シェムリアップまで
第 54 話　2016 年 10 月 08 日アンコールワット旅行　シェムリアップまで
第 55 話　2016 年 10 月 10 日　アンコールワット探訪 49
第 56 話　アンコールワット探訪写真集 50
第 57 話　2016 年 10 月 13 日　シェムリアップ珍道中 93
第 58 話　2016 年 10 月 14 日　B 君の釣果を 94
第 59 話　2016 年 10 月 15 日　バンテアイスレイ 94
第 60 話　2016 年 10 月 16 日　中華学校 94
第 61 話　2016 年 10 月 18 日　華人の移住 95
第 62 話　2016 年 10 月 18 日　カンボジアの水田とコメ 96
第 63 話　2016 年 10 月 20 日　混然一体のカンボジア人 97
第 64 話　2016 年 10 月 21 日　市場でも多数の華人とチャム人が商売をしています。 97
第 65 話　2016 年 10 月 22 日　市場の美少女が 98
第 66 話　2016 年 10 月 23 日　カンボジア華人 98
第 67 話　2016 年 10 月 24 日　華人にとって住みやすいカンボジア 99
第 68 話　2016 年 10 月 27 日　中国企業の進出 100
第 69 話　2016 年 10 月 27 日　カンボジア人のしぐさ 101
第 70 話　2016 年 10 月 28 日　カンボジア人のしぐさ（続）
第 71 話　2016 年 12 月 21 日　チャム語とインドネシア語 102
第 72 話　2017 年 01 月 04 日　チャム語とインドネシア語（続）

第 73 話　2017 年 03 月 06 日　乗用車はトヨタカムリばかり 105
第 74 話　2017 年 03 月 14 日　地下水のはなし 106
第 75 話　2017 年 05 月 23 日　「Common sense ってどういう意味?」とカンボジア人のスタッフが尋ねてきた 106
第 76 話　2017 年 07 月 03 日　じゃんけんぽん 107
第 77 話　2017 年 10 月 17 日　田舎で和食を 108
第 78 話　2017 年 10 月 23 日　フレンチトースト 109
第 79 話　2018 年 03 月 24 日　タイへ陸路で出張 110
第 80 話　2018 年 03 月 24 日　おばちゃんは腰巻一つだけ 112
第 81 話　2018 年 04 月 11 日　クメール文字とタイ文字のレタリング 113
第 82 話　2018 年 05 月 04 日　東南アジア諸言語の比較 114
第 83 話　2018 年 05 月 16 日　東南アジア諸言語の比較（続）
第 84 話　2018 年 10 月 24 日　カンボジアの民族音楽 118
第 85 話　2018 年 10 月 31 日　インドネシアの呪術がカンボジアまで? 118
第 86 話　2018 年 10 月 31 日　カンボジアの黒魔術 120
第 87 話　2018 年 11 月 04 日　カンポンチュナンの陶器窯 121
第 88 話　2018 年 11 月 05 日　カンポンチュナンの陶器窯　続き
第 89 話　2018 年 11 月 10 日　廃棄された取水堰 125
第 90 話　2018 年 11 月 25 日　カンポン=港 126
第 91 話　2018 年 12 月 02 日　海外の自転車 127
第 92 話　2019 年 03 月 07 日　B 君の復帰 127
第 93 話　2019 年 03 月 17 日　ありゃあ国際便に乗り遅れてしまった 128
第 94 話　2019 年 07 月 19 日　今回はバンコク経由で帰国 131
第 95 話　2019 年 10 月 20 日　プロジェクト終了 132
第 96 話　2019 年 12 月 11 日　今度はミャンマーへ 133
第 97 話　2019 年 12 月 13 日　ミャンマー点描 134
第 98 話　2019 年 12 月 17 日ミャンマー点描 136
第 99 話　2019 年 12 月 19 日　インドシナの人たちの名前 138
第 100 話　2019 年 12 月 19 日　ポルポトの大虐殺 139
第 101 話　2019 年 12 月 30 日インドシナ諸国の歴史 141

爺さん二人、田舎暮らし in カンボジア

第 1 話　2016 年 07 月 05 日　まえがき

ここに登場する爺さんは二人とも 67 歳の日本人のエンジニアで、別な部署とはいえ同期入社で昔からの知り合いの仲良しです。この二人とも海外生活が 30 年以上の「古だぬき」です。もっとも、この二人は腹が出ているからそう呼ばれてもしょうがないのですが。

一人目は B 君、もう一人は T 君としておきましょう。この二人は 2005 年から 2006 年までインドネシアの同じプロジェクトで技術コンサルタントとして約一年働いていましたから、お互いの性格と能力は熟知した間柄で、お互いに信頼できる相手です。

B 君は頭脳明晰で、感情を表に出さず、忍耐強く、粗衣粗食に耐えられる典型的な薩摩隼人です。一方の T 君は頭脳やや明晰ですが、五感と第六感が優れているものの感情がすぐに顔に出て、忍耐力に乏しく、粗食するなら自分で料理するほうが良いという江戸っ子なんです。この二人の爺さんは性格こそまるで正反対ですが、どこか心の奥底でつながっているように感じられて、自分では到底できない相手の行動を尊重しあっているように見えます。

右からB君とT君

B 君は 2016 年 4 月までカンボジアの首都のプノンペンで灌漑プロジェクトの設計計画と工事契約の調整のために数年間過ごしていました。その年の 5 月から灌漑プロジェクトの工事が始まるので、B 君は現場近くの Pursat(ポーサット)町に引っ越しをしました。工事の開始に伴って、色々な専門家が必要となるので、B 君は水門の専門家である旧知の T 君に声をかけて現場に来てもらい、表題の「爺さん二人、田舎暮らし in カンボジア」が 2016 年 5 月 11 日から始まりました。

第 2 話　2016 年 07 月 06 日　ポーサットでの田舎暮らし

このポーサットの町は首都のプノンペンとカンボジア西部の都市バッタンバンの中間に位置する、観光地もない農村地域です。また、トンレサップ湖の南岸に位置し、古代のトンレサップ湖の湖底であったため、勾配がほとんどない平坦な地域。この地域は降雨量も少なく灌漑設備も整備されていないために乾季の作付ができず、農業収入の少ない貧しい地域です。

街道沿いの典型的な高床式住宅

Pursat付近の農耕地

さて、B 君は町はずれにある一軒家を借りて宿舎としました。電気と水道は通っているのですが、最初の一か月間は電圧が低いためにエアコンも動かず、睡眠不足が続きました。一方の T 君は町にあるホテルに滞在していたので、高温による寝不足にはかかりませんでした。この宿舎には家主所有のカンボジア式の家具がたくさんありましたが、どれも硬くてこの二人の体形に合うものはありませんでした。

B 君の宿舎の周りでは毎週誰かが死んでいたようで、よっぴいても音楽やら読経の音が流れていました。

人口がそれほど過密でない住宅地でも乾季の暑さのゆえに毎週葬式を出す人がいるのだろうかというのが B 君の疑問でした。またカンボジアのお経は日本のお経とメロディーがよく似ていると T 君が言っていました。

第 3 話　2016 年 07 月 07 日　宿舎での生活

B 君は宿舎での洗濯と掃除のために二人のカンボジア女性をプノンペンから連れてきました。引っ越した当初は、B 君が自炊をしていたのですが、五月の末から仕事が忙しく、帰宅できるのが毎日夜七時頃になってしまったために、自炊ができなくなってしまいました。そこで、この女性たちのうちの年上の人に賄いまで頼む羽目になってしまいました。この賄いのおばちゃんは料理こそできるのですが、すべてカンボジア料理ばかり。B 君も T 君も最初は日本料理を食べたいといっていたのですが、このおばちゃんが頑として聞こうとしませんし、教えても全く覚えようとしません。それに一言何かを言うと、まくしたてるめちゃくちゃ英語を理解することにも疲れ果てて、放任せざるを得なくなってしまいました。

ただ、このおばちゃん、ポーサットで唯一覚えたことが酒の味で、T 君が買ってきたラム酒でラムコークを作ってニヤニヤしながらうれしそうに飲んでいます。T 君が別に買ってきたブランデーとウオッカにはまだを伸ばしていませんがそのうち味をしめて飲まれてしまうのではないでしょうか。

このおばちゃんは金遣いが荒いためにいつでもピーピーしています。結婚式に招かれると月給の半分に相当するお祝儀を渡してしまうほどの「計画性のなさ」なのです。ですから、B 君には毎日「Ten Dollar! Ten Dollar!」というのが日課になっています。このおばちゃんの英語がとても大したもので、I don't know を「知らない」という意味に理解しているので、「あなたは知らない」が You, I don't know になるのです。また口癖のように「Mr. B, no good lah」といっています。他人を悪く言わないと生きていけないからなのかもしれませんし、好きという表現の裏返しなのかもしれません。先日この人たちと買い物に行って食事をしたとき、おばちゃんが料理を指さして Good lah というので、T 君は返す言葉で自分を指さして Pay, No goodlah と。おばちゃんがニヤッとしたすきを逃さず、おばちゃんを指さして No Pay, very goodlah と。これにはさすがのおばちゃんでも返す言葉がありませんでした。

第 4 話　2016 年 7 月 8 日　宿舎での生活(続)

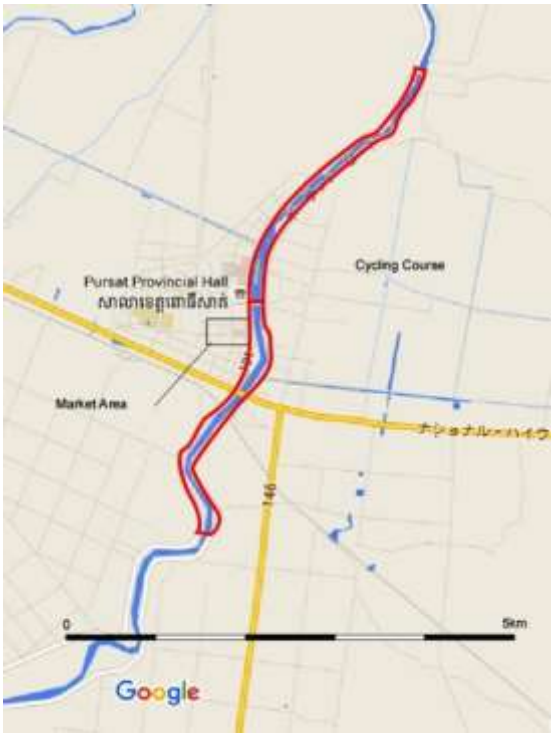
左からからおねえちゃんと
おばちゃん

もう一人の女性はまだ 21 歳のおねえちゃんで、おばちゃんとは全て正反対です。おばちゃんは肉付きがよく、毎日 B 君に文句を言ってばかり。一方のおねえちゃんはスマートな上に B 君にもおばちゃんにもあまり話しかけることをせず、黙々と仕事をこなしています。この爺さんたちはカンボジアの国語であるクメール語が全く話せず、おばちゃんとおねえちゃんは実に片言の英語しかできませんので、毎日の会話は齟齬だらけです。しかしながら、B 君の鷹揚な性格でどうにかもちこたえている毎日です。おねえちゃんは六月末から英語学校に通い始めましたので、ちゃんとした英語が話せるようになることを二人の爺さんは楽しみにしています。

第 5 話　2016 年 07 月 09 日　ポー散歩

B 君は趣味が海釣りで他には趣味がなく「趣味は仕事」と言えるほどです。一方の T 君は趣味の幅が広く、あちこちふらつくのが大好きで、色々なものに興味を持っていて、夕食の際に B 君に新しい話題を提供しています。念のために言っておきますが、T 君は仕事をせずに遊んでいるのではなく、余裕をいつも持っているのでそう見えるだけです。仕事だって一人前以上のことをやっているんですよ。

T 君は「フーテンの寅さん」的性格ですので、着任してすぐポーサットの町で中古のサイクリング車を買いました。町の中の自転車屋ではママチャリが約$50 で、日本から輸入された放置自転車と中国製かベトナム製の新品の自転車の値段はほとんど同じでした。T 君は変速ギヤ付きのサイクリング車を探して町中の自転車屋を探し回った挙句、兵庫県警の防犯登録が入った元放置自転車を$90 で買いました。同じ店でアルミフレームのベトナム製の新車は$400 でしたし、T 君の真似をして同じように中古自転車を買った友人は同程度のもので$120 だったそうですからこの自転車は良い買い物だったのかもしれません。



この中古自転車で、毎朝 T 君は町の内外を走り回っていました。いつものコースは町を貫流するポーサット川に沿って走る約 10km のコースです。ポーサットの町から下流側の約 3km 地点までは交通量がやや多いのですが、それ以外は交通量が少ないため排気ガスもないきれいな空気の中をサイクリングできます。ただ、道路にある牛の糞と犬の糞を踏まないようなハンドルさばきが必要です。全行程で標高差は数メートルしかありませんから、筋力トレーニングには全くなりません。

第 6 話　2016 年 07 月 10 日　市場の人たち

T 君の通常サイクリングコースの中には毎週末の市場訪問も入っていたので、ポーサットの町の市場と商店街にある商店の種類や商品について、プノンペンから連れてきたカンボジア人より詳しくなってしまいました。毎週末の市場見学では物売りの女性たちの写真を撮ってはその写真を「モデル」にプレゼントしていたので、T 君は市場ではちょっと知られるようになりました。下の左上端の写真は、自分が写っている写真をもらってまんざらでもない八百屋のおばちゃんです。

自分で撮影した写真を見て、カンボジア人には歯並びと肌のきれいな人が少ない、と T 君はぼやいていました。飢餓の中で育ったから栄養が偏っているのではないかというのが B 君の感想でした。カンボジアではこれから基礎化粧品ビジネスが儲かるのではないかと T 君は言っていましたが、B 君ともども「女偏」ビジネスには全く疎いので、この話は言いっぱなしになっています。

第 7 話　2016 年 07 月 11 日　事務所とスタッフたち

さて、爺さんたちが働いている事務所は、町はずれに近い場所にあるクライエントの事務所の隣にあり、B 君の家から 600m 離れた場所にあります。最初の頃は静かでよかったのですが、六月から事務所の隣にアルミ建具の町工場ができてしまい、グラインダーの音が事務所まで聞こえてきます。夕方になるとこの町工場では大音量でカンボジアの流行歌をかけますので、それも事務所まではっきりと聞こえてきます。それにもましてひどいのは事務所の前が広い構内を有したカンボジア赤十字の地方事務所でした。毎週末には

結婚披露宴が行われていました。披露宴には音楽バンドがつきものですから、朝 10 時を過ぎるとマイクテストと称して大音量で音楽を流してきます。何時間もマイクテストを行う必要がないのにずっと音楽をかけているということは、椅子やテーブルをセッティングしている人たちへのサービスなのかもしれません。

この披露宴があると、T 君の泊まっているホテルのロビーには美しく着飾ったカンボジア人をたくさん見かけます。この人たちの中には美人を見かけたことがないというのが T 君の報告でした。プノンペンに長い B 君も同様に感じているようです。

第 8 話　2016 年 07 月 11 日　事務所とスタッフたち（続き）

事務所では直接雇用の事務系と技術系スタッフ、それに現地の技術コンサルタントから派遣されてきた技術系スタッフの合計約 20 人が働いています。直接雇用にせよ、派遣されたスタッフにせよ、話が頓珍漢で意思の疎通が不十分なので、B 君が毎日嘆いています。話が頓珍漢なのは、英語の表現力が不足しているのだと第三者は言いますが、これはとんでもないシロートの言いぐさであって、仕事の内容と進め方がわかっていないことがその真実の理由です。このことを B 君も T 君もよくわかっているのですが、毎日の会話における意思疎通の齟齬(基本的常識の欠如)でストレスがたまる一方です。事務系スタッフも事務についてよく知らないためと不注意のため小さな問題が山積していますが、これは仕事に慣れてくるにつれ、徐々に改善してくことでしょう。

現地コンサルタントから派遣されたスタッフたちの出来があまりに悪いばかりか必要な数のスタッフまでそろえられないため、責任者の B 君はその会社の社長と何度かネゴをしたのですが、すべて不調に終わりました。直接雇用のスタッフたちはカンボジア人ですが現地コンサルタントから派遣されたカンボジア人スタッフよりずっと気が利いて仕事ができるのです。ということは「カンボジア人にも仕事ができる人はいるが、現地コンサルタントは彼らを雇用できない」ということに他なりません。すなわちこの会社は有能な人間を集める能力がないということです。B 君とこの会社の社長との間で、スタッフの派遣について喧々諤々の討論をしてついには感情のしこりまでできてしまいました。T 君の観察では、現地コンサルタント側が契約義務不履行をしたがゆえに感情のしこりが生じたのです。

第 9 話　2016 年 07 月 13 日　誇り高くないのは日本人だけ

そこで本社から O 君という若い人、といってもこの爺さんたちより約 20 歳後輩のオジサン、がやってきてこの問題の調停をしようとしたのですが、双方とも一歩も引かず調停失敗。この O 君と T 君が帰国する際の現場からプノンペンまでの車内はこの話でもちきりでした。

O 君いわく「カンボジア人は誇り高いから、それを傷つけてはいけない」と。

それに対して T 君は「仕事の実力がないから、学歴などを誇るしか差別化する方法がないんだ。それがなかったらただの無能なおっさんだからだよ。」「O 君、しっていますか? 誇り高いと見せるのはカンボジア人だけではなく、世界では日本人以外のすべてということを。日本人は黙っていても仕事ができるオーラが出ているからわざわざ自分の能力を過大に見せる必要がないのだ」と。「B 君は、この典型的な日本人でしょ。だから今までどこの国に行っても彼は高い評価を受けてきたことをご存知でしょう」と。O 君は黙ってしまいました。

B 君は英語なりインドネシア語の自分の言葉が伝わる地域では、思う存分自分の力量を発揮できるのですが、頓珍漢カンボジア英語(カングリッシュ)の世界ではその実力が発揮できず、極めて残念だと言わざるを得ません。

第 10 話　2016 年 07 月 14 日　カンボジア人ってどうしてこうなの?

カンボジア人の男女スタッフの行動を見ていると、女性の方がよりよく理解して仕事をしていると、この二人の爺さんは感じています。事務所の技術系スタッフのほとんどが男性ですから、仕事の進み方は「推して知るべし」なのです。

この傾向はこの二人の爺さんたちが働いていたインドネシアでも見られたことに二人は気づきました。鋭い観察眼と理論づけ(ほとんどが屁理屈です)が得意な T 君は「この国の人たちは女性が男性的な脳をもち、男性が女性的な脳を持っている傾向にある」と宣言しました。これはアンケートなどの調査を行ってみない

と結論付けられないとのことですが、彼らの行動パターンを見ているとそう感じられるということです。日本人の大多数は男女を問わず全体的にやや男性的な脳を持っているようです。日本人女性はやや女性的、日本人男性はやや男性的な傾向にありますが、日本人の場合には他の民族とは異なり例外が多いようで、超男性的な脳を持つ日本人女性をたくさん見かけたことがあり、この女性たちは外国人と結婚している人が多いという傾向にあるとＴ君は言っています。そこで、Ｔ君は「カンボジア人男性と話すときはオバサンと話しているのだと考えて、決して話し相手が男性であると考えてはならない。寡黙な男を女は怖がるのだから、昼休みに雑談して彼らと打ち解けようとするのが良い」と完璧な男脳のＢ君に忠告を与えたことがありました。

Ｔ君の観察によると、カンボジア人は聞くよりも話すことを好むということです。これは、「彼らには話を聞く能力がない」ということに他なりません。彼らに問いかけても、その質問に対して Yes, no の回答がなく、自分の考えや感想をまくしたてますが、それもまたへたくそな英語の発音ですから、10%も聞き取れたらよい方で、時間の無駄になるだけです。これも女性的な脳とその特徴、あえて言えば PTA のおばさん的な行動パターンです。Ｂ君はその生来の忍耐力でこのストレスに耐えていますが、Ｔ君はすぐに切れてしまいます。

第 11 話　2016 年 07 月 15 日　カンボジア人ってどうしてこうなの?（続）

世界的に見ると、男性が女性脳を持っている人が多い地域は中近東です。ですから、この地域では一つの話題に集中して結論を出していくという会議はできません。またアジアでも女性脳の持ち主が多い地域にはイスラムが布教しやすいとＴ君はいっていますが、上記のカンボジアの人たち、クメール族、は仏教徒ですから、この傾向はあてはまりません。

集中している時、カンボジア人はこちらの顔色も見ずに話しかけてきます。Ｂ君のように聡明で脳の切り替えがすぐにできる人ならともかく、ちょっと反応が遅いＴ君はそういう時にブチ切れます。なぜ怒られているのかがわからないカンボジア人たちは当惑します。そういう時に「話しかける時には必ず相手の顔を見て、注意がこちらに向いたときに始めるのだ。そうしないとその人の思考の邪魔になるだけだから」とＴ君は解説します。自分たちでも少しはこう感じているのかどうかわかりませんが、Ｔ君のアドバイスでこの問題は解

決しました。

用があってスタッフのところに行って話しかける機会を待っていた時、そのスタッフが顔をあげて何かを話しかけようとしました。すかさず「黙れ、この礼儀知らず!君に用事があるのでここに来たのだから、最初に話す権利は私にある」とＴ君がたしなめると、それからはこのようなことがなくなりました。

このような礼儀という伝統がカンボジア社会内部に伝わっていないのは、ポルポト時代の大虐殺できちんとした社会教育を受けた知的階級・上流階級がほとんど殺されてしまったことによるのではないかとＴ君は嘆いています。またポルポト時代の共産主義思想がまだ影響しているのではないかとも二人の爺さんは考えています。

第 12 話　2016 年 07 月 16 日　事務上のフール・プルーフ

Ｂ君はプレーストーミングと称して事務所内でワークショップを定期的に開催してスタッフの教育を行っています。Ｂ君が概略説明をした後「質問は?」と尋ねると、質問してくるのはほぼ直雇いの人たちばかり。現地コンサルタントから派遣されたスタッフはだんまりを決め込んでいるか、あるいは説明内容とはまるで関係のないことを尋ねてくるだけです。

「じっと我慢の子」のＢ君は、いつか芽が出るだろうと期待して毎週ワークショップを開催しています。

Ｔ君はそれを横で眺めていて「カンボジア人はまだまだ発展の余地がある」と言っています。これは裏返せば「なあんにも出来ない」ということですが、語彙が豊かなＴ君は実は相当な皮肉屋ですから、このような直截な表現を避けるようにしています。それは「紳士的で上品で、知的」を目指しているからなのです、とＴ君は自称していますが、第三者の評価はどのようであるかは依然不明です。

とある日、Ｂ君が事務員に「請負業者から発信された Lot 3 契約のレターファイルを持ってきてくれ」と頼んだのですが、何分経ってもその事務員はそのファイルを探し出すことができず、事務所の中が騒然としてきました。横でそれを見ていたＴ君がレターを探す手伝いをして着信ファイルを発見することができたのですが、必要なレターはこのファイルではなく「発信」ファイルにとじ込まれていました。

ただでさえ英語ができず、仕事の方法もわからず、さらには不注意極まりない人たちがいかにして間違いを少なくすることができるかというプロジェクトについてＴ君は長年の経験と成功例がたくさんありました。そこで、彼らに「ファイルの表紙を見るだけで、文字を読まないでも、内容がわかるようにしろ」と色分けした背表紙のサンプルをたくさん作って指導したところ、その初期にはわずかな間違いはあったにせよ、不注意によるファイリングミスは劇的に減り、命令されてから数秒でファイルを探し出すことができるようになり、事務員たちが叱られる回数も減ってきました。Ｔ 君の指導で道が開かれたのか、それ以降、事務員たちは他のファイルについても自主的に分類するようになりました。仕事がスムーズに進むために事務員たちも気分が良いためでしょうね。このシステムにも乗れないスタッフはやはり「脳なし」なんでしょうね。

第 13 話　2016 年 07 月 17 日　工具と道具箱

Ｂ 君は最重要用件のプロジェクトの立ち上げを進めているために、事務方の仕事がどうしてもなおざりになりがちでした。そこで、時間的余裕のある Ｔ 君が仕事を進めるにあたり必要なものを買い揃えることで Ｂ君の負担を軽減するべく頑張っていました。

ちょっとした手工具が必要になったので Ｔ 君は事務所で借りようとして、事務員に尋ねても彼らは「工具」ということがわかりません。ペンチ、ねじ回し、スパナなど名前を言ってもそれがどういうものなのかがわかりません。そこで絵を描いたのですが、それでもわからないのです。最初はバカにしているのではないかと疑ってもみましたが、実際には工具についての知識がほとんどありませんでした。こんな人達にあったのは生まれて初めてでした。

翌日、Ｔ 君は町の市場に行って工具を買い集めました。ペンチとモンキースパナは簡単に探し出せたのですが、ねじ回しとスパナセットには苦労しました。この町ではろくなねじ回しがない上に片目片口スパナ（片方が普通のスパナで他方がリングスパナになっているもの）をようやく探し当てることができました。これらを入れる道具箱について町の金物屋で尋ねてみましたが、見たことがない・知らないとのことでした。道具もろくすっぽ揃わない町に道具箱などあるはずがないということを改めて知ったＴ君でした。その後しばらくしてプノンペンに出張したＴ君が道具箱をようやく見つけて買ってきました。この程度の道具でしたらインド

ネシアの田舎町でもちゃんと揃うのですがカンボジアでは工具の需要が少ないのか、もともと仕事に各種の工具を使わないようにしているのか、なかなか思ったような道具が揃いません。

ポーサットの町はカンボジア国内で大理石彫刻の町として有名です。また石造彫刻のみならず、セメントを用いた塑像の仏像製作も盛んでが、美術品としてはあまりバランスが良くありません。これはすべてにわたり鋭い観察と熟考をしないことに起因しているのかもしれないとＴ君は言っていました。

彫刻が盛んな街だけに、木彫につかうルーターやトリマ、サンダー、石彫につかうグラインダー、コンクリートブレーカーなどを店頭でたくさん見かけました。また電動丸鋸も他の工具の数とは不釣り合いにたくさん売られていたのが不思議でしたが、Ｔ君のサイクリング中の観察でその疑問が解けました。この町では、電動丸鋸は食用の氷の塊を切断するのに多用されていたのです。

カンボジアではアイスコーヒーを頼むとどんな田舎の屋台でも、クラッシュアイスをいっぱいに入れたコップに濃いコーヒーとコンデンスミルクを入れてくれます。それだけ氷の需要が多いのでしょう。

第 14 話　2016 年 07 月 19 日 「パナシ」族

仕事でこの道具箱に入れたハンマーを使うことになり、Ｔ君はスタッフの一人にハンマーを持たせました。仕事が終わってもハンマーを返す気配がありません。そのハンマーは事務所の入り口付近のテーブルの上に放置されていたのは承知していたのですが、Ｔ君はわざとそのスタッフに「貸してやったハンマーをどこにやった?」と尋ねたところ、彼はハンマーのことをまったく失念していたらしく、最初はなんのことか戸惑っていましたが、友人たちがカンボジア語で彼にいろいろとアドバイスした結果、ようやく意味を理解したらしく玄関付近からハンマーを持ってきました。「借りたものは必ず元に返すこと」をＴ君はしつこくそのスタッフに教え込みましたが、いいっぱなし、やりっぱなしのパナシ族の教育にはまだ当分かかりそうなことをＴ君は改めて実感しました。

そういえば、すべてにわたってカンボジア人はやりっぱなし。「あれ、どうなった?」と尋ねると、右往左往するばかり。難しいことはすべて避ける傾向にあり、Ｂ君に限らず、こんな部下ばかり持っているボスはどんな

に大変なことでしょうとＴ君は同情しています。

口の悪いＴ君はこういう人たちを「三歩進むと忘れちゃう」とか、「レコーダーのついていないビデオカメラ」と呼んでいますが、「中らずと雖も遠からず」という点がなんともなさけない限りです。

日本語では一言で「整理整頓」といいますが、整理と整頓とは全く異なるものなのです。整頓していなくてもどこに何があるかをわかっている人がいますし、また整頓しないとわからなくなってしまう人もいます。整頓しなくてもわかる人は頭の中できちんと整理されていて、そのアドレス(インデックス)をきちんと記憶している分散整理型、すなわち IT 思考型なのでしょう。一方、整頓しなくてはわからない人は似たようなものを一か所にまとめておく集中整理型、すなわち伝統的思考型です。面白いことに、仲の良い夫婦はこの両タイプのカップルが多いそうです。ちなみに、分散整理型は血液型Ｂ型に集中整理型はＡ型に多いことが過去の経験からわかるとＴ君は称しています。

集中整理型から見ると分散整理型は「パナシ族」に見えるのですが、ちゃんとアドレスを記憶しているので「パナシ族」には含まれません。パナシ族は一つの作業を終えると、前の作業内容を「全文削除」してしまうのでほとんど記憶に残っていないように見えます。人間の脳はパソコンとは異なり、全文削除してもインデックスだけは死ぬまで残っています。このインデックスの検索能力が低いというのがパナシ族の特徴なのだろうと、Ｔ君は結論付けていました。

第 15 話　2016 年 07 月 21 日　なんじゃこりゃあ!

現場で使う自動車がぬかるみにはまったときに脱出できるようなスコップやロープなどの道具を入れる木製の道具箱が必要になりました。設計の得意なＴ君が図面を描いて大工に指示したのですが、出来上がってきたものは図面とはまるで違うものでした。

Ｔ君はこの箱を一目見て「貧相な子供用の棺桶」と思ったのです。図面では木製のハンドルを付けるようにしていたのですが、写真に見られるように金属製がついていました。ベニア板も 9mm を使うように指示し

てあるのですが、出来上がったものは 6mm の薄い板で、それも右の写真に見られるような再利用品でした。こんな腐れベニアで物を作ってきて買ってくれという大工など見たことがありません。底板には補強が入っておらず、踏み抜けてしまうような代物でした。

この経験からＢ君もＴ君も「文字もろくすっぽ読めない現地人大工に図面が読めるはずがない」と悟ったのですが「すでに遅し」でした。

箱の表側とふた

箱の裏側

Ｔ君は「どうせこんなことだろうと思った。こんなことでストレスをためるのなら事務所経費で電動工具と材料を買ってもらった方がみんなにとって精神的にもはるかに楽だ」とこぼしました。Ｔ 君は社内では二十年前から日曜大工としてかなり有名でしたので、このことはＢ君も渋々ながらも認めざるを得ませんでした。

第 16 話　2016 年 07 月 22 日　なんじゃこりゃあ!（続）

ところで、この設計図には「ベニア板」という指定がありました。ベニア板なら東南アジア諸国のどこにでもあるとＴ君は考えて設計したのですが、ここカンボジアの田舎町の材木屋にはベニア板がまったくありませんでした。材木屋もベニア板を知らないようで、材木屋には無垢の硬木の板材や角材ばかりが並んでいました。それもバンドソーで製材しただけのものですから、製品に仕上げるのにはかんな掛けが必要であり、表面の粗さを削るには自動かんな盤が必要であることは言うまでもありません。自動かんな盤はきわめて高価なので、カンボジアでは「手かんな」で仕上げています。「こんなごつい木製家具ばかり」と自宅でＢ君がこぼしていた据え置きの家具を一目見て、Ｔ 君は「この家具を作った職人は基礎教育ができていない」というのです。尋ねてみると、椅子の腰板部分に「かんな枕」が多数みられるからなのだそうです。この「かん

な枕」はかんなの刃が一直線ではなく匙のような形になっていることから生じるわずかな波状の表面です、「鎌倉彫」のような表面をしています。匙のようになるのはかんなの刃の研ぎ方に問題がある、特に刃を研ぐときの砥石がきちんと平らになっていないからだ。これが職人としての基礎教育なのだと T 君は偉そうに言っていました。

この「子供用の棺桶」を見る限りおいては、到底こんな大工には仕事を任せられません。B 君と T 君の事務所と毎日の生活ならこの程度の笑い話ですむのですが、この二人の爺さんが従事している灌漑プロジェクトには大型のコンクリート構造物がたくさんあり、コンクリートを打つための型枠は現地人の大工が作らなくてはなりません。こんなに技量のない大工に難しい形状の型枠を作らせることができるかどうかが今後の課題です。T 君はこの灌漑プロジェクトの工事を請け負っているゼネコンのマレーシアの業者に「型枠大工の技量に関する見通し」と称してそのサンプルである「子供用の棺桶」の写真を送ってやりました。

第 17 話　2016 年 07 月 25 日　ポーサット付近

ポーサットにＴ君が着任してからも、この爺さんたちは買い物のために何度か約 100km 西にあるバッタンバンの町に出かけました。この町では商品の種類や数などポーサットとは比べ物にならないほど多く、冷凍食品や牛乳などはこの町で買うか、打ち合わせに出たときに 200km 東にあるプノンペンで買うしかありません。

一般道の国道 5 号線、アジアンハイウェイ、がプノンペンからポーサット経由でバッタンバンまで続いています。この区間はほとんどが農村地帯を通っていますので、プノンペン郊外以外は交通渋滞がありません。

プノンペンからこの国道を走ってみると感じられることは、プノンペンからポーサットに向かうと徐々に植生が変わり乾燥地帯になり、ポーサットからバッタンバンに向かうと徐々に乾燥地帯から抜けるということです。この植生の変化はバナナとパパイヤの木の数でわかります。すなわち、年間降雨量がポーサット付近で最も低いということです。さらに、極端な平坦地であるがために灌漑施設をつくるのにも困難が伴い、乾季における灌漑もできません。したがって農業生産がすくないため貧困が蔓延しているということになりま

す。

国道沿いということもあるのでしょうが、他の商店に比べてドライブインの割合が高いように見えます。地元の需要が低いので町を通り抜けるお金を持った人たちと商売するしかないのでしょう。それもほとんど簡易鉄骨で作ったプレハブの建物です。強風も地震もないので雨を防ぐだけのもので充分だからです。このドライブインでは、飲食物のみならず、店によっては木彫品やシカの肉のジャーキーなども置いてあります。旅行中には色々な店に立ち寄ってみるものいいでしょう。

日本人のみならず先進国の人たちは貧しい地域の人たちをかわいそうに思って、かわるがわる援助を行っています。援助とは緊急の場合に限って行うものであり、定常的に長期間行うと、その地域の人たちに乞食根性を植え付けてしまいます。カンボジアで援助を受ける人たちのほとんどが農民ですから、農民が自活できるような環境を整備しそれを運用できる技能を与えることで、自力更生させることが肝要である、という結論にこの二人の爺さんは落ち着いています。長い海外経験から、一時的な感情に訴えるのではなく将来の自立を見通した計画を実行するべきだとこの爺さんたちは主張しています。

第 18 話　2016 年 07 月 26 日　新聞紙の謎

T 君がポーサットの市場で面白いことを発見したと報告してくれました。それは、市場で買ったものを新聞紙でくるんで渡してくれないということでした。日本でも昔はそうでしたが、東南アジアでは今でも一般的に新聞紙を包み紙の代わりにしています。しかしポーサットの町ではポリ袋に入れてくれるだけで新聞紙にくるんでくれることは全くありませんでした。T 君の報告では、ポーサットの町では新聞スタンドを見たことがないとのことです。後日、現地の人に尋ねたところ、町に一軒だけある本屋で新聞を売っているということでしたが、新聞の普及率が極めて低いのでしょう。

ここの人たちの仕事の能力や仕事に対する姿勢などは 1970 年代のインドネシアとほぼ同じですが、当時のインドネシアでは新聞紙が多用されていたことを考えると、現在のカンボジアでの識字率はそれよりも低いのではないかとは T 君の想像です。ちなみに Wikipedia では識字率がこのように示されています。

第 23 位　日本　99%、第 83 位　タイ　94.1%、第 90 位　ベトナム　92.8%、第 93 位インドネシア　92.0%で、カンボジアは第 133 位で 76.3%です。ラオスはさらに劣位の第 149 位　68.7%です。

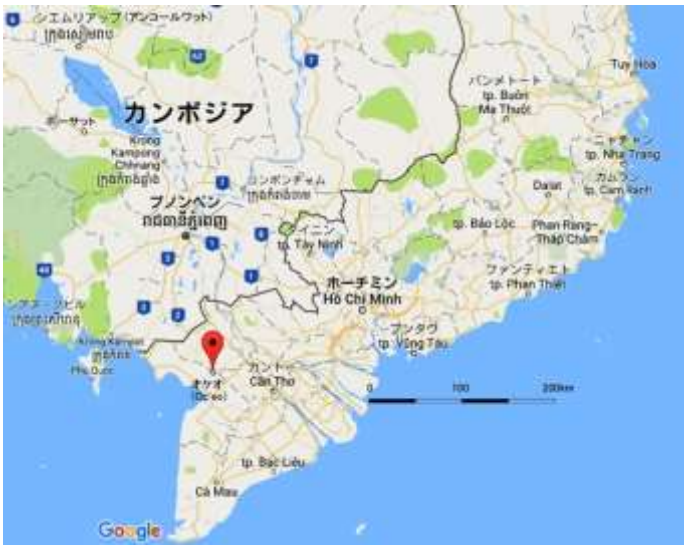
ぶつぶつ言いながら新聞を読んでいる運転手を事務所で見かけて、三十年前のヨルダンと同じだと T 君は驚いていました。文字の習得過程では音読が大切です。その後黙読が始まるのです。視覚で脳に入力される文字という光の信号と、聴覚で入力される音声という機械的な信号を一つの情報として脳でまとめるためにはまず音読という作業が必要になると、T 君は蘊蓄を述べていますが、本当でしょうかねぇ。

1975 年から 79 年にかけてカンボジアでは内戦で人口の約 1/3 が虐殺されて、国内が大混乱したことは歴史が述べているとおりです。一方、隣のベトナムでは 1976 年に対米戦争が終り経済復興が始まりましたから、カンボジアの国内平定時期とはあまり変わりません。それにしてもカンボジアとベトナムとの経済発展の違いには際立った差があります。これは政府の方針の違いとはいえるでしょうが、本当は国民性の違いに起因するものではないかと T 君は読んでいます。さらに、40 年後のカンボジアは現在のインドネシアのようになれるかどうかは不透明だと B 君も T 君も感じています。

この爺さんたちの友達でプノンペンに長い I 君はきっちりと「それは無理ですね」と言い切っています。

第 19 話　2016 年 07 月 27 日　地名の不思議

T 君は地理や歴史が大好きでこんな蘊蓄を披露していました。



カンボジアの首都はプノンペンです。町を貫流するサップ川(Tonle Sap)の右岸に位置している小高い丘です。この丘の頂上には祠があり、そこにはサップ川で発見された仏像が安置されているそうです。この仏像をお祀りしたのがペンという名の女性でしたから、ペンの丘の意味のプノンペンと呼ばれるようになったそうです。「扶南国」の

扶南はこのプノンの表記ではないでしょうか。

このサップ川はプノンペン市内でメコン河に合流しています。メコン河が増水すると、その水はサップ川に流入し数百キロ上流側のトンレサップ湖まで遡上して湖水位を上昇させます。水位の変動はわずか数メートルですがこの辺りの土地は一万分の一の勾配しかないので、湖水位が一メートル上昇すると湖岸線は一万メートルすなわち 10km も移動することになります。世界の大河川のうち季節によって流水方向が変わるのはこの川だけで、季節によって湖岸線が大幅に移動するのはこの湖だけだそうです。ウソのような本当の話です。

有名な観光地で世界遺産になっているアンコールワットはこのトンレサップ湖の北岸に位置するシェムリアップにあります。昔は雨季には海からこの都まで大型船で行けたのでしょう。今でこそ、メコンデルタが発達していますが、二千年前にはカンボジアとの国境に位置するベトナムのアンザン省の内陸部にあるオケオ(Oc Eo)が港町であったそうですから、その当時はトンレサップ湖が湾とみなされていたのかもしれません。

第 20 話　2016 年 07 月 28 日　地名の不思議（続）

プノンペン市内のメコン河の川幅は約 1.5km で、これはハノイ市内の紅河の幅とほぼ同じです。メコン川の水位の変化は急激ではないので、洪水の被害はそれほどではありませんが、ハノイは紅河がしばしば氾濫して洪水の被害が大きかった。紅河の源流は中国の雲南省ですが、ベトナム北部を貫流するダ川がハノイ市内で合流しています。このダ川は暴れ川であったので当時のソ連の援助で 1970 年代にダ川が平野部に出る寸前のホアビンに治水ダムと水力発電所を建設しました。このダムだけでは洪水防御などの治水効果が十分でなかったので、その 150km 上流にソンラダムを 2011 年に、続いてさらに 200km 上流にライチャウダムが 2015 年に完成しました。これでハノイの洪水被害が大幅に減少するということです。ちなみにハノイとは漢字で「河内」と書きます。ハノイ市内を歩いて見るとわかるのですが、旧市街と城郭は小さな丘の上に密集しています。昔からここだけは洪水の被害がなかったのでしょう。

ソンラダムは河口から約 350km 上流に位置しますが、標高はわずか 100m です。道路が整備されるまで

はこの地域では河川交通が主だったようです。しかしながら、ホアビンダムができたためと、道路が整備されたために河川交通は激減しました。

T 君がこのソンラダムの建設に一時期関与していたので、このような蘊蓄を披露していました。

第 21 話　2016 年 07 月 29 日　カンポン

Kampong とアルファベットで書くとマレーシア語でもインドネシア語でも『故郷・集落』という意味になります。カンポン・チャムという町がカンボジアにあります。カンボジアで「カンポン」というと港を意味するそうです。港と言えば必ず集落があります。ですからカンポン・チャムというのは「チャム人の港(集落=町)」がその意味ということになります。この言葉はクメール語ではなく、先住民族のチャム人の言葉、チャンパ語に由来しているようです。このチャンパ語はインドネシア・マレーシア語と同じオーストロネシア語族に含まれ、インドシナ半島ではこの語族の言葉を話す唯一の部族です。しかしながら、チャンパ語と古代マレー語が分岐したのは千年以上も前のことで現在の単語自体はあまり似たものがないので、B 君や T 君程度のインドネシア語の知識では全く理解できませんでした。

また、Phumi Phsar という村名は「市場のある村」という意味で、インドネシア語では Bhumi Pasar(市場の場所)に相当するようです。Bhumi も Pasar もサンスクリット語が語源[1]なのかもしれません。

チャム語がオーストロネシア語族に含まれ、遠く離れたインドネシアのアチェ語に似ているそうです。チャンパとアチェはどちらも交易で栄えた王国ですから、通商を通じた交流があっても当然です。オーストロネシア語族の中でチャム語だけがインドシナ半島に存在しているのは不思議です。チャム人たちが交易の利点でベトナムとカンボジア付近に二千年位前に定住したと考えることもできますが、もっと古いフランドル海進(縄文海進)の前に存在した「スンダランド」に思いを馳せると、何かワクワクしてくると T 君は熱弁をふるっています。しかし、歴史に興味がない B 君はそうでもなさそうです。

[1] Pasar はペルシャ語が語源で値切って買う市場のことです。

第 22 話　2016 年 07 月 30 日　カンボジアのムスリム

カンボジアは大多数のクメール人と、少数のベトナム人、少数のカンボジア・ムスリム人が住んでいます。この最後のムスリム人こそがチャム人です。チャム人はベトナムの中南部とメコンデルタに栄えたチャンパ王国を建設した人たちでした。現在でも残っているミーソン、ポーナガルなどのレンガ造りのヒンドゥー教の祠堂は彼らがイスラム化する前の七世紀ころから建設が始まったようです。チャンパ人は南シナ海を縦横に航海する交易民族として有名でした。その頃からインドネシアのジャワ島にあった王朝と深い関係にあったようです。チャンパ人がイスラム化したのはなんと元帝国のフビライハンの大遠征の影響だったのです。フビライハンは蒙古から青年将校や兵たちを率いて西征に出かけ、中央アジアに軍の大本営を設置しました。青年将校や兵たちは大本営やその周辺にある国々に数年間駐屯しているうちに現地の女性と結婚しました。その当時の中央アジアはすでにイスラムが布教されていましたから、この女性たちは当然ムスリムでした。もちろん彼らの子供たちもムスリムになります。中央アジアに派遣されていた青年将校や兵たちは除隊や配置転換で主に中国の西部に居住することになり、四川省や雲南省に彼らがイスラムを伝搬したのです。ですからこのような経路をたどったのは 12～13 世紀頃のことになります。やがて雲南省の現地人たちにもムスリムになる人が増えてきました。その中でもっとも有名な人は 15 世紀初頭に世界中に親善航海をした「鄭和=(三保)三宝大監」提督でした。

中世にはチャンパ王国は繁栄を極めて多数の華人(主に雲南と汕頭人)が住み着いていました。彼らがチャンパ王国にイスラムを持ち込んだのでした。チャンパ人は交易民族だから海上ルートでイスラムが伝わった可能性もありますが、当時盛んであったハナフィー派は中央アジアで布教されていたことから、上のように結論付けられます。

カンボジアのモスク Kampong Chhnang付近にて

第 23 話　2016 年 08 月 02 日　カンボジアのムスリム（続）

鄭和提督の指示で、チャンパにいた東南アジア華人の総支配人であり雲南人を祖先に持つボンタクケン(Bong Tak Keng・彭德強)の孫である彭瑞和(Bong Swi Hoo またの名を Sunan Ngampel)が 1445 年にパレンバンに赴任中の孫龍(スワンリョン別名　Arya　Damar=ジャワの王と華人女性との間の息子)の補佐として赴任しました。トゥバン太守のガンエンチュ(Gan Eng Cu・顔英裕)はマジャパヒト地域での華人の利益をと有する支配力を有しておりマジャパヒト王国とも太いつながりがあったため孫龍は使者として彭瑞和を翌年ジャワに派遣した。同年、彭瑞和は顔英裕の娘と結婚した。というわけで、ジャワにイスラムが伝わっていったのですが、その当時のイスラムはハナフィー派であり、礼拝も中国語で行っていたようで、現在のシャフィー派とは大きく異なります。

カンボジアとベトナムにいるチャンパ人たちは同じくシャフィー派に属していますが、現在でもメコンデルタ内部の地域にはハナフィー派が残っているということをサイゴンの中央モスクで聞きました。

左の写真はポーサット市場で撮影したチャム人の母娘。この人たちは普段アメリカに住んでいてたまたま帰郷したお金持ちだと町の人から聞きました。

この人たちはともかく、市場で物を売っているような人の階級ではチャム人と言ってもチャム語が話せない人が多いように見えます。彼女らはイスラムの教えに従順なせいなのか、我々外国人には微笑みを見せることがめったにありません。

ポーサットの町では町の東側にチャム人が多く住んでいるようでサイクリングをしているとしばしばモスクを見かけるとの T 君の報告です。町の西側にもチャム人が住んでいるようで、町には Halal と書かれた食堂が数軒ありました。

第 24 話　2016 年 08 月 04 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係

ここからはＴ君の蘊蓄です。

カンボジアとインドネシアのジャワとは昔から歴史上深い関係があるのです。上に述べたチャンパ王国(チャム人)とは 12 世紀以降に深い関係ができたのですが、その前に西隣のカンボジアと関係がありました。

以下、スラメットムルヤナ著Ｔ君訳の「スリウィジャヤ」からの抜粋です。

++原文 32 ページから++

ブライアン・ハリソンはその著書「東南アジア」South east Asia(1957)で、「初期に印度化した国々・扶南とスリウィジャヤ」Early Indianized States: Funan and Sriwijayaと題して第三章でスリウィジャヤ王国について述べている。

ブライアン・ハリソンは、盤盤(シャム湾の Prampuri)出身のカウンディニャによる扶南王国の建国は西暦 400 年頃で、クメール族によって六世紀に崩壊したと説明している。この扶南王国の滅亡によって、ジャワの支配から脱したジャヤワルマン二世の治世でカンボジャは、802 年に終焉を迎える前アンコール時代に入ったのである。

セデスの説によれば、ジャヤワルマン二世はカンボジャのシャイレンドラ王族とジャワのシャイレンドラ王族、スリウィジャヤとの関係を持っていた。この説によると、中部ジャワ諸王がシャイレンドラ王族を名乗っていたことは、彼らが扶南の諸王の遺産相続人であることを指し示しているのである。このセデスの説はいまだにまかり通っているとはいえ、この説はまだ立証を必要としている。

第 25 話　2016 年 08 月 08 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）

++原文 177 ページから++

ジャワ島外への拡大政策は確かに八世紀中葉にジャワの軍隊によって行われた。677(767 の誤植)年の安南史の記事によると、トンキン(ハノイの古称)は崑崙闍婆の賊崑崙闍婆の攻撃にさらされたが、この攻撃は成功しなかった。敵軍は張伯儀により、朱鳶(Sön-tay=ハノイ西郊)付近で反撃を受け海に追い返されたのであった。

ポー・ナガル(中部ベトナムのニャチャン付近)出土のサンスクリット語碑文は、774 年にチャンパは黒い肌の外国の軍隊に攻撃されたと述べている。その行動は極めて粗暴で、船で来襲した。彼らはリンガを破壊し祠堂を焼き払った。サトヤヴァルマン王によって彼らは打ち負かされたが 787 年にジャワの軍隊が船で再来し他の祠堂を焼き払った。802 年にはカンボジア王ジャヤヴァルマンがカンボジアの地のジャワの支配が終焉したと語った。上記の出来事は、ジャワにおけるシャイレンドラ王家の支配あるいは領地の拡大政策があったという証拠になる。787 年にジャワの軍隊がチャンパに来襲し、802 年にカンボジアの地でのジャワの支配が終焉したという事実に目を止めてみよう。これは 802 年以前、カンボジアがジャワの支配にあったということを意味する。<178>

第 26 話　2016 年 08 月 09 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）

なぜ、ジャワの軍隊がわざわざベトナムやカンボジアまで攻め込んでいったのだろうか。それは、インドから東南アジアまでの古代史を俯瞰する必要があります。「インドネシア歴史探訪」で早崎隆志氏はこう述べています。

４～５世紀の北インドにはグプタ朝という強大な王朝が栄え、東南アジアにも大きな影響を与えていました。この国ではヒンドゥー教の他、大乗仏教も盛んで、中部インドのナーランダー僧院はその研究センターとして多くの学僧を集めていました。ところが、５世紀後半からグプタ朝は騎馬民族エフタルの激しい攻撃にさらされ、６世紀中頃までに滅んでしまいます。保護者を失ったナーランダー僧院からは、グプタ王族も含め多くの人々が東南アジアに亡命してきたと考えられるのです。

また、カンボジア方面でも、シヴァ教を奉ずるクメール人の国家「真臘（しんろう）」が６世紀後半

からメコン川を下りつつ勢力を拡大し、7世紀前半には下流の「扶南（ふなん）」を併合してしまいました。この時、扶南国にいた大乗仏教の教団も、マレー半島を南下し、インドネシア方面に避難したと思われるのです。

こうして、6世紀末のインドネシアには、仏教を信奉するインド型国家が登場します[2]。

その一つが「赤土（せきど）」国です。この国はかなりの大国で、インド式の官僚制度を持ち、「人々は仏法を敬い、バラモンを最も大事にする」（『隋書』）そうです。西部ジャワ（スンダ地方）～南スマトラ（ランプン地方）にあったと考えられています[3]。

赤土国は隋の煬帝が 607 年に使節を送って以来、毎年隋に朝貢しますが、610 年を最後に消息を絶ちます。おそらくこれは、スマトラ島南部で大きな政治変動が起こったからです。そして7世紀後半、赤土国に代わって登場してくるのが、シュリーヴィジャヤ王国なのです。

第 27 話　2016 年 08 月 10 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）

間もなくインドネシア地域には、シュリーヴィジャヤ王国（スマトラ島）やシャイレーンドラ朝（ジャワ島中部）という有名な大帝国が出現するのですが、これら両国もサンスクリットを用い、インド風の文物を取り入れていた点では、今まで見てきた“インド化した”初期国家と変わりはありません。

注意を引くのは大乗仏教が盛んだったことくらいでしょうか。

---

2 最近（2000年2月）日本語版が出版されたデイヴィッド・キーズ著（畔上 司 訳）『西暦535年の大噴火』には、ジャワ島西端のクラカタウ火山が西暦 535 年頃、史上最大級の爆発を起こしたという大胆な仮説が提示されています。
当時陸続きだったジャワ島とスマトラ島は、この爆発で出来た大カルデラ、つまりスンダ海峡に分断され、膨大な火山噴出物は成層圏の塵となって1年半もの間太陽を覆い、世界を「核の冬」さながらの危機に陥れた。世界中で干ばつ、洪水、ペストが発生し、マヤ文明やナスカ文明は消滅、中央アジアの遊牧民も生活できなくなり、騎馬民族としてユーラシアの都市文明に侵入した。スラヴ人が大挙して現在の東欧に移動するのも、東ローマ帝国が弱体化するのもこのためだし、新羅・日本が仏教を導入したのも難民流入等で各国が政情不安に陥ったから……。
もしこのような大噴火が実際に起こったとすれば、西ジャワや南スマトラにあった王国は全て壊滅でしょうから、ここで大規模な勢力交替が起こったことも肯けます。噴火の数十年後、大乗仏教を奉ずる仏教徒が新天地としてここにやってくることもあったかも知れません。
ただ、島を割るほどの巨大噴火があったなら、必ず地質学的に明白な証拠が出てくるはずです。仮説としては面白いのですが、この検証が済むまでは、歴史事実として受け入れるのは保留しておきましょう。

3 赤土国の位置は議論のあるところで、スマトラ島のパタニより南方に位置していること以外よく分かっていません。マレー半島南部にあったモン・クメール語族の国という説もあります。

６世紀中頃、北インドではグプタ朝が滅び、大乗仏教の中心ナーランダー僧院から大勢の仏僧が東南アジア目指して亡命したと思われます。またカンボジア方面でも7世紀、大乗仏教国「扶南（ふなん）」が、シヴァ教徒のクメール人の国家「真臘（しんろう）」に圧迫され、やがて滅ぼされてしまいます。この時にも多数の大乗仏教の信者たちがマレー半島を南下、インドネシア方面に逃亡したと考えられるのです。

この結果、スマトラ南部やジャワ西部には7世紀に大乗仏教国がいくつか生まれますが、中でもシュリーヴィジャヤは東南アジアに於ける大乗仏教の一大避難地となったのでした。

第 28 話　2016 年 08 月 11 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）

中部ジャワで最初に勢力を持ったのはサンジャヤ朝でした。

732 年のチャンガル碑文[4]には、当時中央ジャワ南部マタラーム地方を統治していたサンジャヤ王は「穀物と黄金に富む」ジャワの国にリンガを建立した、と書いてあります。リンガはヒンドゥー教のシヴァ神のシンボルですから、８世紀前半の中部ジャワには、ヒンドゥー教を奉ずる農業国サンジャヤ朝が君臨していたことが分かります。ところが、サンジャヤ朝の発展は８世紀中頃、唐突にストップさせられます。なぜなら、同じジャワ中部に突然勃興した「シャイレーンドラ」という王朝に圧倒されてしまうからです。

さて、このシャイレーンドラ朝がどこからやってきたのか、実ははっきりしません。７世紀前半から中部ジャワ北海岸に存在した「訶陵」という国が、その前身だという説があり、そうだとすれば「８世紀中頃、訶陵王ガジャヤナが都を東方に移し、闍婆城と名付けた」という中国史書の記録は、シャイレーンドラ朝の中部ジャワ征服を暗示しているのかも知れません。

いずれにせよ、８世紀後半に歴史の表舞台に躍り出たシャイレーンドラ朝は、猛烈な勢いで膨張を始めます。

[4] ジャワ中部メラピ山南方 Wukir 山麓、クドゥ盆地のボロブドゥル東南チャンガル(Canggal)にあるシヴァ神殿に 732 年頃建てられた碑。

767 年、「崑崙闍婆の賊」がベトナム北部に侵入して放火・掠奪を働き(3)、774 年には「死のごとく恐ろしく、悪性で船に乗ってきた人びと」がチャムパー（南ベトナム）を襲撃、シヴァ神殿を掠奪します。787 年にも再びジャワの軍隊がチャムパを襲っています。

ここで言う「ジャワ」「闍婆」がシャイレーンドラ軍を意味するのは言うまでもありません。

ことにシャイレーンドラ朝が激しく攻め込んだのは、カンボジアでした。

アラブ商人スライマーンは次のような話を伝えています。

第 29 話　2016 年 08 月 12 日　インドネシアのジャワとカンボジアとの関係（続）

８世紀後半のある日、若いクメール人の王は、大臣たちに「ザーバジュ（＝ジャワ）の大王の首を盆に載せて眺めてみたいものじゃ」と豪語しました。これを聞いて怒ったジャワの大王は、1000 隻の軍船を率いてクメールの都を急襲し、クメール王の首を刎ね、それをミイラにして後継者のもとに送りつけて、「二度と不心得を起こさぬように」と命じたのです。それ以来クメールの王たちは毎朝ザーバジュを方角を拝むのを習慣とした----と言います。

このお話のどこまでが史実か分かりませんが、８世紀後半のある時期、カンボジアのクメール王国がシャイレーンドラ朝の属国になっていたのは事実だと見られます。

例えば、カンボジアはそれまでヒンドゥー教一色だったのに、８世紀末になると初めて菩薩像----つまり大乗仏教の仏像が作られています。そして、大乗仏教はシャイレーンドラの国教だったのです！

シャイレーンドラの侵略の魔の手が、スマトラ島～マレー半島で栄えていたシュリーヴィジャヤ王国に伸びたのも間違いないでしょう。シュリーヴィジャヤの唐への朝貢が 742 年以降ふっつり途絶えるのがそれを物語っています。シュリーヴィジャヤを制圧して手に入れたマラッカ海峡は、シャイレーンドラ朝の外征の財源となり、カンボジアへの軍事侵攻の基地ともなったのです。

カンボジア侵攻で人質になったジャヤヴァルマン二世がカンボジアに戻り、Sdok Kak Thom 碑文に上に書いたように 802 年にジャワの支配を排除しクメール王国を建国したと述べられています。

シェムリアップ付近にあるアンコール遺跡群は現在のカンボジア王国の淵源となったクメール王朝の首都の跡である。この地には、9 世紀頃から数々の王建設が開始された。この遺跡に特に大きく関わったとされるのはスーリヤヴァルマン 2 世（1113-1145 年）とジャヤーヴァルマン 7 世（1181-1218 年）といわれる。スーリヤヴァルマン 2 世は特にアンコール・ワットの建設を行い、その死後 30 年ほど後に王に就いたとされるジャヤーヴァルマン 7 世はアンコール・トムの大部分を築いたとされる。（Wikipedia）

アンコールワットはヒンドゥー教の寺院ですが、アンコールトムは仏教寺院の遺跡であるとのことです。ということは 13 世紀頃にヒンドゥー教から上座仏教に宗教が変わったのだと推測できます。

第 30 話　2016 年 08 月 14 日　カンボジアでインドネシア語が

1977 年に、B 君もＴ君もインドネシアに転勤・出張していました。その時にＴ君が小耳にはさんだ話です。

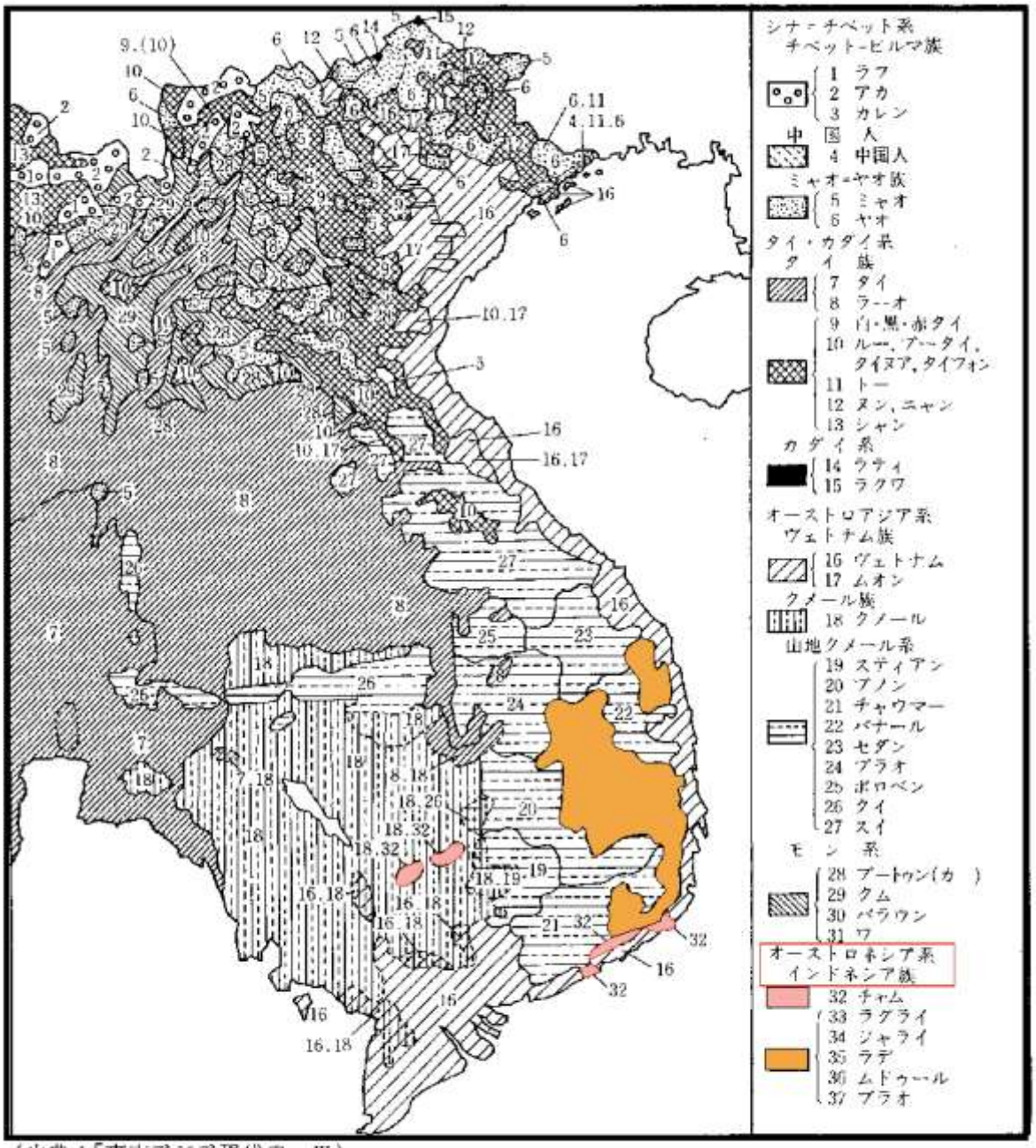
当時、カンボジアが内戦状態にあり、国連からPKF が派遣されていました。その PKF の中にはインドネシア陸軍もいました。この PKF 派遣から帰還した軍人から聞いたこんな話が T 君の耳に届いたのでした。

カンボジアにはインドネシア語を話す原住民がいるのに驚いた。我々が問いかけるとちゃんと受け答えする。彼らは第二次大戦中にジャワから日本軍に連れていかれたロームシャ(戦争労務者=軍夫)の子孫なのではないか。

後日 T 君が調べたところ、大戦中にジャワから派遣された戦争労務者の行先はおもにミャンマーであり、カンボジアではなかった。さらに、両君の勤務先(日本工営)から出版された「メコン開発史」には下の地図に示すようにオートストロネシア語族がインドシナ半島に分布していることがはっきりと示されていました。ただ、ここ言語分布図は 1960 年代に作成されたものであり、その後のベトナム戦争とカンボジアの内乱で大幅に変わっていることは確かです。

第 31 話　2016 年 08 月 15 日　カンボジアでインドネシア語が（続）

何種類かあるオートスロネシア語族のうちでインドネシアの PKF の軍人たちが出会ったのはチャム人だったのでした。



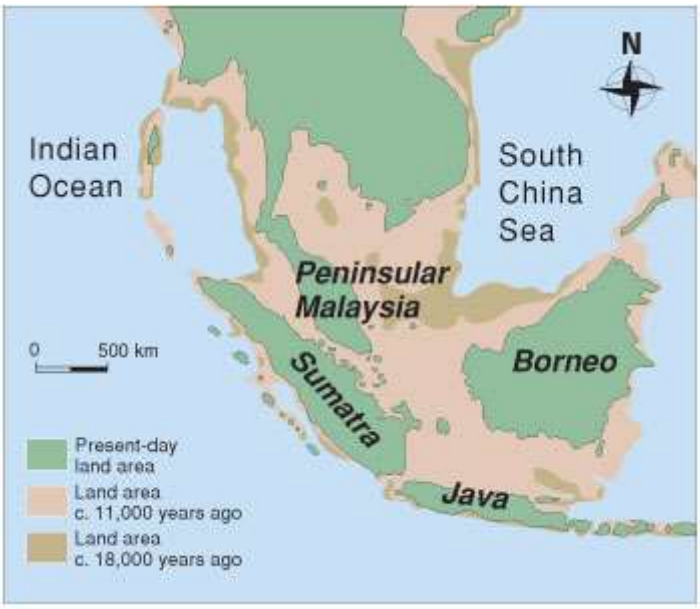
（出典：「東南アジア現代史・Ⅲ）

図 1.2.1　メコン河流域内外の民族分布

T 君が市場でチャム人たちにインドネシア語で話しかけても全く通じません。時間的にあまり変化しないと

言われている数字もインドネシア語とはかなり異なります。ちなみに、ずいぶんと異なる言語だと思われているペルシャ語とヒンドゥー語では数字の読み方がよく似ています。ということはチャム人たちがマレー・インドネシア語族の中の多数派から遠い昔に切り離されてしまっていたのではないかということが考えられます。言語学者によると、400 年前に分離した言語同士は今でも相互理解が可能であるということですから、チャム語とマレー・インドネシア語の母語はずいぶんと昔に分離したものでしょう。ちなみに wikipedia によると、チャム語とインドネシアのアチェ語が似ているとのことです。

T 君の説によると、オーストロネシア語族の言語を話す人たちは下の図のスンダランドの低地帯に居住していた。< https://www.emaze.com/@AOIFIQCC/Sundaland>



縄文海進(フランドル海進)による海面上昇によって彼らは住んでいた低地を追われ高地に移らざるをえなくなったのでした。その一部は西に逃げて現在のチャム語となり、東に逃げた人たちはフィリピンでタガログ語となり、南シナ海南部にいた人たちはマレー、インドネシア語というようになったのでしょう。

この時にジャワ海になった低地に住んでいた人たちは現在のジャワ島に当たる南側の高地に移動しなくてはなりませんでした。しかし、この地域はプレートの境界付近で、活発な火山活動が今でもある地域ですので、この時にも大規模な火山活動があったのでしょう。ということは山岳部に住んでいた野生動物は麓に移動しようとします。その時ジャワ人の先祖とこの野生動物、オオカミやトラ、による人的被害が多く出たのではないだろうか。この記憶がトラウマとなっていて、今でもジャワの人たちは海水と犬をきわめて嫌うのではないだろうか、と T 君はほらを吹いていました。

第 32 話　2016 年 08 月 15 日　国立博物館訪問

T 君が文化人類学や歴史に興味を持っているのに対して、B 君はこれらに全く興味がなく、もっぱら海釣りに凝っていのですが、ここ Pursat は海から遠く離れていてなかなかそのチャンスがありません。はたまた、

アンコールワットから近いといってもそれは直線上での話で、実際にはトンレサップ湖を大きく回っていかなければならないため、少なくとも一泊しなくてはならず、物好きな t 君もなかなか重い腰を上げられないのが実情です。

T 君が現場に入ってすぐにプノンペンに出張する機会がありましたので、T 君はちゃっかり国立歴史博物館に行ってきました。

左の写真は博物館入口から本館を見たものです。20 世紀の初期に建てられたもののようです。

収納物の量が少ない上に英語の解説も不十分です。もっと石碑が多いのかと思っていたのですが、インドネシアのジャカルタの国立博物館ほどの量がありませんでした。展示されているヒンドゥー時代の遺物、特にリンガとヨニはインドネシアのジャワにあるものと規模も細工の程度もほぼ同じでした。

第 33 話　2016 年 08 月 16 日　国立博物館訪問（続）

ただ、異なっているのは狛犬ならぬ「狛獅子」でした。インドネシアではこのような狛獅子を見ることはありませんでした。

これらの狛獅子はスリランカやミャンマー、タイで見られるものですから、小乗仏教の寺院の守護に置かれているものでしょう。一方、インドネシアは大乗仏教であったのでこのようなモデルの狛獅子がないのかもしれません。インドネシアの仏教寺院はほとんど華人が信者になっていますので、中国式の狛犬がおかれていることが多いように見えます。

博物館の入り口から入って右の端に木彫の仏の立像が何体かありました。どれも完全なものではなく、一部分が腐っていたり、破損したものがほとんどでした。この仏像の前を通り過ぎようとしたところ、仏像から殺気を感じました。そこに取り付いた霊が T 君の来訪に反応したものでしょう。悪霊が憑依する危険がありますので読者の皆さんはこの仏像のセクションを避けることをお勧めします。

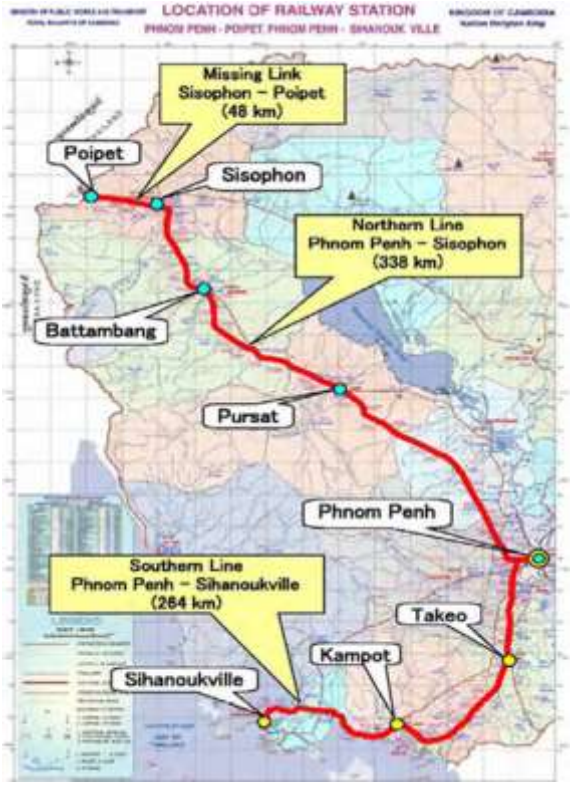
国立博物館なのに、1970 年代のポルポトによる虐殺に関する記事は全くありませんでした。それは市内にある国立のトゥール・スレン虐殺犯罪博物館にたくさん展示してあります。こちらの方は気持ち悪いのでまだ行っていません。

第 34 話　2016 年 08 月 17 日　カンボジアの鉄道

滞在しているポーサット町には鉄道が通っていて駅もありました。

カンボジアの鉄道にはプノンペンを起点としてポイペトまでの 385km の北幹線とシアヌークヴィルまでの延長 263km の南幹線とがあります。どちらもインドシナ標準の 1000mm 軌道で、全線単線未電化です。左の地図にある北幹線は 1932 年にポイペトとポーサット間が開通し、残りの区間は 1942 年に開通しました。南幹線は 1969 年に開通しました。<https://cityofwater.wordpress.com/2012/07/26/phnom-penh-rail/>

南幹線は現在でも貨物輸送に利用されていますが、北幹線は並行して走る国道 5 号線の整備が進み、主力が道路輸送に移ったため 2009 年を最後に休業状態です。



北幹線はポイペトからポーサットまでは国道 5 号線に並行して走っていますが、ポーサットからプノンペンに南東に向かってほぼ一直線に走っています。一方、国道は少し北回りをしてカンポンチェナンを経由してトンレサップに沿って真南に向けてプノンペンに入ります。鉄道を計画する時、河川を利用している水運業者の大反対があったために鉄道はカンポンチェナンを経由していないのでしょう。日本でも鉄道を敷く時に既存の水運業者や駕籠かきなどの大反対があったのでカンボジアでも同じことが起きていたと思われます。

第 35 話　2016 年 08 月 18 日　カンボジアの鉄道（続）

さて、休業中の北幹線のポーサット駅を見てみましょう。この駅は現在にぎわっている地域からやや西側の国道 5 号線の南側にあります。

ポーサット駅遠景。駅名も何も書いてなく、よく見ないと駅だか何だかわかりません。鉄道を敷設した時代、宗主国のフランスではすでにモー

タリゼーションの時代に入っていましたので、質素な構造物としたものではないでしょうか。鉄道輸送が主体であったこれより 50 年以上前にオランダによって作られたジャワ島の鉄道の駅は田舎の駅でもこれよりずっと立派です。

鍵を下ろされ、掲示物もすべてなくなった駅舎は一抹の寂しさをたたえています。

第 36 話　2016 年 08 月 20 日　カンボジアの鉄道（続）

また鉄道の付帯設備もお粗末であり、全線「1　閉塞」システムです。日本やジャワでは電子化が進む前までは腕木式の出発信号機とポイントが同じリンクに繋がっていましたが、ここでは出発・入線信号機も見当たりませんでした。列車の運行頻度が低いことからこのような安全システムとしたのでしょう。左の写真はプノンペン方面、右の写真はバッタンバン方面の風景です。

ウエブの記事によると、2016　年にはこの北幹線を修理して、バンコクまでの直通列車を走らせるとのことですが、駅舎だけではなく、あちこちで線路の路盤が崩落していたりするので、しばらく列車を見ることがないでしょう。

並行する国道 5 号線は路面も線形もよいので町中以外は時速 80km で走ることが可能です。一方鉄道でこれだけの速度を出そうとするならば、路盤からすべてやり直さなければならなくなります。そのための膨大なコストがかかるうえにこの地域では輸送量が少ないことから運賃収入が限られてしまうので、鉄道事業は採算が取れないでしょう。

第 37 話　2016 年 08 月 21 日　カンボジアの鉄道（続）

ポーサット駅構内では、かつてにぎわったであろう機関庫や蒸気機関車への給水弁も打ち捨てられていました。

留置線に置かれた無蓋車の徐々に朽ち果てていく姿が時代の趨勢を感じさせます。

写真は 2016 年 6 月 12 日に筆者が撮影したもの。

第 38 話　2016 年 08 月 27 日　心霊治療とカンボジアの神棚

東南アジアでは必ず占い師や、伝統的な医療、心霊治療を行う人たちが活躍しているのだとおもっていたら、知る限りにおいてベトナムでは非常に少なく、カンボジアでは話を聞いたこともありません。

近代的医療が普及する前までは、医療は漢方などの伝統医薬品と「まじない師」に頼っていました。この「まじない師」は超能力を用いて死者の霊と話すことができると言います。インドネシアでもマレーシアでも現在までこれらの医療が続けられており、それなりに流行っています。タイでも同じようなことが行われていると聞き及びます。一方、ベトナムではこのような職種の人が極めて少ないため、ベトナム戦争などで亡くなった親戚の人たちの遺体が見つからないと先祖の供養ができず、心の負担になっているようです。

一方、日本でいうところの「神棚」はカンボジアの各家庭、商店などにあります。下の写真の左側がカンボジアで見かけた立派な祭壇で、真ん中はカンボジアでの神棚の売り物、右の写真はベトナムで売られていた神棚。

第 39 話　2016 年 08 月 28 日　心霊治療とカンボジアの神棚（続）

カンボジアとベトナムの神棚はどちらも中国式で、土着の霊と仲良くやっていこうとするアニミズムの片りんをうかがうことができます。ベトナム語は 100 年ほど前にすでに漢字表記ではなく、アルファベット表記に変わっています。一方カンボジアはクメール文字を使っていて現地語には漢字表記はありません。

ベトナムは中国の影響を受けた大乗仏教ですからこのような漢字が書かれた神棚を祀るのは理解できます。一方、カンボジアは小乗仏教ですからこのような祭壇を置くことはないように思われますが、実際に各家庭や商店などには必ず祭壇が祀られています。これは多数の華人がカンボジア社会に溶け込んでしまったため中国の影響が多く出ているということなのかもしれません。カンボジアではベトナムと異なり反華僑暴動というものがなかったようです。

ベトナムは共産主義の影響で宗教やこのような民間信仰は勧められてはいませんが、国民たちはしっかりと伝統を守っています。一方、カンボジアではポルポト時代の虐殺で、庶民の中の指導者、高学歴の人たちから抹殺していったようで、人々の信頼を受けていた占い師や治療師などは真っ先にその対象になったのでしょう。人口の三分の一が虐殺されたカンボジアでは指導する大人たちが少なかったためか、近隣諸国と比べて社会教育が行き届いていないようにも感じます。カンボジア人の微笑は「あなたを害するスパイではないから安心してください」という意味が含まれているような気がします。

さて、B 君と T 君の仕事上の客先の担当理事の V さんは、T 君が来る前、体調不良に悩んでいました。それを相談された B 君は T 君のもつ特殊な能力について V さんに話をしたところ、ぜひ診療してほしいとのことでした。

第 40 話　2016 年 08 月 28 日　T 君の不思議な能力（1）

この特殊な能力というのは 2006 年に行われたインドネシアでの「お化け祓い」のことでした。インドネシアのスマトラ島最南部にあるランポン州で B 君と T 君が灌漑事業に携わっていた時のことです。プロジェクトに含まれていた倉庫が完成したにも関わらず、村人がそれを使おうとしません。B 君が聞いたところによると、この倉庫とその周りには魑魅魍魎が多数いるために村人が怖がって倉庫に入ろうとしないとのことでした。この魑魅魍魎をなだめたり、除去できる人を紹介してほしいとの依頼が村人からありました。B 君はすぐに T 君のことを思い出して村人に術者はイスラムでなくても問題ないことを確認しました。その数日後に B 君は T 君を伴ってその現場に行きました。現場には多数の魑魅魍魎がいて彼らは夜になると出没できるほどのパワーを持っているとの T 君の報告でした。

半時間ほどかけて T 君はその倉庫内部と周りの魑魅魍魎を除去し、その結果を B 君は村人に伝えました。数日後 B 君がその倉庫に行ってみると村人たちがニコニコしてその倉庫を使っていました。夜になってもオバケが出なくなったそうです。この事件以来 B 君は T 君の特殊能力を信じるようになったのです。

この事件以外にも B 君の部下たちの霊障を T 君が除去したことを B 君は部下から聞いていました。

これから 10 年が経過して、T 君は今回カンボジアでこの能力を活用することになりました。T 君が到着した翌日、B 君は T 君を伴って V さんのオフィスを訪ね、V さんに T 君の紹介をしました。V さんは後日「初めて T 君にあったけれども旧知の間柄のような気がした。私の病を少しでも直してくれる人であることが直感的にわかった」と語っていました。

第 41 話 2016 年 08 月 29 日 T 君の不思議な能力 (2)

小一時間かけてT君はVさんの体のあちこちを見ながら指圧やら気功をかけたところ、半分くらいは症状が改善したようでした。さらに、T 君は V さんに「眼鏡の度が合わないので作り変えたほうが良い、また目やにが多いからドライアイの症状が出ているようだ」と助言しました。その翌週 T 君は V さんにヒアルロン酸目薬を差し上げたところ、ドライアイの症状は劇的に改善しました。

その数週間後に、V さんが T 君の駐在している町に視察のためにやってきました。その晩に V さんの上半身を裸にして背中を診察し、指圧治療をしてあげました。その結果 T 君が来る前の症状は約 90%解消したとのことでした。この直後に B 君と T 君がプノンペンに出張した時に V さんから家族中診てほしいとの招待を受けました。T 君は飲食もそこそこに家族の人たちの治療をしたのですが、横に座っていた B 君と友達の K 君は食べては飲んでいただけでした。それを見た T 君は「君たちはただ食いしているから、この席への出席料を俺に払えよ」とジョークをかませました。それを聞いていた V さん家族は大笑いでした。

T 君のような不思議な能力を持つ人がカンボジアでも必ずいるはずだと、V さんに問いかけてみましたが、今まで見たことも聞いたこともないとのことでした。V さんは「T 君はプノンペンで治療院を始めるべきだ。すぐ大儲けできる」というのですが、T 君は二の足を踏んでいます。

こういう特別な能力を持つ人たちは大衆から尊敬されるようになるので、ポルポトの大虐殺の最初のターゲットになってしまったのでしょう。ここでも文化の継承が途絶えてしまっています。

第 42 話　2016 年 09 月 01 日　T 君の不思議な能力（3）

T 君はさらにお化けとコミュニケーションする能力があり、虐殺された場所や戦場では恐ろしい霊力を感じると言います。両君の住んでいるポーサットの虐殺が行われた場所の近くを通ってもその霊力は T 君のアンテナには引っ掛からないようです。これはアフリカのリビアにあるキュレーネ遺跡の墓地で感じたのと同じだと T 君は行っていましたが、皆さん分かるわけありませんよね。

通常、T 君は墓地の前を通っただけで霊力を感じて身震いするのですが、カンボジアの仏教徒は日本の仏教徒のように荼毘に付した遺灰を家族ごとのストゥーパにまとめて祀っています。ただ日本とは異なり、仏教寺院が墓地に併設されているところもありますが、別々に建っているように見えます。一般的にはモスクとは別な場所にあるイスラム教徒の墓地は、カンボジアではモスクに併設されています。これはカンボジアでムスリムがマイノリティーであることに関係しているのかもしれません。

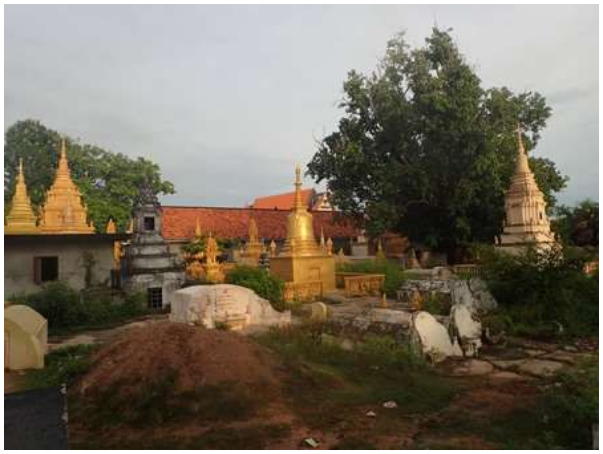
T 君のオバケ研究結果はこちらに。

第 43 話　2016 年 09 月 14 日　墓地

カンボジアは小乗(上座)仏教の国です。この国では一般的に言って個人のお墓を作らず、火葬した遺骨をその家族ごとの納骨堂に納めています。この納骨堂は上の写真のようにストゥーパのような形をしています。また右の写真に写っている仏像は東向きですので、望郷の念に駆られた華人が奉納したものでしょう。

一方、華人に代表される大乗仏教徒は火葬せずに土葬しているようです。この町には大乗仏教の寺院はあるのですが、そこには埋葬せずに小乗仏教の寺院の境内に埋葬しています。葬儀は宗教よりもその土地の伝統に依存していますから、仏教の宗派の違いは無視されているのかもしれません。

華人のお墓には色々な種類があります。



これらは華人の一人ひとりのお墓で土葬です。右の土饅頭のお墓はごくごく一般的なもの。ここまでは Banteay Dei Pagoda にて、2016/9/11 早朝撮影。

第 44 話　2016 年 09 月 16 日　墓地（続）

左はご夫婦と思われるちょっと豪華なお墓。これは典型的な華人のお墓です。

この墓廟の横に「土地之神」なる板碑がありました。事務所のカンボジア人スタッフに尋ねたところこれは土地の守り神のようでした。

Prek Sdey Pagoda にて 2016/9/10 早朝撮影。

これらの墓地を訪ねた後、T 君は頭痛などの体調不良を訴えていました。ここから出て故郷に帰りたがっている霊たちに憑依されたのでしょう。T 君は B 君宅にある布袋様を祀った神棚の前で祈りを捧げたところ翌朝には復活していました。その理由を尋ねると T 君いわく、「お墓に行くと、いわゆる「霊」と呼ばれている静電気の球が体にくっつき、この静電気の球によって微弱電流によって行われている自律神経系統の信号が影響を受けます。従って、自律神経の信号に乱れが生じるので体調が悪くなるのです。従ってこの静電気を取り除きさえすれば自律神経の調子は復旧します。静電気の除去の方法には色々あり、最も簡単なのは塩をまく方法ですが、神棚の前で祈ることでも除去は可能です」とのこと。これ以上深入りすると、大変な講釈が始まりそうなのでここいら辺で止めておきます。

下の写真はポーサット町の郊外の農村部の森林の中にポツンとあったお墓。

きっと華人の農民の墓なのでしょう。

第 45 話　2016 年 09 月 21 日　イスラム墓地と子供たち

カンボジアには少数のムスリムが存在します。撮影したのはポーサット市の北東部にあるチャム人の集落の奥にあったムスリムの墓地です。下の写真のようにほぼ空き地になっています。

。

入口の扉にかぎが掛かっていて中に入れず遠景だけでわかりにくいかもしれませんが、ニサン(墓標)もインドネシアで見慣れたものとかわりませんでした。拡大写真はこちら。

墓地が空き地であるということは、この墓地は新しく使い始められたということになります。ということはこのチャム人の集落自体がそれほど昔からあるとは思えません。クメール人の他の集落と比べると、インフラが整備されておらず、道もくねくね曲がっていて生活排水も道路に垂れ流しで、住宅の下には水たまりがあり、集落の奥に行けば行くほど道もぐちゃぐちゃでした。

土曜日の朝この集落にある Al Mo Ber Rek Mosque の写真を撮ろうと立ち寄ったところ、モスク併設のイスラム学校(マドゥラサ)の休み時間だったようで、子供たちが集まってきました。彼らを見ていると南方モンゴロイドに北方モンゴロイドの血が混じり込んだ感じがします。でもインドネシアの子供たちとあまり変わりません。

第 46 話　2016 年 09 月 22 日　ポルポト時代の灌漑設備

1970 年代のポルポト支配下で各種の灌漑設備が作られました。これらはその遺構です。

Kampong Chhnang 県の Lum Hach sub-project 内にある取水口。現在の河川水面より約 5m 高い位置に取水口が位置しています。これはこの下流側にダムをつくって水位をせきあげる計画に基づいて建設されたと聞きます。

この堰にはゲートがなく、必要に応じて角材を水路に設置された溝に落とし込んで止水する構造になっていました。これは建設するのには簡単で良いのですが、いざ流水中でこの角材を持ち上げようとすると水圧と水流による力と角材が吸い込んだ水の重さで大変な労力が必要になり、落水して死亡するなど多数の犠牲者が出たそうです。その当時はチェーンブロックなどの道具もなく人力で操作したとのことでした。

また、Battambang 県の Ream Kon sub-project 内にも同じような構造物がありましたが、現在実施中のプロジェクトで撤去されてしまいました。

50 歳代のカンボジア人のプロジェクトディレクターも少年のころにこのような建設工事に駆り出されて、ろくな食事も与えられずに重いセメント袋などを運ばされたことで、現在になって健康への影響が出ています。このような人たちはカンボジアではたくさんいると聞きます。

ちなみに、プノンペンで小耳にはさんだ話によると、ポルポトとはフランス語で有能な政治家を意味する、英語にすると politician potential、の略で本名は wikipedia によるとサロット・サルだそうです。

カンボジア国内の内戦は東西冷戦の代理戦争ということを受けなければ国民にこれほどひどい被害を与えなかったでしょう。なんでこんなにひどい被害を与えることになったかについて、第二次大戦後のカンボジアの歴史を簡単に振り返ってみましょう。

第 47 話　2016 年 09 月 24 日　カンボジアの現代史

カンボジアは 1953 年にフランスから独立した。独立直後から始まったベトナム戦争の影響で米国と南北ベトナムがカンボジアに介入して、カンボジア内戦がはじまった。1968 年には米軍の空爆が始まり、1970 年には親米派のロンノル将軍がクーデターを起こしシハヌーク国王を追放し、クメール共和国を樹立した。このクーデター後、内戦がますます激化した。この内戦中に北京に亡命していたシハヌーク元国王がカンプチア王国民族連合政府を樹立し、クメール・ルージュと共にロンノル政権打倒を目指した。

1975 年 4 月 1 日にクメール・ルージュのポルポト議長がクメール共和国を打倒し民主カンプチア政府を樹立した。その翌月に、ソ連が支援しインドシナ諸国に覇権を唱えるベトナムに攻撃を始めた。1977 年 4 月 30 日にはカンボジアがベトナムに大規模攻撃を仕掛け、6 月 18 日には撤収した。この大攻撃中の 4 月 18 日から 30 日までの間でベトナムのバチュック村では 3157 人が虐殺された。この虐殺に激怒したベトナム軍は同年 6 月にカンボジア軍を押し戻し、同年 12 月 15 日にベトナム軍の大部隊がカンボジアに侵入しポルポト率いるカンプチア革命軍をせん滅した。ベトナム正規軍とカンプチア救国戦線が、中国派の民主カンプチアに侵攻し、1979 年 1 月にポルポト政権を打倒しヘンサムリン政権がカンプチア民主共和国を樹立した。この国はソ連の支援を受けたベトナムによって樹立したものであったため、報復のために中国解放軍が 1979 年 2 月にベトナムに侵攻する理由となった。

1979 年 1 月 6 日までの三年間でポルポト支配下での原始共産制の下では知識層が虐殺されるとともに、旱魃、飢餓、疫病、虐殺で 100 から 200 万人の死者が出た。当時のカンボジアの人口は 700 から 800 万人だったので多く見て人口の約 30%がポルポトの犠牲になった。ポルポトは理屈も何もない中国の毛沢東路線を突っ走ったから、同様に飢餓を招いたのは自業自得といえる。ポルポトのやり方はまるでスターリンそのもので、敵とみなされる人たちを虐殺しまくった。

その後 1982 年 6 月に民主カンボジア連合政府が樹立された。1979 年以来カンボジアを制圧していたベトナム軍は国際圧力に抗しきれず十年間の支配を終えて 1989 年 9 月に撤退した。

1993 年 3 月に民主選挙が行われ、9 月に制憲議会が立憲君主制を採択し、ノロドム・シハヌーク国王が

再即位した。この国王は 2012 年に崩御し現在はノロドム・シハモニ国王になっている。

こうやって見ると、カンボジアは冷戦の影響で不安定であった隣国ベトナムの影響を強く受けていることがわかります。ベトナムのさらに隣に位置するカンボジアはベトナムの頭越しに中国と仲良くやっているようです。国道沿いの工場などには中国資本のものが多く見かけますし、中国資本の農業プロジェクトなどもあちこちでやっています。町の中華料理店にゲストハウスの広告が中国語で書かれているのを見ると、中国人の来訪者が多いことがわかります。このような風景はベトナムでは見たことがありません。

第 48 話　2016 年 09 月 25 日　ATM

カンボジアでは地方都市に行っても ATM が整備されていて、国際キャッシュカードでの引き出しやクレジットカードでのキャッシングが可能です。

約十年前にベトナムの北部に出張した時その地方都市では国際キャッシュカードが使えなかったという苦い経験があったので、今回も心配したのですが問題はありませんでした。カンボジアでは現金引き出しの際に米ドルと現地通貨のリアルのどちらかを選ぶことができます。

B 君は会社から月々の現場手当てを現金でもらっていますが、T 君は出張ベースなのでこの手当ては現場では支給されません。

1980 年代末から T 君は長期出張が多く、現場事務所で仮払いができないプロジェクトでは ATM での現金引き出しがどうしても必要になり、旧富士銀行で海外キャッシュカードを作って使っていました。このカードは海外だけではなく日本でも現金引き出しができました。ところが富士銀行が第一勧銀と合併してみずほ銀行になってしばらくした 2014 年頃にこのキャッシュカードが廃止されました。廃止に伴い銀行の勧める NEOMONEY なるカードと契約し、海外の Cirrus のマークのある ATM で t@は現金の引き出しが可能になりましたが、日本国内では使えないという不便極まりない状態です。海外キャッシュカードは事故が多いのでみずほ銀行はこのシステムを廃止したようです。

第 49 話　2016 年 10 月 03 日　アンコールワット旅行　その一　トンレサップ湖北岸の謎とき

2016 年九月の半ば頃、カンボジアの長期の祝日が月末にあることがわかりました。仕事は忙しいのですが、全てのスタッフと取引先が休暇に入ってしまうので、全く仕事にならなくなります。

これを聞いた旅行大好き T 君は「我々が仕事をしているトンレサップ湖の南岸には大きな都市や遺跡がないにも関わらず、北岸にはアンコールワットなどの大規模な遺跡が集まっているのは何か理由があるに違いない。防衛上トンレサップ湖の奥に都を作るのなら北岸でも南岸でもよかったはずだ。しかし、北岸に偏っているのは、その土地が農業に適しているかどうかに起因するに違いない」ともちかけました。本来なら、遺跡巡りや観光などには全く興味を示さない B 君ですが、「農業適地かどうか」という言葉を聞いてきらりと目を光らせ、さらにはスタッフから北岸で釣りができると聞いて、重い腰を上げることにしました。B 君の心の中では「トンレサップ北岸の地勢視察」ということで落ち着いたのでしょうが、言い出しっぺの T 君は「世界遺産観光旅行」と確信していました。

旅行嫌いの B 君をまんまと巻き込むことに成功した T 君は内心ニヤニヤしましたが、それをおくびにも出さず、さっさとアンコールワットの近くにあるシェムリアップ市のホテルを予約してしまいました。

第 50 話　2016 年 10 月 04 日アンコールワット旅行

爺さん二人、トンレサップ湖北岸の旅行記がここから始まります。まずは簡単に旅程の紹介をしておきます。

9 月 30 日(金)

ポーサット発（8:09）→ バッタンバン（9:45-10:03）→ シソポン（11:27）→ シェムリアップ（12:59 - 14:28）→ アンコールワット（15:13 - 18:12）→ シェムリアップ着（18:28）

10 月 1 日(土) この日、B 君は釣りに、T 君は遺跡巡りに行きました。

T 君。シェムリアップ発（7:10）→ アンコールワット（7:52-11:04）→ アンコールトム・バイヨン

(11:18-12:47) → 王宮跡付近で昼食 (12:52-13:42) → ピミアナカス (13:42-14:16) → タ・プローム (14:30-15:35)) → シェムリアップ着(18:15) 配車の関係のためタ・プローム遺跡で待ち時間が長かった。

10 月 2 日(日)

シェムリアップ発 (7:58) -(途中 10 分間道に迷って時間ロス)→ バンテアイ・スレイ (9:12-10:10) → 地雷博物館 (10:24-11:14) → 昼食 (12:16-13:25) → シソポン (14:50) → バッタンバン (15:59-16:50) → ポーサット着 (18:21)

第 51 話 2016 年 10 月 04 日アンコールワット旅行 シェムリアップまで

9 月 30 日

ポーサットを出発して約一時間進んだところにある Moung Russey という町の近くで交通渋滞に巻き込まれました。さては交通事故でも起きたのかと心配していましたら、葬列でした。

山車に積まれた遺体にはお坊さんが付き添っていました。その前の方には遺族と思しき人たちが、のぼりを持って歩いていました。さらにその前にはラウドスピーカーが葬列に向けて大音量で何かをわめていました。

ベトナム人の葬列とは異なり、チャルメラを主とする賑やかな楽隊はついていませんでした。

葬列に参加している人たちはこのように、ほぼ全員が平服でした。

下の写真に見られるように、参加者の中には白服を着ている人がちらほら見られます。アジアでは葬式の時には白服が一般的でしたが、日本では明治以降、西洋の風習に習ったため、喪服は黒に決まったそうです。

第 52 話　2016 年 10 月 06 日アンコールワット旅行　シェムリアップまで

バッタンバンでコーヒーブレーク。折からの四連休のため、レストランもカフェも満員で相席になりました。同席した若いカップルの男性はともかく、女性から不思議な雰囲気を感じました。とてもよく似合う素敵な服を着ていました。逆光でストロボを使わざるを得なかったため肌にテカリが出てしまいました。ごめんなさいね。

第 53 話　2016 年 10 月 07 日アンコールワット旅行　シェムリアップまで

5 号線をバッタンバンから北西に約 65km 進み、6 号線との分岐点のシソポンに着きました。この付近から、農村の風景が徐々に変化してきます。よくよく見ていないとわからないほどの違いですが、樹木が増えてきて、村の家もポーサット付近よりきれいなものが多いように見受けました。この地域では平均年収がポーサット付近より多いのではないかとの B 君の話でした。B 君は住宅だけではなく、農家の庭先の花壇や樹木に注目し、収入が多いと庭に花壇などを作るのだと言っていました。何につけても B 君の農業関係の蘊蓄には刮目すべきものがたくさんあります。

ちょっと遅い昼ご飯を食べにシェムリアップの街に出ました。古都と呼べるほど落ち着いた街並みで大木の並木が続き涼しい日陰を作っています。そこかしこに旅行者と思しき欧米人がたくさんいます。滞在費が安いためか、町では若い旅行者が目に付きました。下の写真は彼らも使っているカフェで見かけたもの。

右側の Free FiWi とはクメール語で何かのしゃれなのかと思ったら、単なる綴り間違いでした。まあ、インドネシア人が間違えた Free WiFe よりましですが。

もう一つ orang juice とは何でしょうか? Orang というと B 君も T 君もすぐにインドネシア語の「人間」を思い出してしまいました。「ここの人たちは他人から何かを搾り取るのが好きなのかなあ」と T 君はつぶやいていました。

第 54 話　2016 年 10 月 08 日アンコールワット旅行　シェムリアップまで

昼食後、事務所スタッフのパソック君と共に、世界遺産のアンコールワットに向かったのですが、入口の検問所では入場券を売っておらず、、検問所から少し離れたアンコールパノラマミュージアムのすぐ横の建物に出札所に戻らざるを得ませんでした。驚いたのは、一日券は 20 ドル、有効期間一週間の三日間券はなんと 40 ドルでした。何でも見てやろうの T 君はもちろん三日券、そうではない B 君は一日券を購入しましたが、パソック君はニコニコしたまま何もしないので理由を尋ねてみると、カンボジア人は入場無料とのことでした。それにしても高いので外国人からぼったくろうとしているとまで思ってしまうほどでした。

入場券を入手するのに戸惑ったのですが、さすがシャムリアップっ子のパソック君はあちこちを良く知っており、祈祷用のお線香も彼に教えてもらって買うことができました。

B 君とパソック君。

第 55 話　2016 年 10 月 10 日　アンコールワット探訪

入口から

寺院内部

周りはこのような巨木が聳え立つ森林でした。クメール・ルージュもこういう深い森に潜んで抵抗を続けていたのでしょう。

第 56 話　アンコールワット探訪写真集

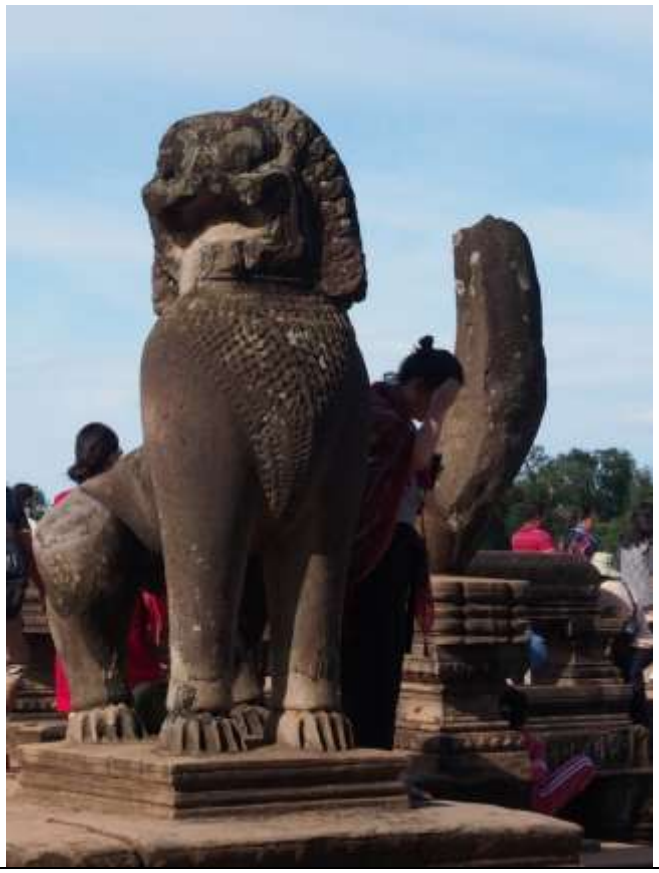
第 56 話は画像掲示板に掲載したもののアーカイブです。

アンコールワット

Re: アンコールワット探訪

構造物が近すぎて 42mm の標準レンズではなかなかいいアングルが取れませんでした。

雨に降られなかったのは幸いでしたが、石畳が焼けていてものすごく暑い。
ふと見上げた青空にほっとしました。



文化遺産を破壊したのは共産主義者のポルポトだったのでしょう。
歴史とは事実の解明ではなく「こうあるべきであった」ということを歴史にするという精神がこのような破壊を伴ったのかもしれません。

夕方近くになって入り口付近の写真屋や本売りも手持ち無沙汰。

参道。
石畳の石に開いている穴は釣り上げる時に使ったものだそうです。
ある特殊な木に特殊な薬品を塗って穴に差し込むと抜けなくなるのでそれにロープを付けて移動したりすり合わせを行ったそうです。作業終了後は焼いてしまうので穴だけ残っているのだとカンボジア人の友人から聞きました。

日本でいえば、外濠。
お堀の石垣もきれいに修復されていました。
この写真には写っていないのですが、あちこちに水位計が設置されていました。不思議に思っていたら、他のグループのガイドさんのことばに合点。「二つある濠の水位が不均等に下がると寺院全体の基礎が傾くから」ということでした。

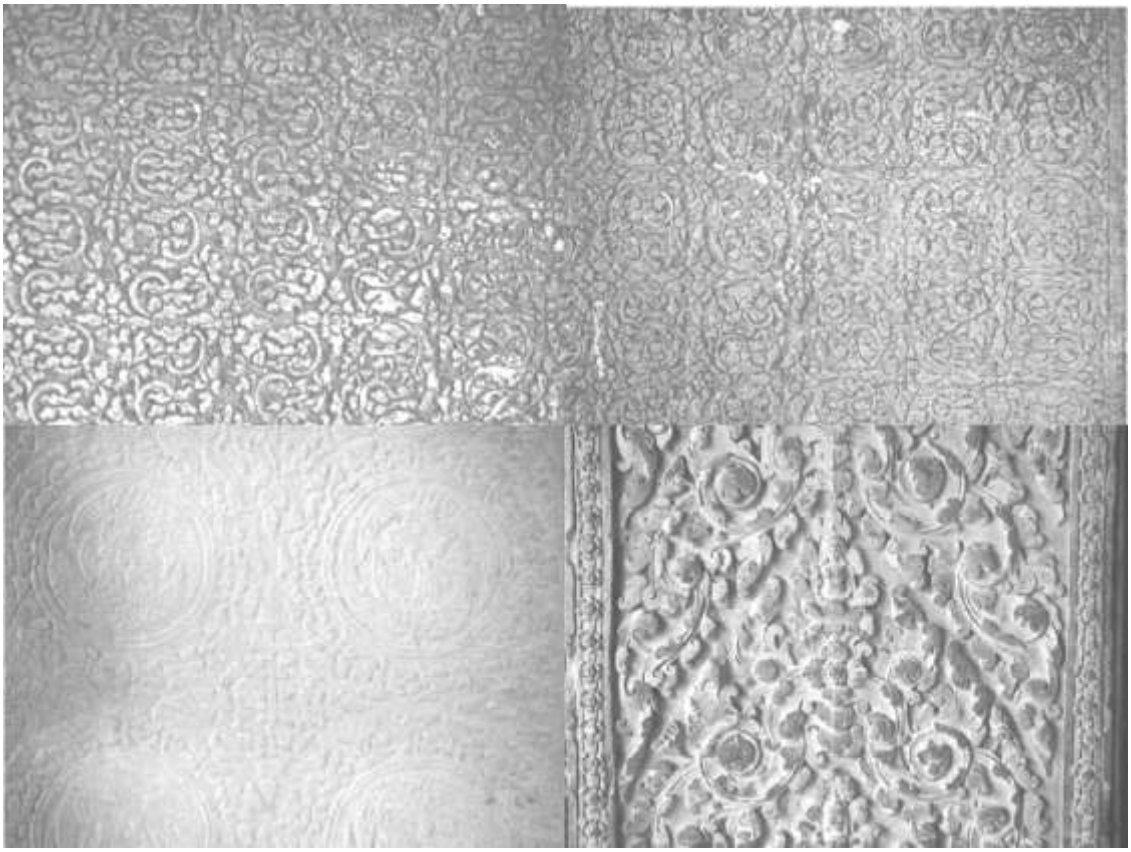
確かに、この寺院のような重量物をこの地域のような沖積層の軟らかい地盤の上に立てると建物の重さによって地盤の不動沈下がおこり、崩壊してしまいます。それゆえに、常に地下水位に注意を払って不動沈下が起きないようにしなくてはならなかったのです。そのために水位計を設置したものでしょう

外門入口のクメールドラゴン。
七匹のコブラです。これが普通の橋の欄干にまで付いています

多数の旅行者はこの地点から寺院を撮っていたけど、この写真はウエブのあちこちにあるから撮る価値がないのではないか、とおもいつつもパチリ。
俺も凡人だよなあと反省しながら。

寺院内部には仏像が。
確かここはヒンドゥー教の寺院だったはず。
カンボジア人の参詣者に尋ねてみたら、後日仏教寺院としても使われたとのことだった。

だから参道に仏足石があったんだ。



入り口を入ると精緻な浮彫が柱に。
思わず、ディスプレーの背景用に何枚も撮ってしまいました。

中央の寺院の北側の塔。どことなくプランバナンの塔に似ている。

小さな彫刻がどういう形をしているのかよくわからなかったのでレンズを 150mm に替えて撮ってみたところ、あらまあ。見事に壊されています。ポルポトの兵士が撃ったせいなのか、雨水で溶けたのかよくわかりませんが。

中央の寺院の北側の塔全景。
相当に劣化していて、よく手入れされているジャワのプランバナン遺跡のような荘厳さはない。

こういう建物はどうやったらきれいな角度で撮れるのだろうか。

徹底的な装飾。屋根も積み重ねた石材でできている。

風化したのかポルポトに破壊されたのか。
外面は砂岩なのですが、中はラテライトでできています。

東回廊の内側の窓。
ろくろ細工のような窓格子が興味を引く。

窓格子詳細

そこここにある天女の浮き彫りに違いを発見。
左側の像は乳房の下に支えがあるが右側の像にはない。これが何かの違いを示しているのだろうが、その理由はわからない。
この写真を事務所の女性スタッフに見せて、自分のものに似ているかどうか尋ねたところ、全く違うとのことだった。
一方、スリランカでみた天女の像はスリランカ人と同じ乳房の形であった。ということは、アンコールワットの天女の像のモデルは現在のカンボジア人ではない可能性が出てくる。
こんなことを考えてしまうのは僕だけなんだろうか。

広角で撮っても写真がなんとなくしっくりしないのはなぜだろう?

Re: アンコールワット探訪

やはり圧巻ですね。これは是非、自分の眼で見て感動したく思いました。

いつでもどこでも研究熱心で、推察と疑問を投げ掛け、答えを見つけようとする姿を尊敬して止みません。

「こういう建物はどうやったらきれいな角度で撮れるのだろうか。」
建築写真って不思議なもので、やはり三脚に取り付けないと、上手くいかない場合が多いです。
恐らく手持ちだと周囲の切り取り方、水平線の出し方、レンズの焦点距離や被写界深度などが曖昧になって、どうしても完成度が低くなるためではないでしょうか。

「広角で撮っても写真がなんとなくしっくりしないのはなぜだろう?」
多くのプロが撮った遺跡や建築写真は、フィルム時代なら必ず三脚を立て、アオリを使いますし、デジタルなら後加工を施して、垂直線を直しています。
また、そのための専用シフトレンズも販売されています。
この辺りが一番プロとの格差が顕著に表れる好例なのかも知れません。

コツはなるべく被写体から離れて、建築物の半分の高さにカメラを持ち上げることですが、せめてベンチやゴミ箱の上に上がるだけでも、違いが表れますよ。

ebatom 2016/10/08(Sat) 18:04:21 No.3903

Re: アンコールワット探訪

Ebatom さま

アドバイスをありがとうございました。心してみます。亡父の写真にも建造物の写真がたくさんありましたので、それも見直して勉強しましょう。

アンコールワットにおいでの節は一週間ほど時間を取って、近くのアンコールトムやその他の遺跡をじっくり回ってみてください。僕が気付かなかった遺跡の良さを ebatom さまならきっとたくさん見つけられるこどでしょう。

まだまだ続くぞ。アンコールワット巡り。

度欲おぢさん 2016/10/09(Sun) 08:29:51 No.3904

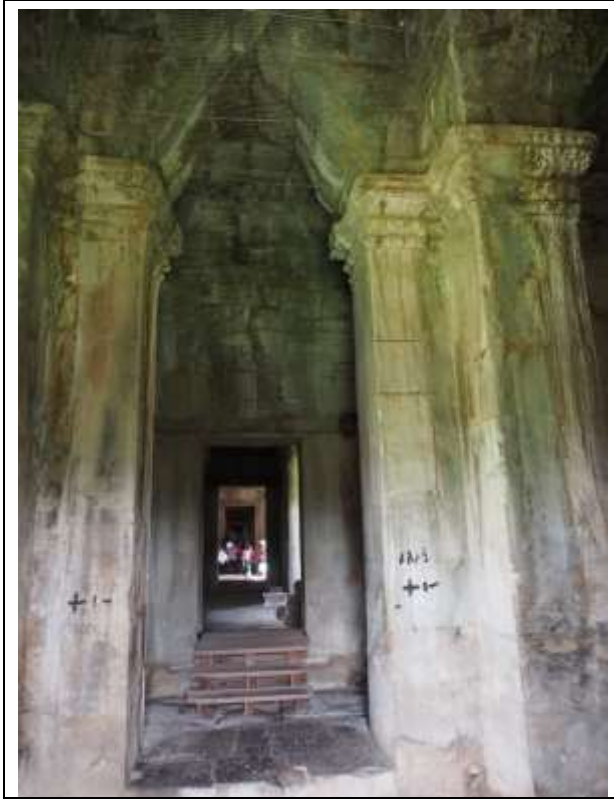
アンコールワット　二日目

アンコールワットの朝の外濠。
観光客はアンコールワットから上る朝日を見に行くのだが、僕は早起きは苦手なのでパス。

前回の写真で、不同沈下防止として池の水位を調整したとかきましたが、やはりこのように建物の不同沈下により梁が折れている場所がたくさんありました。

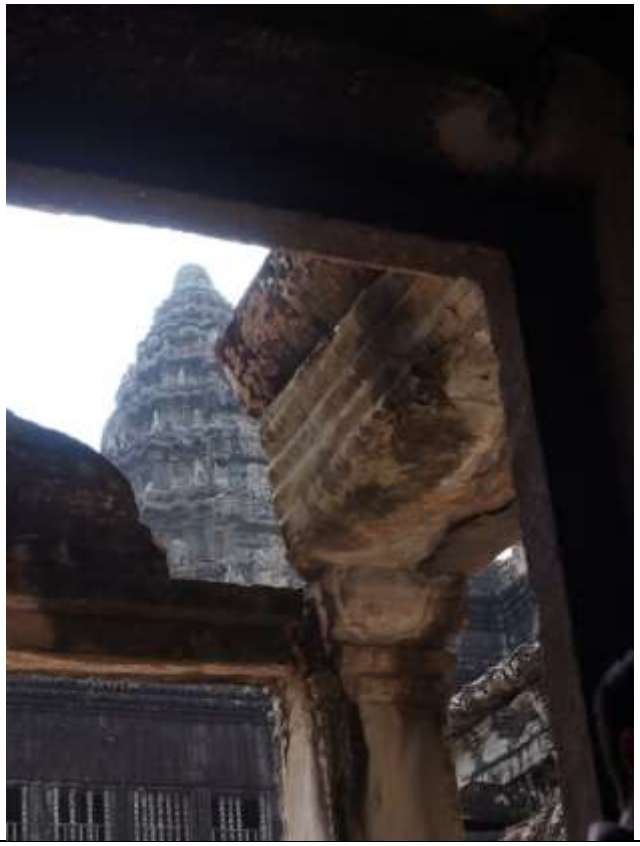
東南アジアでもインドからの影響でヘレニズム文化が入っているはずなんですが、構造物にアーチを使いませんでした。こうやって石を少しづつもちだして屋根にすることはアーチ構造よりコストがかかるはずなのにそれをしなかったのは何故でしょうか。不思議です。

この天女だけがサロン(腰巻)をしていないと観光案内書に書いてありました。
このモデルはこの掲示板の写真 3901 にある天女とは髪型も異なりますので、普通の天女ではありません。
続いた眉毛や太いアイラインなどが入っているところを見るとピラミッドに描かれているようなエジプト人がモデルになっているのかもしれません。



こういう柱の頂部にはギリシア彫刻のような装飾が施されているからヘレニズム文化の影響があるのではないかと思われるのだが、石積み構造は全く異なる。

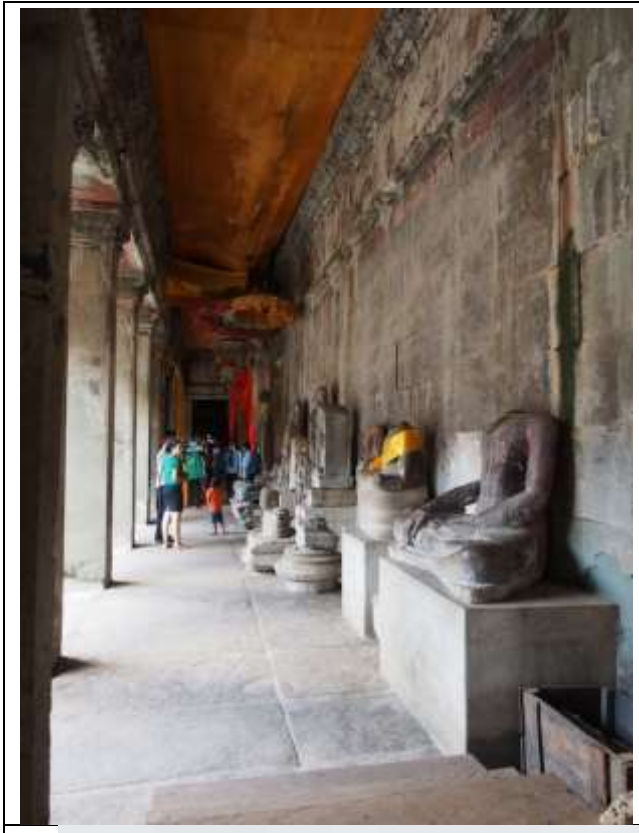
おお、ようやくヒンドゥー教の寺院らしく、ヨニもあった。
ヨニの端部が滑らかに削り取られるものがしばしばみられる。これはヨニの材料である砂岩が砥石に適しているからだろう。



たくさんの人がこのアングルで撮影していたので撮ってみたもの。
この景色のどこがいいのかさっぱりわからない。

中央祠堂にいる厄払いのお坊さん。
こういうところでカンボジア人たちはミサンガをもらってくるのでしょう。

厄払いしている僧侶の入れ墨に注目!



中央祠堂の回廊には仏像がたくさんありました。

どれを見ても日本の仏像のように写実的ではありません。
ということはカンボジアの人たちは自然に対する地道な観察より、観念的な方を好むのでしょうね。
彼らの仕事っぷりを見ていても、工事現場での観察とそれについての前向きな考察より「誰それの責任だ」という後ろ向きの議論が多いように見えます。

アンコールワット境内の池

アンコールトム　一日目

アンコールワット観光が 10:30 頃に終わり、続いてアンコールトムへ。
有名な南大門。

仏教寺院の遺跡。Bayon。
アンコールワットと言えばこの遺跡の人面塔ですね。
といって遠景しか見せない。意地の悪さよ。

文化の破壊者。共産主義者ポルポト軍の仕業。

一般的に彫刻師は身近にいる人をモデルにしてしまいますから、天女も彼らの身近な女性をモデルにしたのでしょう。

気が付きましたか?アンコールトムにある彫刻は現在のクメール人の容貌によく似ていますが、アンコールワットにある天女の彫刻は全く異なります。
ということは、両者を建設した王はそれぞれ違う部族だったといえるかもしれない。それに両者の建設年代が近いにもかかわらずヒンドゥー教から仏教に変遷していることが、スールヤヴァルマン二世からジャヤヴァルマン七世へと支配者が入れ替わったと暗示しているようだと考えてしまうのは僕だけなのでしょうか。

12 世紀末期に建設されたアンコールトムは寺院ではなく都市ですから、きわめて広大でいろいろな施設がありました。
しかしながら王宮など寺院以外の建築物はすべて木造でしたので朽ち果ててしまい残存していないとのことです。
ところで、建造物内部にも多数の銃痕がのこっていました。

ここバイヨンで有名なのは壁画です。
娘連れでたまたま観光しに来ていたカンボジア人のおばちゃんがうるさいほど親切に解説してくれましたが、「地球の歩き方」の方詳しかった。
親切にしていただいたにも係らず、ごめんなさいね

もう一枚。壁画を。
象ってこんな目をしていましたっけ?

　チャム軍との戦いの様子だそうです。
チャンパ王国はベトナム中南部からカンボジア南部を支配していた、インドシナ半島ではめずらしくオーストロネシア語に含まれる言語を話しています。チャム語はカンボジアの地名にまだたくさん残っています。

この当時チャム人はまだヒンドゥー教を信じていましたがこの 100 年後からイスラム化が始まりました。

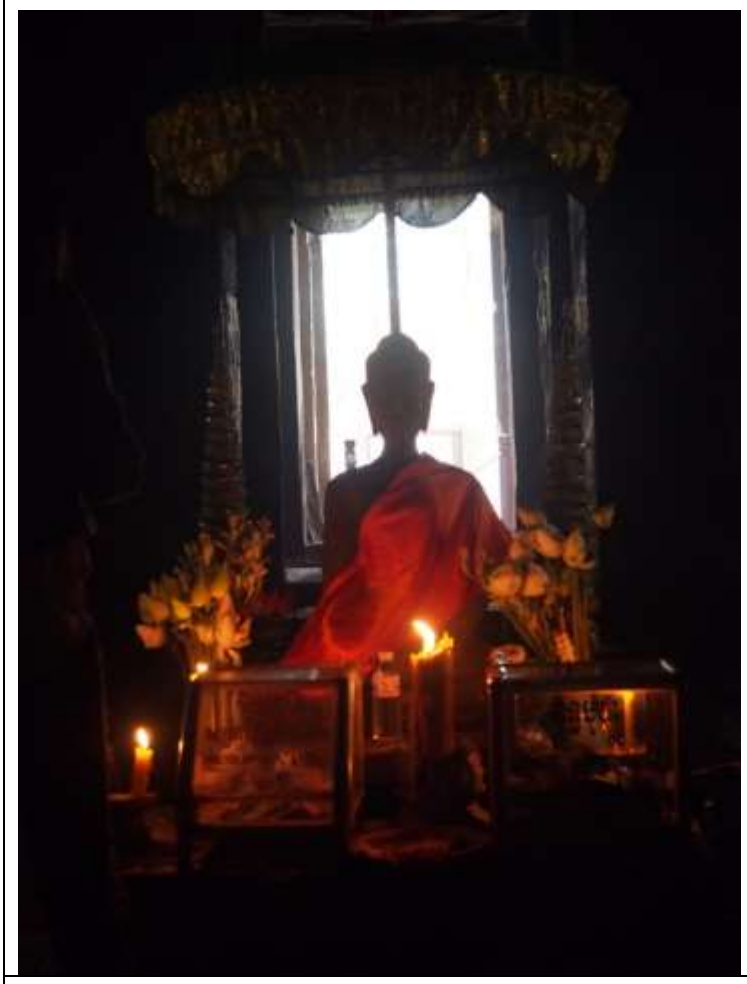
　バイヨン寺院の内部にはインド風な八角形の柱がありました。

東棟の四面観音。

南塔の四面観音

西塔の四面観音

いえいえ、おことばではありましょうが。
決して不純な動機で撮ったわけではありません。北方モンゴロイドと南方モンゴロイドの彫刻を対比してみたかっただけです。



ジャワにもたくさんあるこのような石塔は本来このようなかたちで真ん中に仏像があったのでしょう。

見上げると明り取りの穴が一つだけ。

もう圧倒されて、言葉がありません。
貴兄のように宗教学、民俗学、人類学の基礎知識を身に着けている同伴者と一緒なら、どんなに違った遺跡観光になるのか、空想しています。
政治や支配、権力の立場から、あるいは一般の庶民の立場から、両面から歴史の側面に光を向けられる人は貴重です。

ebatom 2016/10/11(Tue) 16:57:57 No.3931

Re: アンコールトム　一日目

ebatom さま

お言葉ありがとうございます。
でも、僕はやはり……「物好き」の部類なんでしょうね。
元勤務先の同僚には高級蘊蓄屋がたくさんいましたのでこれらの先輩から間の薫陶を受けたものでしょう。
こんな僕と旅行したら鬱陶しい限りかもしれませんよ。ははは。

ラテライトブロック。背景にでもお使いください。

デフォルメもここまで来ると醜悪としか言いようがない。
スリランカもカンボジアもほぼ同じ。

象のテラス。 王宮の入り口だったようだ。

アンコールトム域内の門
この辺りは巨木が多く、森の精がたくさんいるので森林浴に最適。

タ･プローム遺跡

東側の入口。修復がされていない。
地震で破壊されたのではなく、植物が構造物の間に入り込んで徐々に破壊された遺跡で、熱帯の植物の強さが良く現れている。

中央祠堂外景

観光案内には必ず掲載されている、熱帯植物が遺跡を食べている光景。

こらこら、右下の女性のお尻に目が行くなんて、罰当たりが!

入口の装飾

回廊の外景

回廊の中。

境内の祠堂。どことなくミーソンの構造物に似ていないか?

これもミーソン遺跡の祠堂に似ている。

何故か繁栄と栄華を象徴しているようで、この「タ・プローム遺跡」が一番親近感が沸きます。
ここはアンコール・ワットから離れているのですか？訪問したいですね。
少し待っていれば、通行人が途切れることがありますか？三脚は禁止ですか？

レンズ前が汚れているのでしょうか、少しハレーションが目立ちますね。

ebatom 2016/10/12(Wed) 23:13:25 No.3946

Re: タ・プローム遺跡

ebatom さま
アンコールトムの約 5km 東側です。
自転車なら大変ですが、トゥクトゥクなら楽勝です。
「タ・プローム」でググ地図をしてみてください。

>少し待っていれば、通行人が途切れることがありますか？
早朝なら来客が少ないので大丈夫だと思います。

>三脚は禁止ですか？
たぶん問題ないでしょう。

この時刻になるともうヘロヘロだったのでレンズが汚れていたのに気が付きませんでした。へへへ。

中央祠堂

柱の彫刻。

タ・プローム遺跡入口のトゥクトゥク。

バンテアイ・スレイ

967 年創建。アンコール朝の摂政ヤジュニャヴィラーハの菩提寺。ヒンドゥー教シヴァ派だそうです。ほぼ全てがラテライトで作られています。
この寺院に入るためには前もって入場券を購入しておかなくてはなりません。現地では入場券の販売を行っていないため、回数券を持っていなかった B 君は中に入ることができませんでした。

外壁の門

入口の門の装飾。
扉の枠がなんとなくギリシア遺跡のものに似ていませんか?

参道の景。

あのさぁ・・・。いくら便利だからって、こんなもので斧や蛮刀を研がないでほしいなあ。
アフリカ・リビアのローマ遺跡でも何かを研いだ跡があった。そこの材料は大理石だったので、砥石には不適だったろうが、こちらのヨニの材料は砂岩だから格好の砥石になったろう。インドネシアでも研ぎ跡のあるヨニがたくさんある。

珍しい双子のヨニ。

中央祠堂正面

中央祠堂横の経蔵

ナンディ（聖牛）。ポルポト軍に壊されたものだろう。
破壊されていなかったときは写実的で美しかったろうに。残念だ。

中央祠堂側面。
ラマヤナ物語でいう、ハノマン。これが孫悟空の原型だという人がいるが、本当だろうか?
ハノマンのモデルは尻尾のあるサルだが、西遊記に出てくる孫悟空は尻尾がないタイプだよ。

この反対側も同じくハノマンが。

中央祠堂壁面の模様。
こういうボーダー柄はインドのサリーによく見られるような気がする。

今回の旅行で一番良い出来だったのがこの写真。
寺院全景。

反対側からの全景。
展望スポットという立て看板があった。

この遺跡の裏側で民族音楽を演奏していた。

さらに奥に行くと。

シェムリアップに戻る途中に「地雷博物館」がある。人間の愚かさ・憎悪が見られる。

静かな寺院遺跡巡りから突然、血だらけの人間が飛び出してきたような気がします。

おやおや、僕と同じく第二の人生ですね。
お互いに日本出身だし、せいぜい頑張りましょうや。

第 57 話　2016 年 10 月 13 日　シェムリアップ珍道中

<10 月 1 日>

この日は朝からＴ君がアンコールワットとアンコールトムの遺跡巡りに出かけたので、Ｂ君はトンレサップ湖岸のプノンクロムに魚釣り。前の晩に仲良くなったメキシコ人青年３人を誘っていったのでした。

Ｔ君がアンコールトムをうろうろしていたときに、Ｂ　君から電話があった。この地区は高い鉄塔を建てられないのでケータイ電話の電波が極めて弱く、何回かかけ直した挙句、自動車をプノンクロムに送ってくれということが理解できたのだった。この自動車でタ･プローム遺跡までＴ君は送ってもらい、待ち時間の間Ｔ君は自由に遺跡参観ができました。

この日 T 君は 4 リットルほど汗をかいたようで、タオルの汗を二回も絞っていました。「写真を撮るだけでも疲れるなあ」と。

第 58 話 2016 年 10 月 14 日　B 君の釣果を

T 君が宿に着くと、B 君はもうホテルのキッチンで釣り上げた魚をさばいていました。その晩はホテルの厨房でこれらの魚を使った料理を作ってもらいました。おいしい魚でしたのでトムヤンクンとカンボジア風スープにぴったりでした。

あまりに疲れていたので料理の写真を撮るのも忘れていました。

第 59 話 2016 年 10 月 15 日　バンテアイスレイ

<10 月 2 日>

旅行最終日。ホテルをチェックアウトしてＴ君はＢ君を誘って、アンコールワットの北東にあるバンテアイ・スレイ遺跡へ。ここは 967 年創建のアンコール朝の摂政ヤジュニャヴィラーハの菩提寺です。ヒンドゥー教シヴァ派だそうです。目の粗いラテライトに精緻な彫刻が施されている赤い寺院です。

朝から観光客でにぎわっていましたが、参詣のために訪れた人はほとんどいませんでした。この寺院に入るにはアンコールワットの入場券が必要で、寺院入口では入場券を販売しておらず、シェムリアップまで約 20km も戻らなくてはなりません。このため有効期間中の入場券を持っていなかった B 君は外で待ちぼうけを食わされました。

第 60 話　2016 年 10 月 16 日　中華学校

どこに行っても華人たちは教育熱心ですね。これは旅行中に見かけたバッタンバンの 2 通りにあった「連華学校」の外景です。

華僑たちが移住した土地で学校をつくる理由として、移住先でも中華文明を伝承していきたかったからという理由もありましょうが、現地に適当な学校がなかったからということが主な原因ではなかったでしょうか。世界中どこに行っても中華学校があるのは、移住先で教育が需要だと彼らが認識したからでしょう。というのは固定化した祖国中国の社会では読み書きは信用できる親戚の人たちにしてもらうことができ、それで生活には問題がありませんでしたが、移住先ではそのような人は望むべくもなく、彼らの無教育が大きな実質的損失を産んだからではなかったかと思います。長期間にわたる中華文明の影響で、華人たちはそれ以外の価値観を認めることを自分たちのアイデンティを失うことと同様だと考えていたに違いありません。移住先に欧州人が設立した適当な学校があったとしてもこの理由からかれらは中華学校を立てざるを得なかったのかもしれません。この中華思想のゆえに、日本の明治時代前期における中国では西洋の近代的思考体系と用語を中国語化(漢字化)できませんでした。現在中国語で使っている、革命、文化などの語彙はもともと日本で発明された単語です。

第 61 話　2016 年 10 月 18 日　華人の移住

東南アジアに多くの華人たちが移住したのは太平天国の乱、日清戦争、義和団の乱と辛亥革命の国内混乱期でした。たまたまこの時期に東南アジアの植民地では熱帯プランテーションの労働者を必要としたため、多数の華人が難民同様に東南アジアにわたることになりました。特にイギリスの植民地であったマレーシアには大量の華人が労働者として、管理人としてインド人が移住しました。いまでこそマレーシアで華人は経済を牛耳っていますが、150 年前は今のシリア難民のような状態だったのです。

おりしも、海上交通は帆船から蒸気船に主体が移り始め、運賃も帆船時代の十分の一になったため、大量の移住者の輸送が可能になったことが言えます。蒸気船の普及が進まなかったらこれほど多数の華人たちが世界中にチャイナタウンを作ることもなかったかもしれません。こうやって歴史を紐解いていくと、「あ

んパンを潰したような」という表現のように、最も弱いところ、最も都合が良いところ、に歴史が「はみ出していく」ように見えてしようがありません。

マレーシアとインドネシアの華人たちのほとんどが福建省出身者でいまでも福建語がつかわれていますが、カンボジアでは広東省の東部にある潮州出身者が多いようです。

第 62 話　2016 年 10 月 18 日　カンボジアの水田とコメ

車窓を眺めながら、カンボジアの水田は水田らしくなく、背の高い草原のようだと T 君がつぶやいていました。カンボジアの水田のイネは日本やインドネシアのようにきちんと列になって植わっていません。

カンボジアではきちんと列をなして苗を植えることをせずに、苗を投げて植えるからだと B 君が教えてくれました。この方法だと田植えは楽なのですが、イネの生育中に行わねばならない雑草取りが極めて難しくなります。列にして植えれば株の間を除草機できれいにすればいいのですが、投げ植えだと株の間が不等間隔になり除草機が使えません。

不精だなんだとカンボジアの農民を軽蔑しているようですが、この地域のコメはタイやベトナムに輸出されて、タイ米やベトナム米として世界中に輸出されています。農民は貧しいためコメ備蓄倉庫がないため、泣く泣く安価で売らざるを得ないのだそうです。これがジャスミンライスと呼ばれているもので、現地でも普通に入手出来て大変に美味です。粘ったコメが好きな日本人の舌には合わないかもしれませんが、日本製の炊飯器でこれを炊いたご飯はふりかけだけでお茶碗一杯はいけます。

第 63 話　2016 年 10 月 20 日　混然一体のカンボジア人

カンボジア人と言っても単一民族ではなく、大多数がクメール系で華人とチャム人、ベトナム人（京族）がいます。しかしながら、これらの部族間での通婚が一般的なようです。下の写真はＢ君とＴ君が働いている事務所のスタッフです。顔かたちはとりどりでインドネシア人と見間違えそうな人もいますのでじっくり見てください。

多数の華人がカンボジアの津々浦々にまで住みついています。ポルポトの大虐殺から生き延びた彼らの子孫たちも多数みられます。

ポーサット町の洋品店のオーナーの家族のこの二人の若い女性は一見して分かるように華人の容貌を備えています。

市場内の華人のおばあちゃんと孫娘

第 64 話　2016 年 10 月 21 日　市場でも多数の華人とチャム人が商売をしています。

ベトナム中南部からカンボジア東部に住んでいるチャム人はほぼ全員イスラム教徒ですから家の外ではクルドゥンをつけています。チャム人たちは中国史書では占城などと書かれているチャンパ王国を建国し、もっぱら会場交易で収入を得ていました。交易が活発化して豊かになった彼らは 4 世紀頃からベトナム中南部で多数のヒンドゥー教の寺院を建設し、ミーソン遺跡に代表されるように現在まで残っていて観光資源になっています。チャンパ王国では元朝時代の 12 世紀ごろからイスラム化が始まりました。フビライハンが西アジアまで征服して中央アジアに総司令部を置いたため、駐屯していた若いモンゴル人将兵たちは現地の女性と結婚しました。その当時中央アジアではイスラム化されていたので、彼らの子孫たちは必然的にイスラム教徒になりました。中国西部地域に配置転換された駐屯将兵からの影響で、現在の四川省と雲南省ではイスラム教が広まり、現在まで続いています。雲南人のイスラム教徒で歴史上有名な人は鄭和提督です。またベトナムに隣接する雲南省から派遣された雲南人がチャンパ王国に持ち込んだイスラム教は鄭和提督の後援を得て発展を遂げました。チャンパ王国で普及したイスラムは、交易先のインドネシアまで持ち込まれ、現在の形になっています。東南アジアのイスラムは現在でこそシャフィー派ですがその当時はハナフィー派でした。

第 65 話　2016 年 10 月 22 日　市場の美少女が

クメール系が人口の多数を占めるのにもかかわらず、市場で商売をしている人たちには華人とチャム人が目立ちます。この人たちは先祖伝来商売で生きてきた人なので、農民になるより手っ取り早かったのかもしれません。

典型的なクメール人の少女はこんな感じですが、40 年もたつとこうなってしまうの

でしょうか。

第 66 話　2016 年 10 月 23 日　カンボジア華人

カンボジア以外では華人たちがしばしば排斥や反華僑暴動で苦汁をなめているのですが、カンボジアでは反華僑暴動のようなものは一度も起こっていないとのことです。毛沢東路線を突っ走って多数の有識者たちが殺されたポルポトに対する反感から在住華僑に対する蔑視や差別が生まれても当然なのですが、どうもその雰囲気はありません。ひょっとするとカンボジア人たちは自分たちを中国人の一部だと考えているのかもしれません。

在住華人の大多数は太平天国の乱から辛亥革命の時に中国から渡ってきた人の子孫のようです。この時には華人女性も伴って移住してきた人が多かったようです。というのはこのころに海上輸送の主役が帆船から蒸気船にかわり、運賃が十分の一に下落したからです。その前は運賃が高かっただけではなく、危険も伴っていたため、東南アジアに渡航した華人は男性のみだったようです。彼らが現地の女性と結婚してできた子供たちは華人と認識されています。

第 67 話　2016 年 10 月 24 日　華人にとって住みやすいカンボジア

事務所にいる女性スタッフ達は平均して男性たちより声が大きく、言い方もつっけんどんで命令口調。それに男性たちは唯々諾々と従っています。どこかで見たような風景だと思ったら中国人の旅行者の行動でした。特に 30 歳台の二人が大声で話しますので、「あんたら一人いるだけで、いない時の三倍うるさい。あんたら二人揃ったら六倍ではなくて九倍うるさい」と言ってやりました。これだけ皮肉を言っても反省が全くありません。これも「嗚呼、カンボジア」なんでしょうね。

華人とクメール人たちと通婚も普通のようで、移住民である華人たちと原住民のクメール人との間には全く差別がないとのことです。事務所のスタッフにも見るからに華人のような人や、アンコールトムにある彫刻

からそのまま抜け出たような人たちが混じっていますが、お互いの人種の違いは全く感じていないようです。華人が華人であるという自負心を捨ててしまったのか、あるいはクメール人も華人に含まれていると考えているのかどうかはよくわかりませんが、とにかく華人たちにとってインドネシアやベトナムより住みやすい社会であることは確かです。

第 68 話　2016 年 10 月 27 日　中国企業の進出

プノンペンには中国からの企業進出が多く、街には漢字の看板があふれています。まるで香港やマレーシアのようです。カンボジアの国語はクメール語で、タイ語ともミャンマー語とも文字が異なり、これらのどれ一つとして読めなくとも、漢字が読める日本人にとっては居心地がよく感じられます。レストランのメニューにも漢字表記がありますから、材料や大体の調理方法が推測できます。ただし、調理方法を知っていればの話ですが。

国道五号線沿いにも韓国や中国から進出した企業の工場があります。新しい工場は巨大で入口の表札から見ると中国からの進出企業が多いようです。国道沿いの縫製工場では労働者が数百人以上いて、2 から 3 シフトで働いているようです。シフト交代の時に通りかかると工員が道路にあふれているのを見かけます。中国国内での生産コストが相当に上昇しているためにこれだけ多数の企業が進出してきているということは、中国国内の失業者が急増しているとみてよいでしょう。

また、農業分野にも多数の中国企業が進出してきていて、B 君と T 君の担当しているプロジェクトに隣接する地域にキャッサバ農園を開いています。彼らは川に取水堰を設けて取水することになっています。河川水という限られた水資源をこれらの農園と既存の農民で構成する水管理組合との間で不満なく配分できるかどうかは水資源省の肩にかかっています。しかしながら、傍目で見ていると問題が起きそうな気がします。

第 69 話　2016 年 10 月 27 日　カンボジア人のしぐさ

世界のあちこちを歩き回っていると、土地によって挨拶の仕方に違いがあるのに気が付きます。

日本人は一般的に相手の体に触らないように少し離れて腰から上半身を折って頭を下げて挨拶するのが最も丁寧です。きちんと家庭教育を受けた中国人は同じようにあいさつしますが、ガサツな人たちはじろじろこちらを見ながら顎をしゃくるのだけです。彼らは決して敵意を抱いたり喧嘩を売っているわけではありませんので覚えておいてください。

一方、中東の丁寧なあいさつは同性同士互いに抱き合って頬を左右二回合わせるのが普通です。その時に「チュッ」と音を立てますがキスをしているわけではありません。頬を合わせると髭がざらざらして気持ちよくはありません。このように鼻をくっつけあうのはあまり見たことがありません。

また南米でも同じように頬を合わせますが、大体一回だけで親しい男女の間でも行われています。

アジアでも欧米風に握手する風習が広がっていますが、まだまだ伝統的な挨拶も家族間では行われています。例えば、ベトナムを除くインドシナ諸国とインドネシアでは両手を合わせて相手に挨拶するのが普通です。もちろんカンボジアでも同様です。またジャワでは合わせた手の中指の指先を互いに触れるという方法が一般的です。

第 70 話　2016 年 10 月 28 日　カンボジア人のしぐさ（続）

インドネシアのジャワでのもっと礼儀正しい挨拶は Sumbah Sengkam と呼ばれるもので、若輩者が年長者の右手をとって

少し前かがみになってその手の甲に口づけしているように見えますが、実はその手の匂いを嗅いでいるだけです。

写真はジャワ式の結婚式で「あなたに忠誠を誓います」と花嫁が宣言しているところです。ジャワ人が多数を占める地域の西側に隣接している地域に住んでいるスンダ人たちは、花婿が生卵を踏んで、その足を花嫁が布で拭くことがこの宣言に当たるようです。ですから「卵を踏んだ」というのが結婚しているという意味に当たります。

インドネシアの他の地方ではへっぴり腰で腰を少し折ることはしますが顔は相手を向いたままです。昔の日本における小間使いが旦那さんから話しかけられたときに「へい」と返事をするときのような姿勢です。

カンボジアでもインドネシアと同じような挨拶をするのかと思いましたら、両手を胸の前で合わせて挨拶する以外には日本人と全く同様に頭を深く下げて挨拶をすることもあります。カンボジアの事務所の人たちのうちで礼儀正しい人は、立ち止まって深く頭を下げています。

世界の数十か国を歩いてきましたが、日本人と同じようにあいさつするのはカンボジア人だけでした。その理由はよくわかりません。

第 71 話　2016 年 12 月 21 日　チャム語とインドネシア語

安本美典著「日本語の起源を探る」という古い本に比較言語学のデータとして基礎語彙 200 というのがありました。この本の中で語頭の文字だけを比較する方法があったのでそれを、英語と日本語、インドネシア語のうちチャム語に当てはめてやってみたところこんな結果になりました。

	日本語	インドネシア語	チャム語
英語	11	12	11
日本語	--	24	16
インドネシア語	--	--	46

英語と、上記のアジア諸言語は系統が全く異なるのにもかかわらず、11 あるいは 12 語の語頭が同じです。これは 5～6%の単語の語頭が一致しているということになります。すなわち偶然の一致としてよいでしょう。日本語とチャム語の合致数は 16 ですから日本語とチャム語はかなり遠い言語です。

一方、インドネシア語は日本語と 24 語、チャム語とは 46 語も一致しています。すなわちチャム語は日本語に比べてインドネシア語にずっと近いということが言えます。が、しかし、インドネシア語に堪能な B 君も T 君も現地でチャム語を全く理解できませんでした。言語学者の説によるとチャム語はポリネシア−インドネシア語族に含まれるとのことですが、この二つの言語は相当昔に分離して独自の進化を遂げたものものでしょう。

チャム語がインドネシアのアチェ語に似ているということで、アチェ語のメッセージの録音をチャム人に聞いてもらいましたがまるで分らないとのことでした。アチェ語との比較結果は後日掲載します。

1970 年代に聞いた「カンボジアではインドネシア語を話す部族がいる」という話は聞き間違いだったのかもしれません。ただし、カンボジアのチャム人にはムスリムが多数のマレーシアやインドネシアに留学した人が多数存在するとのことですので、昔から交流があってマレー語を話せる人がいて、たまたまインドネシア人の兵隊がこの人たちとコンタクトを取ったのかもしれません。

この話をしてくれた方は PKO でカンボジアに派遣された人でしたが数年前に亡くなってしまい、真偽のほどを確かめようにもありません。残念でした。

第 72 話　2017 年 01 月 04 日　チャム語とインドネシア語（続）

今度は、文字全体を見て発音が似ているものや意味が似ているものの数を数えてみました。すると、

インドネシア語とアチェ語、チャム語に共通する単語は 45 個、インドネシア語とアチェ語では 93 個、あ

チェ語とチャム語では 68 個、チャム語とインドネシア語では 58 個でした。調査したサンプルの数は 192 例でしたから、これら三言語に共通する単語はなんと 45/192 = 23.4%にも及びやはり親戚関係にあることがわかります。興味を引くのはチャム語により近いのはインドネシア語ではなくアチェ語であるということです。

インドネシア語はもともと東南アジアの島嶼地域の共通通商用語でしたから、広大な地区に広がっていることは当然なのですが、この共通語よりアチェ語がチャム語に近いということが不思議です。

English	Japanese	Indonesian	Aceh	Champa
Bark	かわ=樹皮	Kulit	Kulet kayee	k-Lyek K-yau
Blood	血	Darah	Darah	D-Gah
Bone	骨	Tulang	Tuleueung	T-Lang
Breast	胸	Dada	Dada,	Da
To die	死ぬ	Mati	Matee	MTai
Eye	眼	Mata	Mata	Mata
Feather	羽	Bulu	Bulee	B-Lau
Fire	火	Api	Apuy	Puy
To give	あげる	Beri	Jok, Brie	B-Gai[5]
Green	あおい	Hijau	Ijo	Jau
Liver	肝	Hati	Atee	Tai
Louse	シラミ	Kutu	Gutee	K-tau
man	男	Laki	Agam, Lakoe	L-kai
Moon	月	Bulan	Buleun	Air Blan
new	新しい	Baru	Baroe	B-Hau
Night	夜	Malam	Malam	Malam
Nose	鼻	Hidung	Idong	Dung
One	ひとつ	Satu	Sa, saboh	Sa
Red	赤い	Merah	Mierah	M-Giah
Road	道	Jalan	Ret, rot, Jalan	Jalan
To sit	座ってる	Duduk	Duk	Dhok La
Skin	皮	Kulit	Kulet	K-Lyek
Stone	石	Batu	Batee	P-Tau
Tree	木	Kayu	Bak Kayee	Phon K-Yau
Two	ふたつ	Dua	Dua	Dua
Water	水	Air	Ie, I	Air
White	白い	Putih	Puteh	Ptih

[5] インドネシア語の bagi の意味には「分け与える」ことも含まれている。

Animal	動物	Binatang	Bienatang	Banatang
Child	子供	Anak	Aneuk	NeuQ
Father	父	Ayah	Yah, Abu	Yah
Five	五つ	Lima	Limong	L-Mauq
Flower	花	Bunga	Bungong	B-Ngu
Fruit	実	Buah	Boh Kayee	Boh Kayau
Fur	毛皮	bulu	Bulee	B-Lau
If	もし	Kalau	Miseu, Meunyo	kalau
Mother	母	Ibu	Poma, Ma, Mak	Meik
Old	古い	Tua	Tuha	Taha
To play	遊ぶ	Main	Meu-en	Ma-en
Rain	雨	Hujan	Ujeun	Jan
Sea	海	Laut	Laot	Tasiyk
Short	短い	Pendek	Paneuk	P-Nark
Sky	空	Langit	Langet	La Ngiyk
To smell	嗅ぐ	Cium	Chom, meubee	Joum
Snake	蛇	Ular	Uleue	La
To tie	結ぶ	Ikat	Ikat	Kak
Wind	風	Angin	Angen	Ngin
Wing	羽・翼	Sayab	Sayeup	Seuk
Wood	林	Kayu	Kayee	Kayau
year	年	tahun	Thon	Tahun

第 73 話　2017 年 03 月 06 日　乗用車はトヨタカムリばかり

カンボジアに来て驚いたのは走っている自動車の大多数がピックアップトラックであることでした。話によるとセダンよりトラックの方が税金が安いとのことで、これは納得できました。

ところが、セダンをよく見ると 95%がトヨタカムリばかり。確かにほかの車種もあるにはあるのですが、なぜこうなのでしょうか。不思議に思って現地の友人に尋ねると、最初に入って来たのかトヨタカムリで、それまで輸入した自動車より頑丈で、経済的でスペアパーツの購入も容易であるとのことで一斉に広まったとのこ

とでした。確かに約 20 年前のモデルのカムリもよく見かけます。

他にはレクサスの新車もかなり見かけました。ひょっとすると日本よりレクサスの割合が多いかもしれません。これはお隣のベトナムでもそうでした。富の偏在がかなり進んでいるのでしょう。

大型トラックも日本製の中古車がたくさん走っています。話によると、中国製の新車を買うより日本製の中古車の方が頑丈で燃費もよいわりに値段も同じ程度とのことでした。日本製なら右ハンドルなのですが、左ハンドルに改造してありました。

バスは左ハンドルの韓国製の中古が大多数でした。バスを国産しているインドネシアに比べるとバスのクラスも低いことが言えます。

第 74 話　2017 年 03 月 14 日　地下水のはなし

2016 年 5 月に T 君が始めて赴任した時に、T 君は住宅に多数の天水を溜める水がめがあるのを見つけました。「この地域では地下水の水質が悪く生活用水として使えないから住民たちは天水を利用しているのだ」と B 君は解説してくれました。

その後 T 君が現地の友人宅を訪れた際に上水道から井戸の話になり、その友人曰く、深さ 30m 掘っても地下水は出てこないし、100m 掘ると地下水はあるのだが鉄分などミネラル分が多くて水浴などにも使えないといっていました。

通常地下水は粘土層のすぐ上にある礫層に存在し、それがゆっくり流れていくことで清浄さが保たれています。しかし、トンレサップ湖沿岸では地中深くまで細かい砂の層であり粘土層がないため地下水が溜まりにくいのでしょう。

ポーサット町ではポーサット川から取水した原水を処理して上水道として給水しています。臭いも色もない良質の水ですが、今では町の人たちはミネラルウォーターを飲み水としています。

第 75 話　2017 年 05 月 23 日 「Common sense ってどういう意味?」とカンボジア人のスタッフが尋ねてきた。

というのは、社内ミーティングの際に頻繁に B 君が common sense という言葉を口にするからだ。

Google 翻訳で検索をかけてもクメール語には common sense に相当する言葉がない。

Weblio では common sense をこう定義している。

常識, 判断力《★【異文化】 日本では「常識」は社会的儀礼としての知識だが, 英米では人生の経験から身についた日常の実用的な思慮分別をいう》

B 君がミーティングの席上使っている common sense とは仕事上における「人生の経験から身についた日常の実用的な思慮分別」であり、B 君が誤用しているわけではないのだ。

確かにわが技術系スタッフのほとんどがこの思慮分別に欠けているように見える。仕事は普遍的ともいえるプロセスに沿って進めるのであるが、彼らを観察しているとこのプロセスを全く理解していないようにみえる。彼らはそれ相応の現場経験をしてきているはずなのだが、それから学ぶことはなかったのであろう。理性で考えるよりもその場の感情で処理するほうが「脳が疲れな」いから楽なのだろう。70-80 年代のインドネシア社会と全く同じである。

それ故に、仕事上、あちこちで齟齬が発生して仕事がなかなか前に進まない現状にある。

閑話休題。さて、「常識」にもどろう。

社会とはこの common sense 共通理解の上に成立しているはずなのだが、クメール語にはそれに相当する語彙がないということは、社会があまりに均一化しているために「常識」として認識されていないか、あるいは社会が文化的に細分化していてエスニックグループ間でのコンタクトがないかのどちらかであろう。

しかし、カンボジア社会の現況をみていると、このどちらにも相当しないのである。

一体この社会はどうなっているのだろうか。

誰かおせーて。

第 76 話　2017 年 07 月 03 日　じゃんけんぽん

日本では順番を決めるのに普通に使われている方法だ。

紙とはさみと石の三すくみだ。 この三種類の物質とジャンケンポンがどのように関係しているのか疑問に思ったことがあった。

1980 年代中盤にマレーシアに転勤していた時、自宅の近くに住んでいる福建省出身の華人の子供たちがジャンケンポンをしているのを目にした。ローカルスタッフに尋ねてみると、これはチェン・シェッ・プと発音するらしく、意味は鋏、石、布とのことであった。

その 5 年後にインドネシアのジャワ島に転勤した時にジャワ人に尋ねてみると、じゃんけんに似たものはあるが、グーチョキパーではなく、親指(象)、人差し指(人間)、小指(蟻)の三すくみであった。

ウエブで見てみると、タイでは日本と同じジャンケンポンであり、カンボジアでも同様であった。

ということは、インドシナは中国の文化が相当にしみこんでいるという結論を導き出しそうだ。

第 77 話　2017 年 10 月 17 日　田舎で和食を

カンボジアの田舎町に駐在して困ったことはいろいろありますが、その中でも大変だったのは「食事」です。

賄いのおばちゃんは結構いろいろなものを作ってはくれるのですが、日本食や洋食を作ったことがないので、毎日毎日カンボジア料理でした。

「和食を教えりゃいいじゃん」という声も聞こえてきそうですが、朝七時半から夜八時半まで事務所に缶詰

の二人のじいさんたちＢ君とＴ君にそんな余裕はありません。土日もほとんど出勤です。

たまの日曜日に、Ｔ 君がポーサットの市場から食材をいろいろと仕入れてきて作っていました。以下はその記録。

(1) とんかつ⇒ 糖尿病と逆流性食道炎で前歯が抜けてしまった Ｂ 君には肉が硬くて食べるのが苦行でした。

(2) クリームシチュー⇒シチューの素を使って Ｂ 君が作りました。つぶつぶコーンを一缶シチュー鍋に入れてしまったので、このおばちゃんのクリームシチューにはコーンが入ることになりました。その後、ミルクとバターと小麦粉でホワイトソースの作り方を Ｔ 君が教えたので、おばちゃんは時々クリームシチューを作ってくれるようになりました。

(3) ビーフシチュー⇒これも Ｔ 君のオハコでしたが、完熟トマトが入手困難なのでトマトケチャップに頼ることになり、なんとなく甘いものになってしまいました。ポーサットの市場で売っているビーフを使ったので、歯ごたえが素晴らしく、Ｂ君には悪いことをしてしまいました。圧力鍋があればよかったのに。

(4) 親子どんぶり⇒咀嚼に問題があるＢ君のために、Ｔ君が親子どんぶりを作りました。横で見ていたおばちゃんは「へー、簡単なんだね」と。これは大成功。

(5) 中華三昧の鍋物⇒Ｔ君が 9 月に東京から来た時に中華三昧を 6 袋持参しました。もちろん業務スーパーの安売りを狙って買ってきたものです。この一袋をつかってなべ物にしました。野菜は白菜と人参と長ネギの代わりの分葱、豆腐。粉の調味料だけを鍋にぶち込んで、塩と中華チキンスープでスープの味を調えます。それに切った野菜と手羽先を入れて煮れば出来上がり。最後に液体スープと乾麺を入れて水を足して煮あがったら、シメの野菜ラーメンになります。

こんな寂しい食卓は都会では考えられないでしょうが、頭の体操になることは確かです。

第 78 話　2017 年 10 月 23 日　フレンチトースト

カンボジアの田舎町での生活で少しでも食生活を楽しもうと、B 君はプノンペンからホットケーキミックスを買ってきておばちゃんに作らせています。

おばちゃんも「女の子」ですから、こういうお菓子作りは大好きで、時々朝食に作ってくれているようですが、T 君はホテル住まいなのでこのホットケーキにはなかなかお目にかかることはありませんでした。

T 君が早朝サイクリングの途中で B 君を訪ねた時に薄くスライスされた食パンをたまたま見つけたので、冷蔵庫にあった卵と牛乳と蜂蜜でフレンチトーストを作ってあげました。B 君が硬いものを食べられないので、どうしてあげようかと考えた結果でした。

おばちゃんは T 君のそばについていてフレンチトーストをどうやって作るのかをじっと見ていて、「簡単なのね」と一言。

出来上がったフレンチトーストの一枚を勧めると「いらない」と言っていました。食べたことのないものにはいささか拒否反応があったのでしょう。二回目のフレンチトーストを作った時におばちゃんは喜んで食べてくれました。というのは B 君が出社した後、一人でフレンチトーストを作って食べてみて味をしめたようなのです。

ここで T 君が忘れたのはシナモンをかけることでした。町の市場でもシナモンは売られていましたから現地の人も料理に使うのでしょうね。次回はシナモンをかけてみましょう。

2017/9/21 KM Hotel Pursat

第 79 話　2018 年 03 月 24 日 タイへ陸路で出張

2017 年 10 月に帰国してから約半年間、T 君は現場がどうなっているのだろうかと気にかけていましたら、ようやくB 君からお呼びがかかって厳冬の 2 月 27 日にカンボジアに入ることができました。工事現場に行って驚いたのは土木工事がほとんど進んでいないことでした。

それはさておき、T 君は 3 月 11 日から四日間の予定でタイの東南部の Rayong という町に出張したのです。この町は国際的に有名なパタヤからそれほど遠くはないのですが、日程の都合でそこには寄ることができませんでした。

国外出張というと日本人は普通飛行機で行くことを考えるのですが、そこはインドシナ半島にあるカンボジアですから、陸路で行くことになりました。といっても途中で自動車を乗り換えていくのです。というのはカンボジアはベトナムと同じく右側通行ですがタイは日本と同じ左側通行なので、どちらかに慣れた運転手にとって反対側での通行は疲れるからです。

出発地のポーサットから目的地のラヨーン市までは約 400km でカンボジア国内は約 200km で、所要時間は約 9 時間でした。カンボジアとタイの間の主要路はポイペト経由なのですが、今回はバンコクに行かないのでその南側のプサール・プロムという町で国境を越えました。

カンボジア側にあるこの町にはたくさんのカジノがあり、カンボジア人はそれほど博打に興味を抱いていないとのことで、主にタイ人、最近は中国人でにぎわっていると聞きました。主要路の国境の町ポイペトにはカジノが軒並みあるとのことでした。

陸路での国境越えは初めての体験でしたので何か起きやしまいか心配しましたが、なんなく通過することができました。

このルートでは小さな川が国境となっています。この川にかかる工兵隊がかけるような Bailey bridge (ベイリー橋)を渡るとそこはタイ王国でした。

イミグレーションの事務所は国力の差が歴然と現れており、カンボジア側は古い民家の軒先のような事務所でタイ側はもう少しちゃんとした事務所でした。

タイ側に国境を越えると下り坂が続き、道路はカンボジアとは比較にならないほど整備されています。四車線道路で一般道ですが時速 100km で走れるほどきれいで車はほとんどゆれません。

カンボジア側には町があるのですが、タイ側は国立公園になっているようでほとんど無人の森林の中の四車線道路を疾走していきます。交通量が少ないので、運転してみたい気分になるほどです。

プサール・プロムのカジノ　プサール・プロムの町の風景

第 80 話　2018 年 03 月 24 日　おばちゃんは腰巻一つだけ

昨年の秋の現場視察の際、田舎のおばちゃんが腰巻一つで家の裏で仕事をしているのを見ました。それまでカンボジアの女性はいつも胸を隠していると思っていたら、今回のラヨーン出張の車内での雑談で、そうではないことがわかりました。

60歳になるカンボジア人の友人の母親は他の田舎の人と同様に家では上半身裸でいるのが普通であるとのことでした。でも、外出の際にはもちろんブラをつけていきますので、ご心配には及びません。

また年配者がショーツ履き始めたのはそれほどむかしではないそうです。日本では 1931 年の白木屋百貨店の火災の後ショーツが普及したとのことですが、カンボジアではここ三十年のことではないかと想像します。

事務所の女性たちにはパンティーラインが見えることはありません。ご心配なく。ぴったりしたトランクス型のショーツをはいているようです。町の家で見かける洗濯物もこのようなトランクス型ですから、一般的にこのような風習なのでしょう。これ以上詳しく尋ねると変質者と思われますからこの程度でやめることにしています。

インドネシアのジャワ島にはこんな笑い話があります。

http://omdoyok.web.fc2.com/Ah_Indonesia/Aind-16/Aind-16.htm

この中の「マンゴーのお礼」をご覧ください。

宿舎のおばちゃんだけでなくカンボジアの町の人達にも胸が豊かな女性が多いのですが、タイの女性たちはそのような人たちが多くないようでした。

またカンボジア人たちは肌の色が濃く、目が細い人が多いのに対して、タイの女性には色白で目がぱっちりした人が多いように感じました。

1970年代のインドネシア人には肌の色が濃い人が多かったのですが、その後の40年間にわたる経済発展で以前より肌の色が薄くなったように感じます。これは経済発展による所得増が、美白化粧品を買える余裕を女性たちに与えたのではないかと思います。

第 81 話　2018 年 04 月 11 日　クメール文字とタイ文字のレタリング

彼はクメール語もタイ語も全く分からないのですが、両者の道路のサインボードの書体には大きな違いがあることに気づいたそうです。

クメール語のレタリングはカリグラフィーのように縦線と横線の太さが異なる場合が多いのですが、タイ語のレタリングはどちらも同じ太さの線でした。

ということは、使っていたペンの種類が異なっていたからなのかもしれませんね。

なお、ジャワ文字はタイ語と同じように太さが同じです。

不思議ですね。

第 82 話　2018 年 05 月 04 日　東南アジア諸言語の比較

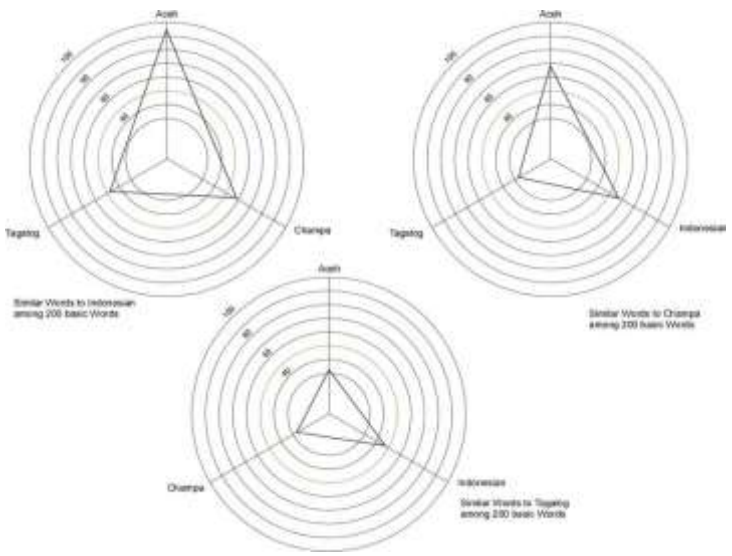
2018 年 4 月にインドネシアに出張した現場にたまたまフィリピン人がいたので、基本 200 語をタガロク語に翻訳してもらいました。

彼の尽力でインドネシア語と、アチェ語、チャム(チャンパ)語、タガロク語の比較表ができました。

これらの言語の間で似たような単語は上記の基本語 200 の内以下の表のようになりました。

	Aceh	Cham	Tagalog
Indon	95	59	47
Aceh	X	69	31
Cham	X	X	28

クモの巣グラフにするとこんなになります。



「偶然に似ている」単語、例えば英語の Name、インドネシア語の nama、日本語の「名前」というケースもありますが、統計的にみると数パーセントにすぎず、200 語中だと十数語ということになります。

上記の四言語の内、最も少ないのがチャム語とタガロク語間の 28 ケースですが、統計的に言うと関連があるという結論に至ります。

この言語はもともとスンダランドの南部で使われていた言葉ではないかと考えています。約 6000 年前に海面が上昇したためスンダランドの低地に住んでいた人たちはその周辺の山岳部に避難せざるを得なくなりました。それで、スンダランド祖語から独自に発展したものではないでしょうか。

インドネシア語自体がスマトラ島マラッカ海峡沿いで使われていた通商用語のミナン語が母体ですから、同じく交易民族であったアチェ人の言葉に似ていて当然です。チャンパ人も古代から通商を行っていたので、お互いに交流があったはずです。

一方、タガロク語との相関率が低いのはタガロク語を話していた人たちが、この通商圏から外れたところに住んでいたためにほかの三言語と乖離したものではないでしょうか。その道の学者ではないので詳しいことはわかりませんが。

タガログ語の表を見ていると、ジャワ語と似た言葉があるのに気づきました。現在ジャワ語の基本 200 語の表を作ってもらっているので、それができたら検討結果を報告しましょう。

第 83 話　2018 年 05 月 16 日　　東南アジア諸言語の比較（続）

以下はインドネシア出張中の T 君の報告です。

爺さん二人、田舎生活 in カンボジア(79)ではインドネシア語とアチェ語とチャム語、タガログ語の比較を掲載しました。

今回は周りにジャワ人が多いので、ジャワ語の三種類（Ngoko, Kromo & Krom Inggil)の三言語を追加して 7 言語の比較をしてみました。というのは、タガログ語を調べていくとジャワ語によく似たものがあったためです。

外側の縁が 100%、内側の円は 50%一致を示します。

このウエブチャートからみると、インドネシア語はほかの言語と似た単語が少なくとも 25%あります。ということは通商用語として使われていたという歴史が見えてきます。

アチェ語だとその数値が小さくなってきています。

チャム語だとさらに小さくなり、タガログ語では Kromo と Kromo Inggil を除くジャワ語と上記の言語とわずかに一致が見られます。

Kromo Inggil はインドネシア語グループの他の言語からかなり離れているのがわかります。ということは、Kromo Inggil 語は征服王朝が持ち込んだものではないかという推測が成り立ちます。
Kromoo Inggil がインドネシア語と近いのはジャワ語がインドネシア語にたくさん入っているからです。

ジャワ語には Ngoko と呼ばれる「目下に使う言葉」、Kromo と呼ばれる「普通の言葉」、Kromo Inggil と呼ばれる「目上に使う言葉」=宮廷用語があり、互いに影響しあってはいるのですが、相当に異なります。

さて、このブログの中心の話題になっているチャム語は、かろうじてインドネシア語とアチェ語、タガログ語と似ているのですが、ジャワ語とはほとんど関係がないようです。

この四言語がなぜ似ているかというと、これらの母語が現在南シナ海とジャワ海になってしまったスンダランドで使われていたのではないか推測できます。縄文海進などで、スンダランドから追われた人たちがフィリピンや、ベトナム、ジャワ、スマトラに逃げ込んだのでしょう。

この災難から数千年が経過していますが、基本単語 200 の内、いくつかはこの 4 言語で共通して使われています。

四言語に共通する単語はインドネシア語で書くと

darah (血), dada (胸), mati (死ぬ), mata (目), api (火), beri (与える), kutu (シラミ), laki (男), bulan (月), baru (新しい), hidung (鼻), satu (一つ), jalan (道), asap (煙), batu (石), putih (白い), lima (いつつ), langit (空), ikat (結ぶ), angin (風), tahun (年)

で、総数の 10%を越えます。

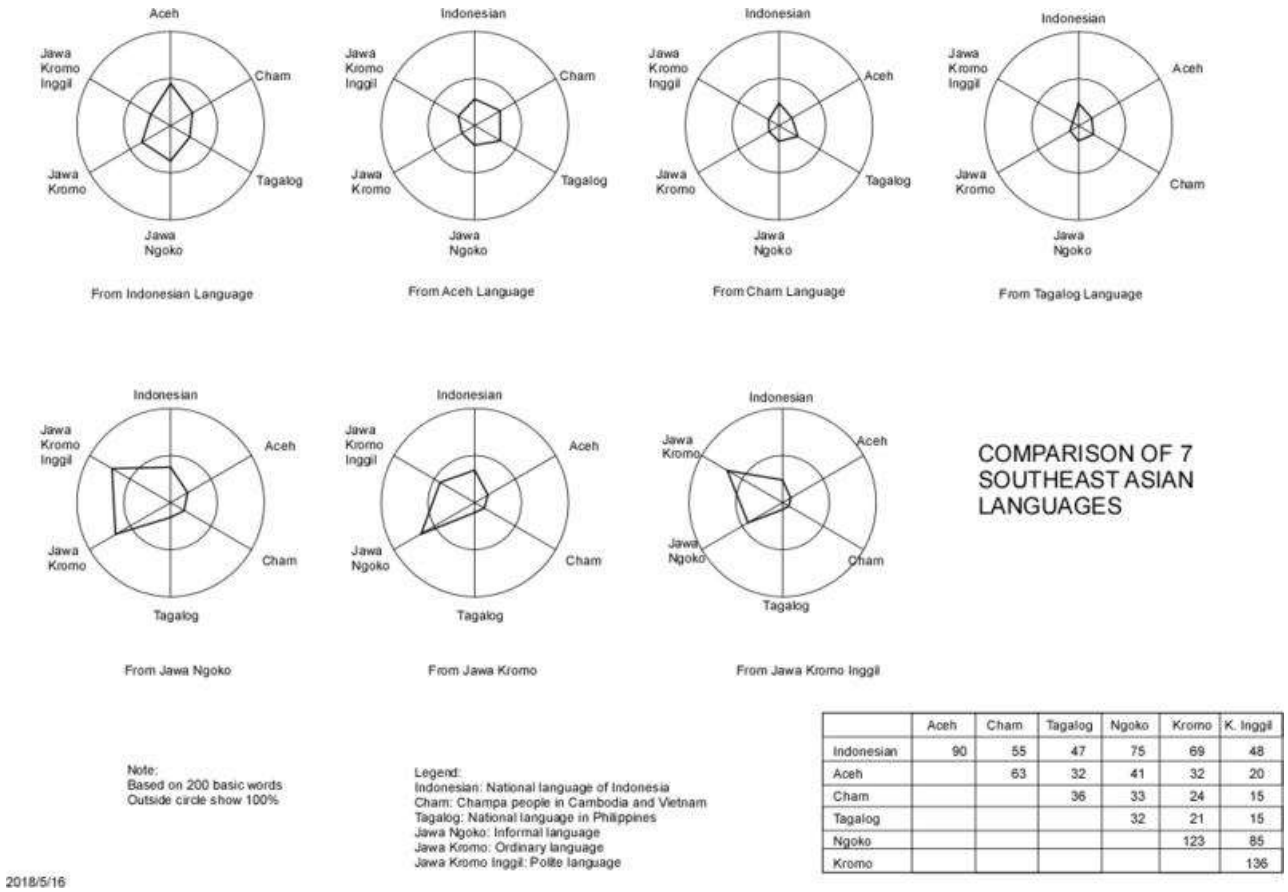
よほどのもの好きでなければ、こんな話題には興味を抱かないでしょうけど一応、報告まで。

前にも書きましたように、ベトナムとフィリピンを除く東南アジア諸国の言語はサンスクリット語を語源とする単語がたくさん入っています。

老齢を押してクメール語を習っていっているうちに、いくつかの単語がジャワ語にも似ていることに気づきました。近隣の南アジア語族諸語にはアクセントがあるのに対して、インドネシア語と同様にクメール語ではアクセントによる意味の相違はありません。

一方、インドネシアで使われているジャワ語にある Kromo Inggil という言語はインドネシア語からかなりかけ離れていることがわかりました。

今度は Kromo inggil 語とクメール語の相関関係を調べてみようと思っています。



	Aceh	Cham	Tagalog	Ngoko	Kromo	K. Inggil
Indonesian	90	55	47	75	69	48
Aceh		63	32	41	32	20
Cham			36	33	24	15
Tagalog				32	21	15
Ngoko					123	85
Kromo						136

第 84 話　2018 年 10 月 24 日　カンボジアの民族音楽

2018 年 10 月 24 日に Pursat 州の Damnak Ampil 堰に視察に出かけたところ、堰の右岸側の売店からきれいな生の音楽が聞こえたので、ついふらふらと立ち寄ってしまいました。

弦楽器は二胡に似た楽器と、ベースの音を出すお琴のようなもの、それに木製の輪に革を張った平たい太鼓と、壺状の筒に革を張ったもののパーカッションがありました。

音はなんとなくビルマの音楽に似ているようで、二拍子の曲が延々と続いていました。

第 85 話　2018 年 10 月 31 日　インドネシアの呪術がカンボジアまで?

B 君は九月に体調を崩して帰国してしまい T 君が再出張した 10 月にはまだ復帰していませんでした。

B 君は昔からお酒より甘いものが好きで太っていたのと仕事に忙殺されていたために運動不足も手伝って糖尿病に罹り、半年間で体重が 10kg も落ちてしまいました。
一方の T 君は楽天的であまり仕事をしないのでここ数年間同じ体重を保ったまま、すなわち肥満傾向のままです。

さて T 君からの不思議報告です。

一緒に働いているマレーシア人の友人のフィアンセであるチャム人女性(カンボジアのムスリム)が腹部に異常があるようだから、T 君に診察してもらおうと彼女を連れて T 君の事務所に来ました。T 君は医者ではないのですが少々変な能力があり、内臓などの機能障害を見つけることができるとそのマレーシア人が知っていたからです。

T 君の見立てでは左側の卵巣に腫瘍がありそうだとのことでしたので病院で超音波検査をするのが良いとアドバイスしていました。

その二日後にこのマレーシア人がやってきて言うには、プノンペンの祈祷師に見てもらったところ、黒魔術に罹っているとのことで、腹部から釘や緑色の石などを取り出したとのことでした。この友人曰く、緑色の石はニャイ・ロロ・キドゥル(ジャワで畏れられている南海冥府の女王)の呪いのしるしだ、とのこと。

しかしながら、ニャイ・ロロ・キドゥルの話はほとんどジャワでしか聞かれないので、不思議に思っていると、この女性はマレーシアに行ったことがあるのでそこで呪いに罹ったのではないか、との答え。確かにこの女性は割ときれいな方ですから、誰かが惚れ魔術を使っても不思議はありません。

この話をカンボジア人の仏教徒の友人にすると、このような黒魔術、特に惚れ魔術、はチャム人独特のものであり、仏教徒にもかかることがあるそうで、仏教寺院でお祓いをしてもらったり、ムスリムの祈祷師の治療を受けたりするそうです。

仏教徒はこんなことしないのにムスリムたちは、と憤っていましたが、ムスリム側の意見も聞かないと一概に信じることはできません。

だって、黒術に使う霊体は大木が多い地域に多く分布していますから、森林が多いカンボジアの仏教徒の間でもこのような黒魔術があっても不思議ではないのみならず、同様な風土を持つタイでも黒魔術がしばしば使われているからです。

さて、今後の展開に注目していきましょう。このフィアンセの女性の容体が好転すればいいのですが。

註

ニャイ・ロロ・キドゥル Nyai Roro Kidul

チャム、チャンパ=占城

第 86 話　2018 年 10 月 31 日　カンボジアの黒魔術

T 君が大好きな黒魔術の続きです。

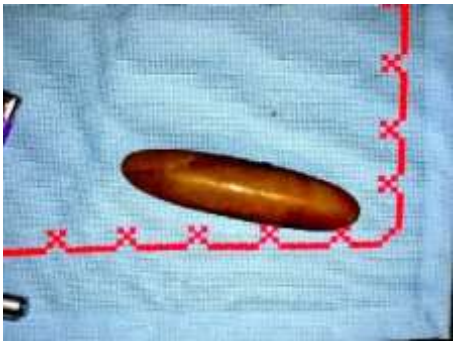
プノンペンでの仕事を終えてポーサットの町に着いたのはもう 4 時過ぎでした。

仕事を片付けた後、親しいカンボジア人スタッフに黒魔術の話を尋ねてみました。

仏教徒の間では憎悪からの黒魔術はあるのですが、惚れ魔術や命に係わる黒魔術は聞いたことがない

が、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒の間にはこの黒魔術が頻繁に行われているとのことでした。

あながち昨夜の話は嘘ではなかったようです。



このような黒魔術を避けるために Bamboo Pearl なるものがあるそうです。竹の中で見つかった石のことで、滅多に見つかるものではないそうです。また高価で取引されるので偽物も多いそうです。

インドネシアではこの石の話は聞いたことがありませんでした。インドネシアで聞いたことのある話は「雷の舌」という魔よけの石で、磨製石器のような形をしていました。左写真参照

竹の中で見つかるこの石はとても強力な魔よけの能力がありますが、誰でも使えるしろものではなく特定の人しかこの石を使って魔術をかけることはできないとのことでした。

東南アジア諸国では黒魔術が盛んだと聞いていましたが、ベトナムではもう廃っているようです。一方カンボジアの隣国タイではいまでも盛んに使われていると聞きます。タイと同様な文化と気候風土を持つカンボジアで黒魔術が存在しないわけはないと勘ぐっていましたが、カンボジアでの黒魔術の存在が今回ようやく明かされることになりました。

黒魔術には霊体(幽体)を相手に送り込み被害を与えるので、これらが存在しない地域では黒魔術が発展しないのです。

では幽体が多い地域はというと、古来人口が多く、また幽体の生息(?)には必要な巨木・古木が多い地域に限られます。巨木・古木が多い山岳部はもちろんのこと、カンボジアでは平地でもかなり大きな木が多いためにそこに住み着いている幽体がたくさんいます。

世界のお化け分布調査結果はこちら。

http://www.geocities.co.jp/omdoyok2008/Supernaturalism/SNlism-01/SNlism-01-3.htm

カンボジア人たちはこの黒魔術を怖がるあまりしょっちゅうお寺に参詣してお祓いをしてもらっているのでしょうか。

第 87 話　2018 年 11 月 04 日　カンポンチュナンの陶器窯

2018 年 11 月 4 日。日曜日。快晴。

仕事の虫のＢ君がいないことをいいことに、Ｔ君はポーサット在住の日本人女性二人と一緒にカンポンチュナン(Kampong Chhnang)の陶器窯を見に行きました。

この陶器窯はポルポト時代にすたれてしまったクメール焼きを復活させようと日本財団の資金援助で栃木県の益子から指導員を招聘して上り窯作りから始まりました。

この窯場の位置は N12 15.246 E104 38.115 です。GPS に入力してお使いください。

この工房に行く前に近くにある伝統的な素焼き製品を作っている窯場にも行ってみました。

窯場訪問の写真とその説明はこちら。

http://www.jpdo.com/kik8/278/joyful.cgi?read=4470&bbs=1&pg=0

伝統的な素焼きの窯場で作っている壺などの写真はこちら。

暑い中、皆さんお付き合いありがとうございました。

この後、近くの山に上って眺望を楽しみました。

カンポンチュナンとはクメール語で「鍋の港」という意味ですので、港を見学に行ってきました。これは次の報告で。

第 88 話　2018 年 11 月 05 日カンポンチュナンの陶器窯　続き

陶器工房を出て昼食を。

それにしても夕方までまだ時間があるので、T 君だけが行ったことのない水上村に行ってみようということになり、港に向かいました。港は陶器工房から約 5km 北方のトンレサップ河岸に位置しています。

そもそもこの町はクメール語でカンポン=港、チュナン=土鍋といういみで、昔から土器づくりが盛んだったようです。

ところで、カンポンというのはインドネシア語では「村=田舎=集落」という意味です。
大河がある地域では道路交通より水上交通が盛んでした。先住民のチャム人はもともと交易を生業としていたのでインドネシア語族の一部である彼らの言葉で集落を意味していたカンポンをクメール人たちは港の意味で理解したのかもしれません。

同じようなことがバンダル(bandar)とバンジャール(banjar)にも言えます。インドネシアのジャワ島の東側に位置するバリでは集落のことをバンジャールと呼ぶ一方、ジャワ島の西側に位置するスマトラ島の南端の港湾都市はバンダル・ランポンという名前です。またジャワ海を隔てたカリマンタンにはバンジャル・マシンという町がありその意味は「しょっぱい港」のようです。インドネシア語でしょっぱいはアシン=asin ですが、カリマンタンでは少し変形して masin というようです。海の港なら水がしょっぱいのは当たり前と思われるでしょうが、この町は大河で゜あるパリト川の河口に位置しているので海面は海水より軽い川の淡水で覆われているはずなんです。しかしここだけは潮流のためか海の水がしょっぱかったのでしょうね。

話は脱線しましたが、約 900km 離れたバリとスマトラ、約 600km 離れたカリマンタンでは同じ単語を集落と港と意味を変えて使っているんですね。

なぜ港が集落と関係するか? 人がたくさん住んでいなければ交易もできないし、船への飲料水と食糧の補給もできないからですよ。左の写真は港の風景です。

カンボジアの国道 5 号線、アジアハイウェイの 1 号線、はこの町を抜けてプノンペンとカンボジア中西部の都市を結んでいます。一方 1930 年代に建設された鉄道はカンポンチュナンを通らずプノンペンからほぼ直線でポーサットに至ります。というのはこの当時の大量輸送は、自動車と道路の技術が低かったため水上輸送か鉄道によるものでしたから、水運業者と競合する鉄道をカンポンチュナンを通さずに、プノンペンからひたすら田舎を通してポーサット経由でバッタンバンと結んだのでしょうね。

第 89 話　2018 年 11 月 10 日　廃棄された取水堰

前にもお話したとは思いますが、2018 年の春までは B 君も T 君も同じように腹が出た老人体型でした。仕事上のストレスなどから夏頃から B 君は糖尿病が悪化し激やせしていました。

一方の T 君は相変わらず老人体型を維持していますが、一念発起して毎朝 20km のサイクリングしています。

T 君は六月までインドネシアの山岳部に建設中の水力発電所の工事にも従事していました。このプロジェクトの宿舎は谷底に近いところにあり、谷底を走る道路以外、どちらを向いても急坂ばかりでしたのでさすがに自転車は使えず、毎朝往復 6km で平均勾配 10%の山道をぜーぜー言いながら歩いていました。

おかげで足腰はだいぶしっかりしてきました。

今朝もポーサット川沿いの道を約 12km 遡上してきました。まずは左岸側から Wort Loung という村にある伝説の将軍廟を左折してベリーブリッジ(工兵隊が作る臨時の橋)にさしかかると、上流側に取水堰の残骸がありました。

この取水堰は高さも足りないし、堰柱の間隔も短すぎて流木などが引っ掛かりそうでした。また右岸側は浸食されてそこを本流が流れています。どうみても設計が中途半端です。たぶんポルポト時代の残骸なのでしょう。こんな中途半端な堰を作るために何人の人が犠牲になったのでしょうか。犠牲になった方が不憫でなりません。

そろそろ水祭りの時期がやってくるのでペーロン競漕の準備をしていました。なんだか、政府の省対抗試合をするそうです。

良い週末をお過ごしください。

第 90 話　2018 年 11 月 25 日　カンポン=港

第 87 話で、カンポンはチャム語で「村」の意味だとＴ君がお話ししましたが、チャム人のスタッフに尋ねたところ、チャム語では「村」は別な言葉であるとのことでした。ちなみにクメール語でカンポンは港という意味だそうです。

このスタッフのおかげでチャム語の「否定詞」が分かり、二年間の宿題がすべて解決しました。

今回の出張中に、クメール語の数字を少し教えてもらったところ同語族のベトナム語とも少し似ていることが分かりました。

もう一人のＢ君は体調を崩してしまい、しばらく海外転勤・出張は無理なようです。

第 91 話　2018 年 12 月 02 日　海外の自転車

自転車についてのＴ君の感想です。

長期の海外出張の際には必ずと言ってよいほど滞在地で自転車を買って町を乗り回しています。一つは運転手の手配などをせずに自由にどこにでも行けることがあります。その次は「運動不足解消」です。

ここ二十年来アジア諸国で自転車で走った経験から、英式と大陸式には大きな違いがあることに気が付きました。

大陸式と英式では自転車のブレーキハンドルが逆です。日本は英式ですから左側が後のブレーキで右が前のブレーキです。英式のスリランカではこうでしたが、大陸式のベトナムやカンボジアでは逆でした。オランダの植民地であったインドネシアでは日本と同じでした。ベトナムとカンボジアは右側通行ですが、インドネシアは日本と同じ左側通行です。ということは左側通行の場合には左側が後ブレーキということになりましょうか。

インドネシアでは大陸式に自転車を鉄道に持ち込むことに抵抗がないようですが、日本もスリランカも自転車の持ち込みにけっこううるさい。これは自転車を生活用品と考える大陸式と自転車を交通機関として考える英式の違いなのかなあと思っています。

第 92 話　2019 年 03 月 07 日　B 君の復帰

B 君が体調を崩して 2018 年 9 月にこの仕事から手を引いてしまったので、この仕事では「爺さん一人」になってしまいました。

B 君は帰国後治療を重ねた結果数か月後にはもとの健康体に戻ることができました。T 君はそれをことのほか喜んでいました。

さて、T 君が 2019 年 2 月末に日本から到着した晩に、プノンペンの Wat Koh 近くの餃子屋に仕事仲間と夕食に行きました。

少しビールが回った時、いきなり 30 台前半と思われる女性が現れて、中国語(普通話)でまくしたててきました。

T 君が「僕らは日本人で中国語はわからない」とたどたどしい普通話で彼女に話しかけたのですが、そんなことはどこ吹く風。お構いなしに僕らには意味不明の普通話で延々と演説を続けたあと、とうとう僕らが飽きてしまうとみるとやおらスマホを取り出して若い女性の写真を次々に見せるのです。この写真は化粧モリモリでソフトで大幅に修正したものばかりでした。たぶんプノンペンのカラオケ屋かナイトクラブのプロモーションだったのでしょう。

この店の客は割と若い中国人ビジネスマンが多いので彼らへのプロモーションとしてこの彼女がいたのかもしれません。

しかし、なんでしょうねぇ。こういう中国人って人の話を聞かないんですねぇ。

多分、聞いて理解するのにはいろいろと考えなくてはなりませんが、まくしたてるのは一回考えたらそれ

だけでできますから、脳への負担が少なくなるからなのでしょう。

人の話を聞ける人というのは心に余裕があるひとであり、文化程度が高いように思えます。

第 93 話　2019 年 03 月 17 日　ありゃあ国際便に乗り遅れてしまった

この二人のじいさんたちは同じ仕事を海外数十国で続けて約半世紀になります。

たいていの出来事には耐性ができていて、いつも心の余裕がある(多分感性が鈍くなっているのかも)しれませんが、珍しいことが T 君の帰国時に立て続けに起きたので報告しましょう。皆さんのお役に立つかもしれません。

T 君はベトナム航空の PNH-SGN-NRT の航空券を買い求めてありました。

当日はプノンペンから約 250km 西に位置する Pursat 町を 8:00 に出発後、PNH の街でお土産を買って空港に向かいました。

町を出る時、チェックインにはぎりぎりにまにあうはずでしたが、道路が激しく混んでいていつもより一時間余計に、1 時間 40 分もかかってしまい、T 君が空港に着いた時には搭乗便(13:35 発)はすでに離陸済みでした。

こういう場合パニック状態になるのが普通の人ですが、この爺さんは落ち着いて事務所電話して、
①道路混雑のために予約便に乗りそこなったのでベトナム航空の次の便をさがすこと
②それに空席があれば予約するように

と指示しました。
まもなく、次の便の予約が取れたのでしたが、この便はエコノミー席のみだとのこと。

T 君が買った航空券はビジネスクラスのものでしたので少々不満でしたが、やむを得ずこれを受け入れざるを得ませんでした。

新しい予約はメールで送られてきましたが、T 君のスマホにはカンボジアの SIM が入っていないかったので、空港待合室ではダウンロードができませんでした。それで、free wifi のある空港内の Dining Garden で遅い昼食をとりながらメールをダウンロードすることができました。Dining garden でお勧めは「帝皇殿」の R08-Steamed Chicken Rice $5.5 です。おためしあれ。

諸外国に比べると日本国内では free wifi が使える場所が少なく「ネット後進国」といわれてもしょうがありませんね。

さて、搭乗の際にびっくり。搭乗する機体はカンボジア・アンコール航空の ATR72 という小型のターボプロップ機で、しばしばインドネシアのメダン・ロクスマウェ間などでお世話になったものでした。この飛行機は離着陸距離が短いうえに巡航速度が 550km/hr と早いために、世界中で使われています。

無事に SGN（タンソンニャッ空港)についてから、待ち合わせしている町までタクシーで向かう。以前は安くても US$13 程度でしたが、最近は US$10 で行けるようになりました。それだけ競争が激しいのでしょうね。

帰路は約 US$5 で行けてしまいました。どうなってるのベトナムのタクシー運賃?

成田便に乗り込んで、離陸後にシートをフラットにしてまっすぐ寝ようとしたのですが途中までしか下がりません。空席にかわればよかったのですが、疲れていたのでそのまま寝てしまいました。これが日本時間で午前三時頃。

食器の触れる音で目が覚めると時刻は6:30。飛行機は日向灘を通過中でした。トイレに行った際のCAさんの「朝ごはんは」という問いかけに「30分後」と答えたのが失敗。この後また寝てしまい気が付いたらもう九十九里浜でした。

機内食を食べ損ねてしまったのです。こんなことはここ四十数年間で初めてでした。

そんなわけで帰国便内での「天空レストラン」はありません。

いろいろな失敗は、ブログの話題になりますね。 次回をお楽しみに。

第94話　2019年07月19日　今回はバンコク経由で帰国

以下は T 君の報告。同君は少しマニアックなので細かいところにこだわりすぎているのかもしれない、と言っていた。

2019/7/03～7/17 までまたまた Pursat に出張してきた。出張先での仕事はおおむねうまくいって満足している。

さて、17日の便でSGN経由で帰国しようとしたら、SGN-NRTのベトナム航空が満席だった。他にはANAの直行便とTGのBKK経由があるので、前回のANAに懲りたためBKK経由を使うことにした。

前回ANAを使った際(2017/02/24 NH818 JA-803, B787) には、座席も狭くシャンパンをプラスチックのコップで出すなど、サービスが VN 便に比べて劣っているので、その点を指摘すると、「中距離便はこの機材です」という答えが返ってきた。「他社便ではもっと良い機材でよりよいサービスが受けられるぜ」というとCAさんは黙ってしまった。

今回のフライトで(2019/7/17, TG-642, HS-TEO) では ANA に比べてサービスがよいことが確認できた。

出色は乗り継ぎ時間の短さと、機内食の美しさだった。

ANA の場合は、PNH-TYO 直行便では競争相手がいないので古くて小さい機材を使っているのであろ

う。

もし ANA のサービスが他社と同程度なら使ってやってもいいんだが。

第 95 話　2019 年 10 月 20 日　プロジェクト終了

2016 年に 24 カ月の予定で始まったプロジェクトは三年半を超えてもまだ終わらない。

がんばり症の B 君は二年半ほど現場で頑張ったが、無理がたたって糖尿病が悪化し激やせして帰国せざるを得なくなりました。他方、のんびり屋の T 君は 10 月初旬から二週間の予定で現場にはいり検査等を行った上、客先スタッフに OJT(On the Job Training)を与えてきました。

B 君と T 君がこのプロジェクトに参画していた間に協力・激励いただいた世界中のみなさんにお礼を申し上げます。

これで「じいさん二人」のうち残っていたＴ君も最後のアサインメントとなり、このブログもそろそろおしまいにする必要が出てきました。

万が一このブログを最初から読んでいただいている方がいらっしゃれば、この方たちに感謝をささげたい。

このプロジェクトの後、ミャンマーの灌漑プロジェクトに行くことになったので、カンボジアとミャンマーなどを比較してみよう。

第 96 話 2019 年 12 月 11 日　今度はミャンマーへ

このシリーズをそろそろおしまいにしようと 10 月 15 日にカンボジアから帰国した時に思っていました。こ

れから一年間仕事がなさそうなのでゆっくりとシメを書こうと思っていたのですが、実は 11 月早々にミャンマーいる同僚から HELP が入り、手伝いに行くことになってしまいました。11 月 25 日に成田からヤンゴンに今度はビジネスクラスではなくてエコノミークラスで飛んできて、たった三週間の間に調査や会議で国内出張を四回も行うはめになり、「半ボケ老人をよくも酷使するなあ」とあきれているところです。

ミャンマーはインドシナ半島の西端にある国ですから、ミャンマー語はタイ語やクメール語、ベトナム語と同族だと思っていたら大間違いで、ミャンマーの国語であるビルマ語はシナ・チベット語族のに含まれるチベット・ビルマ語派に含まれるのだそうです。ミャンマーで会ったタイ人とベトナム人の友人に尋ねてみると「ビルマ語には我々の言葉と共通した部分がないので難しい」と言っていました。

そういわれてみるとミャンマーの人たちは山岳タイ族にも似ているようです。

ミャンマーでは男女ともロンジー(腰巻)をしている人が多く、男性にはキンマの葉に包んだ檳榔樹の実を噛んでいる人がたくさんいます。

男性用のロンジーは主に木綿地でインドネシア／マレーシアのサルン(腰巻)よりもわずかに短く、生地も厚く模様も異なります。

正装はロンジーなので、事務所で会う役人たちはスタンドカラーのシャツにロンジーが一般的です。

ロンジーはつけていると少しずつ緩むので、男性たちは人前をはばからず広げて巻き付けている姿をよく見かけます。インドネシアでこんなことをしたら顰蹙ものです。

巻き直しているところを上から見たことがないのでロンジーの下にパンツをはいているかどうかは定かではありません。

女性用のロンジーは木綿よりも肌にフィットしやすい化繊地のものが多いように見えます。結婚式などには絹地のロンジーを使うようです。

化繊のものは歩いているときの布の揺れ方ですぐわかります。決して触ったわけではありませんことをこ

こで申し述べておきます。

ロンジーはインドのベンガル語でもロンジーだそうです。一方、インドネシアのサルンはスリランカでもサルンですから、ロンジーという名は北インドから、サルンという名は南インドから東南アジア諸国に伝わったものと考えられます。

第 97 話　2019 年 12 月 13 日ミャンマー点描

カンボジアではなく、またまたミャンマーの話題。

現地通貨のチャットは英語では Myanmar Kyat で MMK と略します。チャットと呼ぶなら Chat と書いてもよさそうなのに Kyat と書くのか不思議に思っていました。

2019 年 12 月 08 日にヤンゴンの下町に遊びに行ったら、街の中心地にある中央駅のすぐそばに聖マリア大聖堂という名の巨大なカトリック教会が建っているではありませんか。不思議じゃありませんか?英国なら英国国教会が主流派なのに、なぜヤンゴンにカトリックの大聖堂があるのでしょうか。

ここで、筆者は考えた。

ひょっとすると、ヤンゴンはカトリック教徒のアイルランド人が大量にやってきたからではないか。このように仮定すると、ミャンマーの地名やその他の名前はアイルランド語風な表記なのではないかと。

++++++++++++

下町への行きがけは 36 番のバスに乗っていきましたが、同じルートを使っては面白くないのでホテルの近くの Parami 駅まで汽車で帰ってみました。運賃はバスと同じですが、列車は JR の中古車両で冷房はなく、

あちこちガタがきていた車両でした。

ヤンゴン中央駅の駅舎はスリランカのコロンボ駅より数段安づくりでした。ホームの屋根を支える柱にもあまり美的感覚が盛り込まれていませんでした。

信号は信号は腕木式ではなく電気式になっていました。

切符はホームで出発時刻少し前から売り出します。

一時間に一本程度のヤンゴン環状線は駅構内の多数のポイントを抜けてノロノロと進みやがて本線に入りましたが、やはりノロノロ運転でした。使用しているレールは 30kg/m 程度のもので、繋ぎ目の部分を車輪が通過すると激しく沈みますので垂直方向の揺れが激しく、時速 40km が max の様でした。この状態を改善するために我々の仲間が頑張っていますので、声援を送ってやってください。

ここミャンマーでは自動車は右側通行ですが鉄道は左側通行です。インドネシアと正反対です。というのはインドネシアの鉄道はオランダが作ったので大陸式であり、ミャンマーは英国式だったためでしょう。

ちなみに日本の鉄道は英国式で、腕木信号が水平の場合は「止まれ」で腕木が下がると GO です。大陸式の GO のサインは腕木が上がる方式です。

高速道路網が整備されたのと航空運賃が安くなったので、鉄道の運営はさぞかし大変でしょう。

ヤンゴンとマンダレー間、550km は飛行機で一時間、自動車で 6 時間、鉄道では 15 時間もかかります。列車の速度を上げられない理由は道床と保線の整備状況が劣悪なためです。ミャンマーと同じ軌間(1000mm)を使っているタイでは時速 100km で列車が走っているので線路の幅が狭いことは低速運転の必要条件には入りません。インドネシアの鉄道は狭軌(1067mm)ですが、保線が終了した部分では時速 110km も出せるのです。

ヤンゴンの周りの土地は熱帯スワンプですから地盤が弱いことは言うまでもありませんが、保線にお金をかければ地盤の弱点を克服できるのですが、資金がないためなかなか思うようにはいかないようです。

インドシナ標準軌道である1000mmゲージは、インドで1000mm軌道を広軌化した際に余った機材を東南アジアに運んで作ったためと言われています。1000mm 軌道はシンガポールからマレーシアとタイを貫通してカンボジアのプノンペンまでつながっています。しかしながらプノンペンとホーチミン市との間約 400km の鉄道は建設されていません。ホーチミン市からハノイを抜けて中国国境近くまでこの軌道はつながっているようです。

第 98 話　2019 年 12 月 17 日ミャンマー点描

今回、初めて行ったミャンマーとここ数年間で慣れ親しんだカンボジアの比較をしてみたい。

カンボジアとミャンマーの一人当たり GDP はそれぞれ USD1500 と USD1300 で東南アジア諸国の最下位を争っている。

ベトナムに平和が訪れたのは 1975 年で、カンボジアのポルポト政権が倒れたのは 1978 年だから、両国が経済復興し始めたのにはそれほどの差がない。一方ミャンマーの民主化が行われたのは 2010 年で、民間が自由に経済活動を行うことができるようになったのは前出の両国よりかなり後である。

ベトナムは共産党支配といわれて国有企業もあるが、民間企業が盛んに経済活動を行い、多数のベトナム人がミャンマーに出稼ぎに来ている。カンボジアは隣国のベトナムと仲が悪いので、ベトナム業者より中国業者が多数入っているようだ。

筆者の職業領域である鋼構造物の業界から見ると、ベトナムはもう一人立ちしていて、カンボジアでもだんだんと民間企業の技術力が高くなっていっているように見える。一方、ミャンマーは社会主義で政府優先の政策をとっていたため、民間企業にまともなものが少なく、官庁が所有する工場には立派なものがあるが、経済活動はそれほど盛んではないようだ。

現在ヤンゴン港の付近に大規模な工業地帯を建設中であり、そこには多数の日本企業が乗り込む予定となっている。工場の上屋などの鉄骨は主にベトナムから製品として輸入されていると聞く。

プノンペンとヤンゴンを比べてみると、ヤンゴンの方が道路が整備されていて緑も多い。また、どちらも割と平坦地に存在するのだが、プノンペンの方が直線道路が多い。またプノンペンはハノイやサイゴンのように道が狭くチマチマした建物が多いが、ヤンゴンはそれほどでもなく、都市の密集地域でも道幅が広い。どちらかというとヤンゴンの都市計画はマレーシアのものに似ているような気がする。

これは旧宗主国の都市計画への熱心度が異なったためだろう。イギリス本国では道路が狭い一方フランス本国では立派に広い道路がある。イギリスの植民地では広い道路と広い区画に重点を置き、フランスの植民地では建設費を安く済まそうとチマチマしたつくりになったのではないだろうか。

プノンペンの街の看板には漢字で書かれた中国人向けの広告が多いが、ヤンゴンではほとんど見かけなかった。カンボジアよりミャンマーの方が中国資本の参入が激しいと聞いていた割には漢字の広告が少ない。古都マンダレーは昔からの交易都市であったためわずかながら漢字で書かれた店名などが見受けられた。ミャンマーでも中国人はガサツなので嫌われているようだ。

前回書いたように、ミャンマーの国語であるビルマ語はチベット語族の一派であることから、彼らの先祖はミャンマー北部の山岳地帯がその源なのであろう。

ビルマ人はクメール人ほど人懐こくないが、礼儀正しい。

ミャンマーは鎖国が続いていたせいなのか、男性でも腰巻を巻いている人がほとんどだ。これは官庁の制服とのことであるが民間人も同様に腰巻姿が多い。

カンボジアでは腰巻はホームウエアとなっていたが、ミャンマーでは正装になっている。そのためか腰巻の布地の打ち込みと厚さが異なっている。カンボジアの腰巻は丈が短くて織が荒いから涼しい。ミャンマー

の腰巻は布地が厚い。透けて見えないようになっているのだろう。

第 99 話　2019 年 12 月 19 日　インドシナの人たちの名前

10 月に約三週間カンボジアに、11 月末からは三週間ミャンマーに出張した際に名前の音節の数が似ていることに気が付いた。

インドシナ諸国ではタイ人を除くほぼ全員の名前が三音節で出来上がっている。友人の名前を拝借してみると

ベトナム人: cao tran hanh, le hong ha など

カンボジア人: Va Srey Ron, Keo Sam An など

ミャンマー人: Chit Suu Csw, Kyaw Yee Win などである

ベトナムはもともと漢字国であり中華文明に影響を受けているので中国風でも疑問は湧かない。Cao や Le(黎)は名字だ。

カンボジアは最近になって中国の影響が大きいのだが、伝統文化が大きく響く名前には新しい文化はあまり入らないだろう。

ミャンマーは中国と長い国境を接しているとはいえ、この国境地帯は山岳民族の住む地域なので、中華文明が南部の平地の文化に深く入り込むことはなかったろう。

カンボジア人もミャンマー人も名字はない。

シノ・チベット語族とインドシナ半島で使われているオーストロアシア語族では一つの意味を単音節で表現しようとしたので、その習慣が名前にまで影響して三音節になっているのではないだろうか。

ひとつの意味を単音節で表現しようとすると子音も母音も種類を増やさざるを得ない。これが日本人にとってこれらの言語習得に障害となっているのは言うまでもない。

知識が増えれば増えるほど疑問も増えてくるのである。この疑念について考えることは半ぼけ老人にとってボケ防止にはなろうが、取り付く島もない、というのが現況である。

第 100 話 2019 年 12 月 19 日　ポルポトの大虐殺

2016 年 5 月に初めてカンボジアに着く前からポルポト時代の虐殺事件があったことは知っていました。

カンボジア軍がベトナム領内に侵入して村人を数千人殺戮したことに起因して 1978 年末にベトナム軍がプノンペンに侵攻して初めてポルポト政権による大虐殺があったことが世界に知られることになったのです。

この当時を知る人たちに話を聞くと、「何も言わない、逆らわない」ことが生き抜くための最良の方法であったとのこと。当時、賦役に強制的に駆り出された人たちには今でも体調不良を訴える人がたくさんいます。

プノンペンにはトゥール・スレンという虐殺博物館があります。ここには虐殺された人たちの頭蓋骨が多数収納されているので観光で訪れた人も多いことでしょう。しかし、筆者はお化けに憑依されやすいたちなので一度も言ったことがありません。鳥肌が立って膝ががくがく震え、頭が痛くなるからです。

駐在していたポーサットの町の学校もこの虐殺現場でしたので、最初はそのそばを通るのも避けていましたが、数年間の滞在ののちにはそれほどの影響もなくなってきました。

自分の執政の邪魔になる知識人たちを虐殺して国民総白痴化を推進するといった毛沢東の文化大革命もどきのことをポルポトは行ったようです。その結果、カンボジア人の識字率は極めて低く街頭の新聞スタンドも見かけない現況ですし、市場で買い物しても新聞紙でくるんでくれることもありません。今でこそ子供たちは国語のクメール語の読み書きができるようになったとはいえ、65 歳以上の人たちには文盲がたくさんいると聞きます。

ポルポトの本名はサロット・サルといいますが、人々は politician potential にあたるフランス語の単語を縮めてポルポトと呼んでいたらしいのです。ポルポトはクメール・ルージュの指導者でしたが、内部抗争の結果、カンボジア西部の山の中に立てこもっていて 1998 年 4 月 15 日に死亡しました。死因は心不全とのことですが、食道に焼け焦げた跡が見られますので実際には青酸カリなどで毒殺されたのではないかと思います。

今の平和なカンボジアを見る限り、40 数年前にはこんな状況であったことは想像もできません。また同僚の話を聞くとカンボジアの学校ではポルポト時代の大虐殺については教えていないようです。

仏教徒は平和的だとは言われますが、ポルポトの蛮行を見る限り仏教的観念がその人の心奥深く流れていても、共産党独裁政権の圧力には抗しきれなかったのでしょう。

第 101 話　2019 年 12 月 30 日インドシナ諸国の歴史

カンボジアに滞在していた時に、彼らがベトナム人を好まないということを聞きました。

カンボジア人よりベトナム人のほうが商売熱心でこすっからいからかな、と思っていました。

ベトナムからミャンマーまでのインドシナ諸国諸国の歴史年表を作ってみてしみじみと感じ入りました。

インドシナ諸国の中で最初に大帝国を作ったのはカンボジアのクメール人だったんです。それが9世紀でした。その当時に競合する国といえば、東にチャンパ、南にスリヴィジャヤしかありませんでした。チャンパは現在のベトナム南部にあった王国で主に通商で稼いでいた国です。

12 世紀にはクメール帝国とチャンパ王国が何度も闘いました。

13 世紀後半になるとフビライハンの軍がカンボジアとベトナムに侵攻してきました。

15 世紀になると西の隣国タイの王がクメール帝国に攻め込んできました。これとほぼ同時期にタイのアユタヤ王がミャンマーに侵攻してきました。

16 世紀にはタイとミャンマーの間で何回も戦争が起きました。

19 世紀にはタイがカンボジアに侵攻し、その数年後にはベトナムがカンボジア全土を掌握してしまいました。

20 世紀になってポルポト時代の後半の 1979 年にベトナム軍がプノンペンを占領してポルポトの大虐殺か世界に知られるところになりました。

どうもこのように、栄華を誇ったクメール民族を新興のベトナム人が支配するという形がカンボジアの人たちには気に食わないようです。カンボジアの文化はベトナムよりタイに似ているので、タイには親近感を持っているようです。

年表を作っていて分かったことは、インドシナ半島で最初に山から平地に降りてきて 5 世紀ころに大きな都市を作ったのは北方クメール人だったようです。その前にチャンパ人たちが寺院建築などを行っていましたが(ミーソン)、土地の関係から大きな都市を形成することはできなかったようです。

この当時タイ人の祖先は揚子江以南の地域から南と西に移動し始めたようです。タイ人国家が強大になるには 13 世紀まで待たなければなりません。

11 世紀になるとミャンマーでもようやく王国が誕生しました。16 世紀にはタイとの戦争が多発しました。

ずらずらといろいろと書きましたが、疑問に思っているのは「七世紀ころに山間部から平地部に降りてきたのはなぜだろう」ということです。

日本の明日香も丘の上にあり平地ではありませんが、平城京は平地の中に位置します。なぜこの時期に皆さんは平地に降りてきたのでしょうか?

（完）

総目次へ戻る　エッセーの目次へ戻る